

五十周年記念誌



公益社団法人

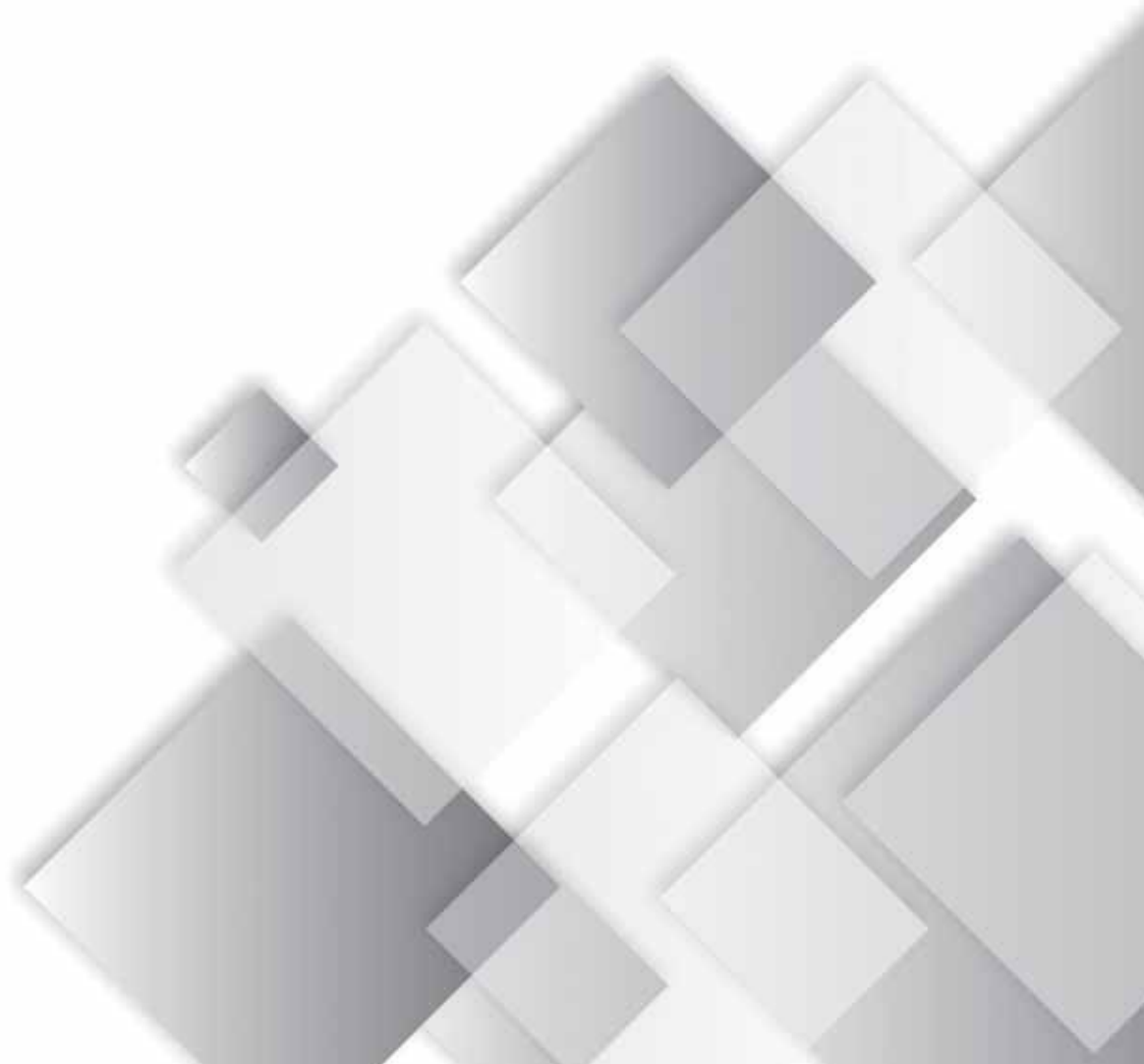
北海道理学療法士会

目 次

会 長 挨 拶	1
50周年記念寄稿文	5
50周年記念座談会	19
50周年記念事業	39
年 表	45
表彰受賞者一覧	85
歴 代 役 員	91
歴代支部長	101
歴代代議員	107
会員数・施設数	113
編 集 後 記	



会長挨拶





創立50周年にあたり

公益社団法人北海道理学療法士会

会長 太田 誠

北海道理学療法士会が昭和44年に創立され、ここに50周年を迎えることができました。これもひとえに関係各位をはじめ、本会会員のご理解とご支援があったることと心よりお礼申し上げます。

本会は、昭和44年2月1日に第1回～第3回目の道内国家試験合格者全員（29名）が参加した総会により誕生しました。その後、平成3年4月には北海道から社団法人の許可を受け、法人格を持った団体へと生まれ変わり、平成22年11月に現在の公益社団法人へと移行しました。会員数も約6,000名になり大所帯となっております。

創立当初より北海道内の理学療法の充実と発展を図ることで、地域医療の推進と道民の健康及び福祉に貢献することを目的に事業展開を続けてきましたが、平成28年に北海道作業療法士会及び北海道言語聴覚士会と一緒に「北海道リハビリテーション専門職協会」を一般社団法人として設立することができました。2025年を目前にした今、地域包括ケアシステムの確立に向けて多職種連携を進め、道民の健康と福祉の向上に寄与できればと考えております。

さて、去る9月29日にはANAクラウンプラザホテル札幌において、創立50周年記念式典・祝賀会を挙行することができ、高橋はるみ知事をはじめ多くの関係団体の皆様、国会議員・道議会議員の皆様にご参集いただきました。そして、式典の中では永年にわたりご活躍いただいた方々に対し、知事感謝状、医技協感謝状、士会長感謝状、福田賞、賛助会員・協賛企業感謝状の授与を行うことができました。受賞された皆様に心から祝福を申し上げ、今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

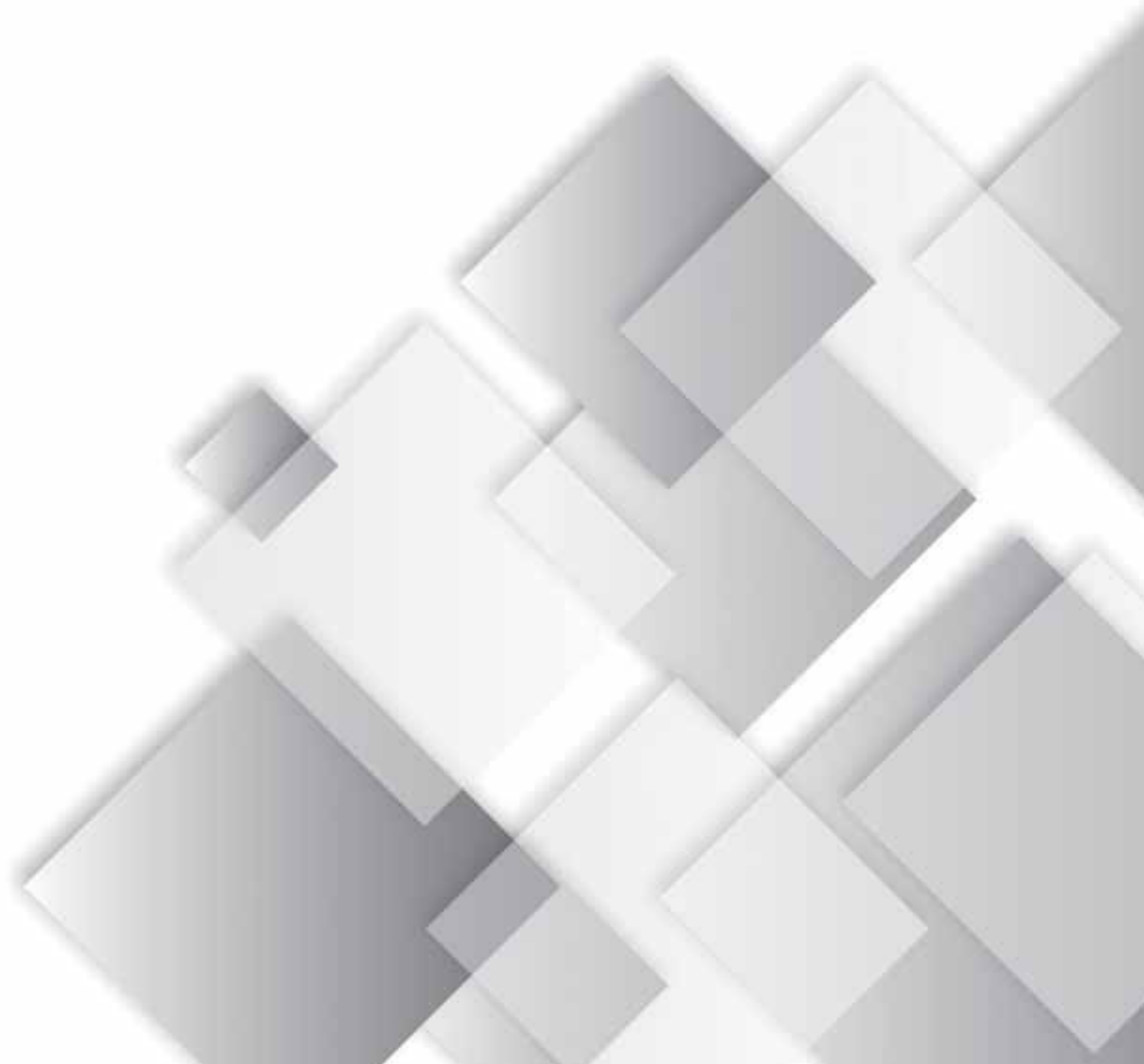
本会にとっては記念すべき年ではありましたが、9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、多くの方が犠牲になりました。ここに謹んでご冥福と御見舞を申し上げます。本会としても復旧・復興に向けて多くの方と力を合わせて支援していく所存でございます。

最後に本会の歩んだこの半世紀は、多くの諸先輩が築き上げた歴史の積み重ねの結果であります。50年前に産声を上げた北海道理学療法士会が大きな節目を迎えました。超高齢社会という大きな波を乗り越え、次の50年を明るい未来にするためにも皆様と一緒に一步一步前に進んで行ければと考えております。

創立から今まで支えていただきました皆様に感謝を申し上げ、引き続きご指導、ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。



50周年記念 寄稿文





創立50周年を祝して

北海道知事 高橋 はるみ

公益社団法人北海道理学療法士会が、創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴会におかれては、昭和44年の創立以来、社会経済情勢や医療を取り巻く環境の変化に対応されながら、本道における理学療法の普及向上に努められ、地域の保健医療の一翼を担ってこられました。

現在では、会員約6,000名を擁する公益社団法人として発展を遂げられており、太田会長をはじめとする歴代役員、会員の皆様これまでの多大なるご尽力に、深く敬意を表します。

また、昨年9月6日に発生した北海道胆振東部地震に際しまして、速やかに、災害リハビリテーションチームを編成され、避難所を巡回しながら、被災された方々の身体的な機能低下の防止や負担軽減に向けてご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、高齢化が急速に進み、地域における医療提供体制の確保は急務となっています。道では、急性期から、回復期、慢性期、在宅医療や介護等に至るまで、切れ目のないサービスが提供される体制の構築を目指し、平成28年策定の「北海道地域医療構想」や、昨年3月に策定した新たな「北海道医療計画」に基づき、効率的で質の高い医療提供体制と、医療と介護が連携した地域包括ケアシステムの構築を一体的に推進しています。

こうした中、貴会におかれては、平成28年3月に、北海道リハビリテーション専門職協会を立ち上げられ、地域包括ケアシステムを念頭におきながら、関係団体の皆様とともに、研修会の開催や地域のリハビリテーション指導者の育成に取り組まれるなど、本道の保健医療福祉の充実に多大なるお力添えをいただき、感謝申し上げます。

道としましては、引き続き、道民の皆様が安心して暮らすことができるよう各般の施策に取り組んでまいりますので、皆様の一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、公益社団法人北海道理学療法士会が、これまでの輝かしい歴史を礎として、ますます発展されますとともに、会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



50周年記念誌発刊に寄せて

札幌市長 秋元克広

この度、公益社団法人北海道理学療法士会が創立50周年を迎えられるとともに、創立50周年記念誌が発刊されますことに対し、心からお祝い申し上げます。

また、これまで50年の長きにわたり、貴会の発展のために御尽力をされてこられました歴代の会長をはじめ、会員の皆様の御努力に改めまして敬意を表します。

貴会の皆様方におかれましては、日頃より北海道民の保健・医療・福祉の向上のため、専門職の視点からきめ細やかに活動されておられますとともに、札幌市におきましても介護保険法や障害者総合支援法における各種事業のほか、地域リハビリテーション推進事業などに会員の皆様方のご協力をいただいておりますことに、改めて厚くお礼申し上げます次第でございます。

さて、本年9月6日には、北海道ではかつて経験のない規模の北海道胆振東部地震が発生し、多くの北海道民が被災したところであり、今もなお仮設住宅などでの生活を強いられている方も多くいらっしゃいます。札幌市といたしましては、被災された方々が一日も早く元の生活を取り戻すため、そして札幌・北海道が以前のような活気を取り戻すために、被災された方々へ思いを寄せながら、復興に向けた取り組みを全力で行って参ります。

皆さまにおかれましても、引き続き本市の保健福祉等の施策に対しまして専門職のお立場から御助言を賜りますとともに、「いくつになっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくり」の実現に向けて、御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに当たりまして、北海道理学療法士会のますますの御発展と会員の皆様が、より一層御活躍されますことを期待いたしますとともに、皆様方の御健勝と御多幸を心から祈念いたしまして、記念誌発刊のお祝いの言葉とさせていただきます。



創立50周年を祝して

一般社団法人北海道医師会

会長 長瀬 清

この度、北海道理学療法士会が創立50周年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。

貴会は、北海道における理学療法の充実とその発展を図ることで、地域医療の推進と道民の健康及び福祉に貢献することを目的として、昭和44年2月に当初29名の会員によって誕生されたと伺っており、この度、記念すべき節目の50年をお迎えになられたことは、取りも直さず、先人の方々の並々ならぬご努力と、これまで会の運営に携わってこられた太田会長をはじめとした皆さま方の今日まで脈々と受け継いでこられたご尽力によるものと、心から敬意を表するとともに、今後とも貴会の活動にご期待申し上げます。

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの確立に向けた在宅医療の体制整備は不可欠で、在宅医療は決して医師だけでは完結できるものではありません。理学療法士の皆さま方を含めた、さまざまな医療・介護職種の方々との緊密な連携・協働が重要な要素であることは言うまでもありません。

北海道医師会といたしましても、道民の健康保持増進のため、真摯に取り組んでいく所存でありますので、貴会ならびに会員の皆さま方におかれましても、今後も引き続き社会的信頼の維持向上に努められ、一層の飛躍を果たされますことを期待いたしております。

末筆となりましたが、50周年を契機として、貴会のますますのご発展と会員の皆さま方のご健勝を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

一般社団法人札幌市医師会

会 長 松 家 治 道

この度、北海道理学療法士会が創立50周年を迎えられましたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

50年という長い歴史の中で、医療技術は目覚しく進歩し、それに伴い、疾病構造も大きく変化をしてきております。求められる理学療法のあり方も、病後のリハビリのみならず、予防医学としての観点にも目が向けられており、そのような中で、各種事業にご尽力されてきた太田会長はじめ、歴代役員・会員諸先生のご努力に、深甚なる敬意を表する次第であります。

北海道理学療法士会は、札幌オリンピックを間近に控えた昭和44年に設立され、このオリンピックでは医療班の一翼を担われたと伺っております。また、大規模なスポーツイベントでの医療サポート等をされる一方で、近年では「地域包括ケアシステム」の推進にも、積極的に取り組まれております。

私ども、札幌市医師会におきましても、「地域包括ケアシステム」の推進を最重要課題とし、高齢者の方々が住み慣れた地域で、安心・安全に暮らすことができる体制の整備に取り組んでいるところでありますが、急性期から回復期、慢性期まで、患者の状態にあった医療提供を、地域の中で完結させるためには、多くの職種が連携していかなければなりません。殊に、予防的効果を持つ理学療法につきましては、地域医療と高齢者の方々と繋ぐ、重要な要素であると考えております。

今後とも、道民・市民の健康増進と、そして、病で苦しむ方々や高齢者の方々が、少しでも不自由なく、日々の生活をおくるために、地域に寄与する活動を期待するとともに、より実効性のある「地域包括ケアシステム」の推進に向け、ご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、記念誌の編纂に携わられました方々のご尽力に心から敬意を表しますとともに、会員の皆様方のご健勝とご多幸、また、この50年間の輝かしい実績を築かれてきた「北海道理学療法士会」が、今後益々発展、飛躍されますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



50周年記念誌発刊に寄せて

北海道リハビリテーション学会

会長 生駒 一 憲

公益社団法人北海道理学療法士会創立50周年、誠におめでとうございます。また、歴史ある貴会の記念誌に寄稿させていただく機会をいただいたこと、大変光栄に存じます。

貴会のホームページを拝見いたしますと、昭和44年の創立後、順調に発展を遂げられたことがよくわかります。講習会、研修会が道内各地で行われており、また、理学療法士の子育て支援、復職支援など会員への充実したサポートが行われています。さらに、貴会会員に対する活動だけではなく、一般社団法人北海道リハビリテーション専門職協会の設立母体の一つとして道内のリハビリテーション活動の推進を図り、道民の健康と福祉の向上にも取り組んでおられます。先日も北海道胆振東部地震で被災した厚真町や安平町で、高齢住民への介護予防教室を開催されたことが新聞で紹介されておりました。このような、社会的貢献を積極的にされていること、多大なる敬意を表する次第です。

ところで、私が会長を務めております北海道リハビリテーション学会は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士のみならず、医師、看護師、社会福祉士など広くリハビリテーションに関係する職種が一堂に会する学術団体ですが、この学会を支えていただいている主要団体の一つが公益社団法人北海道理学療法士会です。太田誠会長には、お忙しい中、理事を務めていただいております。

今後も公益社団法人北海道理学療法士会と北海道リハビリテーション学会がお互いを補う形で発展できることを願い、私のお祝いの言葉を終えたいと思います。



50周年記念誌発刊に寄せて

公益社団法人北海道作業療法士会

第8代会長 清水 兼悦

このたびは、公益社団法人北海道理学療法士会が創立50周年を迎えられ、記念誌を発行されることに、こころよりお慶び申し上げます。また、50年間にわたり、北海道のリハビリテーションを開拓し、今日に至るまでのご尽力に深く敬意を表します。

昭和40年6月に「理学療法士及び作業療法士法」が成立した約3年半後の昭和44年2月に、貴会は第1～3回目の道内国家試験合格者全員（29名）により誕生したと伺っております。私たち北海道作業療法士会も半年ほど遅れて昭和44年10月に、8名（合格者は20名いたようですが…）の先達により誕生したと伺っております。

この50年、貴会はいつも当会の先輩格として、北海道におけるリハビリテーションの充実とその発展にご尽力され、地域医療の推進と道民の健康及び福祉に貢献する事業活動を継続されてきました。その間、私は、学生時代に貴会の第4代会長である福田修先生の薫陶を賜って以来、第5代の宮本重範先生、第6代の水本善四郎先生にご指導を賜り、現職第7代の太田誠先生には、学生時代から一期先輩としてご指導いただき、さらに札幌山の上病院の創立、そしてともに平成21年度に会長に就任して以来、今日においては、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう地域包括ケアシステムの構築にむけて、一般社団法人北海道言語聴覚士会とともに、平成28年2月に一般社団法人北海道リハビリテーション専門職協会を創立し、北海道の地域医療介護総合確保基金事業を受諾するなど、当会もようやく同輩格として機能できているように思います。

これからも当会は、貴会とともにリハビリテーション専門職として、ときにユニゾンであり、ときにハーモニーであり、ときにソロとして活動してゆくことができますよう、努力してゆく所存にありますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

末筆となりましたが、貴会及び貴会の会員が、北海道179市町村550万人の明るい未来の構築に向けて、ますますご健康でご発展されることを心より祈念しております。



公益社団法人北海道理学療法士会 設立50周年に際し

一般社団法人北海道言語聴覚士会

会長 小橋 透

この度は、北海道理学療法士会が設立し50周年を迎えられますこと、心よりお喜び申し上げます。十年一昔とよく言いますが、近年は様々な分野において年々、いえ日々進化しておりますので、半世紀という節目を迎えられることは諸先輩方のご苦勞も並々ならぬものと容易に想像できます。また、私ども北海道言語聴覚士会は20年の節目を迎えようとしており、この間の様々な出来事を考えると、貴会が多くの事業を継続し発展してこられたことに深く敬意を表します。

さて、この数年は貴会との連携強化が進んでおります。特に包括ケアシステムの推進や災害リハビリ支援においては、作業療法士会との三士会で取り組むことが増えております。共に取り組むというよりは、道をつけてもらい、その道をはぐれないようについていくといった状態であるのが正直なところで、ともに同年代の会長ではありますが、その組織体制や政治力の違いからか、自分がずいぶんと子供のように感じております。私たち言語聴覚士は歴史がまだまだ浅く、組織的にも未熟でありますので、今後も貴会に倣い追いつき発展していきたいと考えておりますので、今後ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

また、会の活動だけでなく個々の臨床の場面においてもこの50年はずいぶん変わってきております。医療を取り巻く環境だけでなく、リハビリテーションの考え方や知識や技術の発展はもちろんのこと、対象者やセラピストそのもののあり方など、働き始めた頃とは大きく異なると実感しております。とはいえ、時代とともにリハビリテーションのあり方やニーズは変化しておりますが、QOLの向上のため、その人らしく生活するための支援をするという思いは変わっていないと感じておりますし、今後も変わらないものと信じております。

次の百年への第一歩を踏み出す今、その思いは変わらずに、新しい将来に向かって貴会の活動がますます発展されますことを心からお祈りいたします。



北海道理学療法士の 創立50年をお祝いして

公益社団法人日本理学療法士協会

会長 半田 一 登

大塚会長の下で29名の会員をもって昭和44年に創設されました北海道理学療法士会が、50周年を迎えられたこと誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。現在の会員数が約6千名ということを見ると隔世の感がありますが、これまで組織活動を支えてこられました数多くの役員及び会員の方々のご尽力の賜物と思います。組織は人のつながりです。本当にお疲れ様でした。

個人的なことで恐縮ですが、二つほどの思い出話を書かせていただきます。今から20年以上前になりますが、協会理事として「士会担当」と「ブロック担当」をしていました。ある時、ブロックに予算をつけることになりました。その時、1士会1ブロックである北海道理学療法士会をどのように扱うかで大きなもめ事になったのです。他のブロックを納得させるのに大変苦労したことがありました。もう一つの思い出は、福田会長の時代に士会法人化の方針が協会で打ち出され、私の居りました福岡と高知そして北海道の先陣争いとなりました。最終的には、福田会長に先を越され悔しい思いをしました。今となっては、両方とも大切な懐かしい思い出として私の心に残っています。

地域包括ケアシステムとは、地方の時代の本格的な幕開けと位置付けることが大切です。今後は、北海道庁や数多くの市町村と渡り合っていかなければなりません。公益社団法人としての真価が問われることとなります。これまでに十分に培ってこられた、医療技術者やリハビリテーション専門職協議会の経験を生かす絶好の機会でもあります。

これからも、太田現会長の下で北海道理学療法士会会員が一致協力して、北海道民の「健康づくり」「予防」「介入」、そしてリハビリテーション医療に貢献されることを心より期待しております



創立50周年記念に寄せて

北海道理学療法士会

第4代会長 福田 修

北海道理学療法士会は昭和44年2月1日北大病院で第1回・第2回・第3回理学療法士国家試験合格者29人で創立総会を開催して誕生しました。そして月日を経て、平成30年9月29日創立50周年記念式典・祝賀会が開催されました。この時点での会員数は5990余人、本当におめでとうございます。

小生は第4代会長として昭和56年から平成9年まで8期16年務めさせて頂きました。この間、印象に残る大きな事業は学術面で昭和56年に開催した第16回全国研修会です。この年、道内で初めて理学療法士・作業療法士養成のため開設された北海道大学医療技術短期大学部一期生の理学療法士・作業療法士の学生も参加し将来の道しるべを感じたことと思います。

次いでの実業は、平成2年に第25回日本理学療法士学会「四半世紀のあゆみ—新たなる展開」を札幌で開催したことです。この学会ではアメリカ理学療法士協会のマシューズ会長を招聘し、アメリカでの歴史と今後の課題について講演して頂き、日本理学療法士協会の進む道標とすることができました。この学会で外国の要人を招聘したことが先駆けとなり、以後の全国学会・全国研修会で外国の要人を招聘する気運が高まってきました。

対外的な面では、昭和63年に札幌市高齢者等サービス総合調整推進会議委員、平成2年に北海道脳卒中地域ケアシステム検討委員、平成3年にはユニバシアード札幌大会医療班に参画、4月には北海道より法人格が認可され、社団法人北海道理学療法士会が新たに発足しました。さらに平成4年に北海道医療技術者団体連絡協議会会長、平成5年には北海道特別老人ホーム老人保健施設サービス評価委員等に参画してきました。

社会が理学療法士に期待する領域は、保健・医療・福祉・地域と益々拡大しております。期待に応えるためにも日々努力して次の75年・100年に向かって行かなければなりません。ご発展を祈念しております。



北海道理学療法士会 創立50周年を迎えて

北海道理学療法士会

第5代会長 宮本重範

1970年に九州リハビリテーション大学を卒業して以来、理学療法士として48年が過ぎようとしている。今、振り返ると波乱の人生を歩んできたようである。理学療法をアメリカ人講師から学び、先進国の理学療法を直に観てやろうとアメリカ留学を志した。1972年1月から1年半、クリーブランド市のハイランドビュー病院にて理学療法の研修を終え、その後、カナダに渡って小児の急性期病院、老人総合病院で英国式の理学療法を体験した。カナダの理学療法士国家試験に合格した後、マニトバ大学で学び、臨床のあり方を学んだ。卒業後はアルバータ州の総合病院に勤務して地域医療や医療行政を学ぶ機会を得た。

自分が学んだこと全てを若い人達に伝えたいと、1983年に札幌医科大学に赴任した。理学療法士の教育に携わりながら北海道理学療法士会の理事諸氏とともに本州には負けないぞという気概で16年間、士会や協会の活動に携わってきたが、その団結力が今日の士会の発展に繋がっているものと思う。

本土会が1990年に第25回日本理学療法士学会を担当したことは鮮明な記憶として残っている。その準備に際し学会場の変更や予算増額に関わる諸問題等が生じ、その解決のために福田修学会長をはじめ高橋正明準備委員長、酒井喜代司副学会長、斎藤博財務部長等は大変ご苦労された。結果として、学会は大成功であった。私は副学会長として、本学会のテーマである「四半世紀のあゆみと展望」に最も相応しい特別講演者としてアメリカ理学療法士協会長の招聘を提案し、Jane S. Mathews先生に依頼の手紙を書き、快諾を得た。

Mathews先生の講演は期待した通り素晴らしい内容であり、69年間に渡る協会の歴史を通して、理学療法業務の現在の位置づけ、教育・研究の現状、そして将来の方向性について苦労話も入れながら具体的に話をして頂き、その後の我国のPT協会の指針として大いに参考になった。特筆すべき活動としては、業務に関して、理学療法士の直接診療の立法化、理学療法専門分野の資格認定委員会の設立、教育面では既に修士号を取得できる教育機関が半数に達し、博士号取得のために協会は助成金を支給している。また、研究においては理学療法基金を設置し、大学を中心に臨床研究センターを設立中であるとの話にアメリカPT協会の歴史的な重みを感じた。

第50回日本理学療法学会大会において、WCPTの役員から我国の理学療法士の研究の質の高さに対し賞賛の言葉があったが、私どもの業務に関してはアメリカが乗り越えてきた障壁がまだ課題として山積みされており、今、改めてこの講演内容を重く受け止めて、今後、更なる発展を期待する次第です。



50周年記念誌発刊に寄せて 「回顧」

北海道理学療法士会

第6代会長 水本善四郎

先人達が蒔いた種が、50年経過した今大輪の花を咲かせ大地に確りと根を張り、このように大木となる事を誰が予想することが出来たでしょうか。・・・改めて士会創立50周年おめでとうございます。

私が士会運営に携わり始めた頃は、まだ会員が100名以下で学会・研修会を企画するも予算が限られ、赤字になった時の処理に頭を悩ましておりました。しかし、当時の先生方は向学心に燃え、熱心で、士会運営に協力的な方が多く常に80%以上の参加を頂いておりました。

当時、公文書作成は手書きかタイプライターで文書作成を依頼している状況で、のちにワープロの普及に伴い事務処理が非常に楽になり昭和の時代の懐かしい思い出の一つとなっております。更に平成の時代に入ると養成校の急増に伴い会員数が右肩上りに増加の一途をたどり、事務局機能の充実と組織の再編が急務となって来ましたが、IT技術の進歩により身近にPC導入が可能となり事務処理が非常に進歩して、今日の事務局機能の礎を作ることが出来ました。

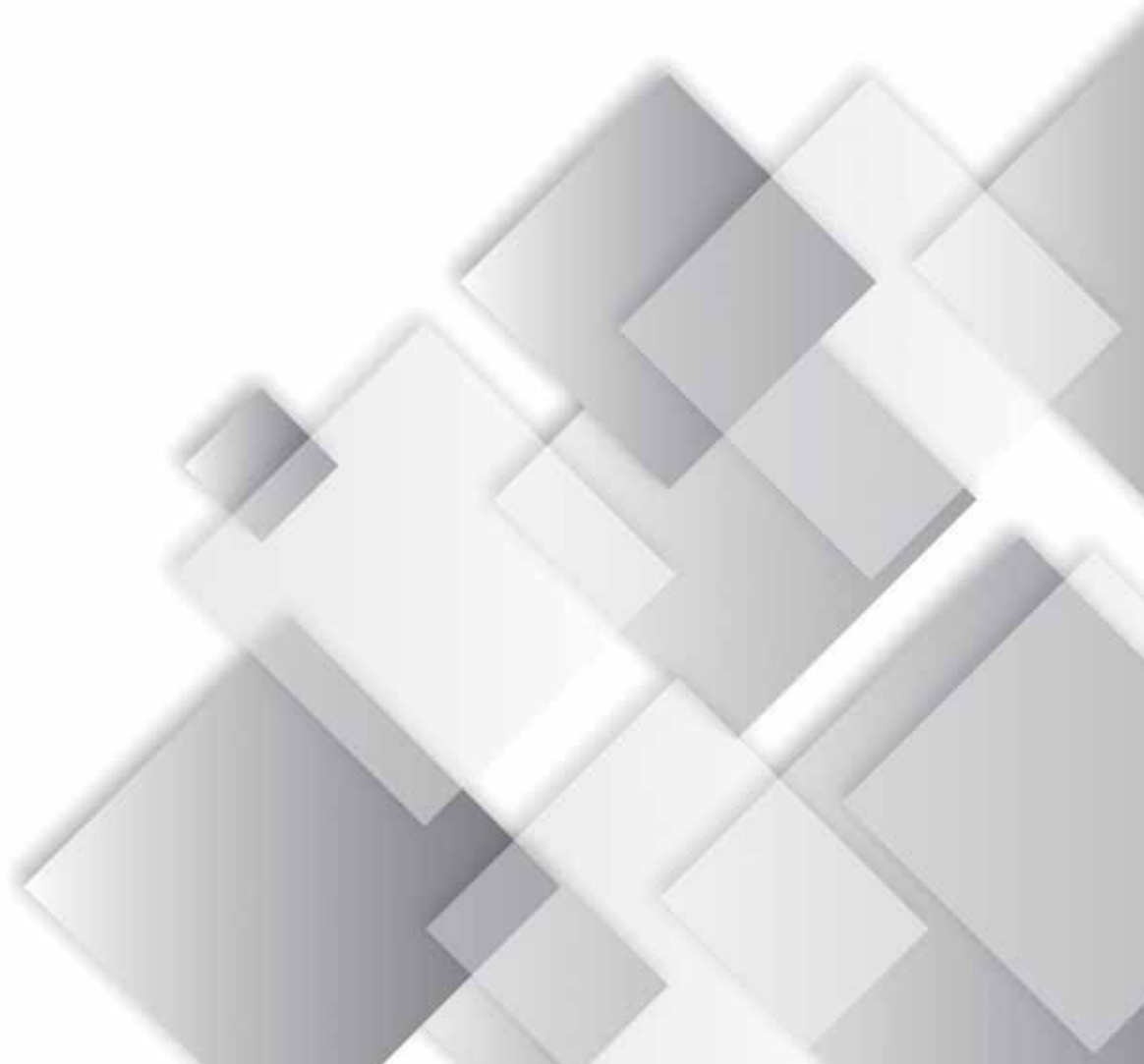
士会運営を行う上で行政との関係構築には非常に困難なことが多く、他の医療技術者団体の運営方法を参考に、早く他の団体と肩を並べ対等な力関係を築くことに力を注いだ甲斐あって、平成3年に法人格（社団法人）を取得し、行政の窓口対応が180度変化したことが一番の思い出として残っております。

今後に向けて、会員数の増加に伴い若い会員の教育体制の強化、新たな政策の制度改革に伴う会員の研修体制と自己研鑽の構築、時代のニーズに合った組織体制の強化、地方の人口減少に伴う過疎の問題と地方組織の在り方が問われてきます。しかし、これからの理学療法士は成熟した専門職としてあり続けると共に、医療、介護分野のリーダーとしての地位を築き、将来に向けて希望の持てる職業として市民権を得た今、幅広く社会に貢献して活躍できると思います。今後益々の発展を願っております。



50周年記念 座談会

— これからの10年、何を指すべきか —



座談会出席者



服部 研祐	北海道胆振総合振興局保健環境部 苫小牧地域保健室	分野：保 健 所
高橋 由依	北海道大学大学院医学院 腎泌尿器外科学分野	分野：ウイメンズヘルス
廣田 健斗	札幌医科大学大学院 保健医療学研究科生体工学・スポーツ整形外科学分野	分野：基 礎 研 究
杉浦 宏和	市立札幌病院 リハビリテーション科	分野：急 性 期
山内 聡美	整形外科北新東病院 リハビリテーション科	分野：ス ポ ー ツ
福嶋 篤	特定非営利活動法人HPT	分野：行 政
木原由里子	日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻	分野：国 際 交 流
箭内 一浩	北星記念病院 リハビリテーション科	分野：地 域
工藤 篤志	羊ヶ丘病院 リハビリテーション科	分野：災 害
塚田 鉄平	旭川医科大学病院 リハビリテーション科	分野：障がい者スポーツ

太田 誠 北海道理学療法士会会長

司 会

佐藤 一成 北海道医療大学 リハビリテーション科学部 理学療法学科
塚本 健太 新さっぽろ脳神経外科病院 リハビリテーション科

スタッフ

濱本 龍哉 新さっぽろ脳神経外科病院 リハビリテーション科
高橋 尚明 北海道医療大学 リハビリテーション科学部 理学療法学科

佐藤「それでは、これより座談会を始めさせていただきます。本日は、北海道理学療法士会が50周年という節目を迎えたことを記念して“これからの10年間に何をすべきか”をテーマに行いたいと思います。先生方には、今までのご経験を踏まえていただきつつ、これからの10年間に何を目指していくべきかをお話しいただければと思います。午前の部は、国際交流、厚生労働省での業務、地域医療の活動、道立保健所での業務、災害リハビリテーションに関わっている方にお集まりいただきました。どうぞよろしくお願い致します。開始にあたり太田会長より一言お願い致します。」



司会：佐藤 一成氏

太田会長「よろしく申し上げます。今回は、これからの10年に何を目指していくかということで、今日お集まりいただいている皆様の思いをお話しいただいて、今後に繋いでいければと思っております。皆様方が今までやってこられたこと、今後10年に向けて、こう変わっていくのではないかと、こうなるといいな、そのような思いもお話しいただければと思います。」



佐藤「では、国際交流について、木原先生にお話しいただきたいと思います。」

木原「まずは自己紹介をさせていただきたいと思います。私は養成校を卒業したあと、札幌市内の高齢者中心の病院で働いていました。その後どう国際交流に繋がっていくかというところですが、卒業の時期に作業療法士をしている友人のお姉さんが、たまたまマレーシアの方に数年赴任するというのを聞き、働いて2年目の時に旅行がてらマレーシアを訪ねたことがきっかけで、青年海外協力隊に興味を持ちました。そこから“これは必ず行こう”と決めて、帰国後に色々と調べ、職場は4年3ヶ月で退職しました。在職中に協力隊を受験し、ネパールの125床くらいの総合病院に2年間おり、そこの理学療法士さんと一緒に仕事させていただきました。」

佐藤「ネパールの病院では、どのような疾患が多かったのですか。」

木原「私が配属されたのは、首都のカトマンズでした。こちらで想像するよりも結構しっかりとした専門病院もありましたが、私の在籍していた施設はあまり大きくなかったので脳血管障害の方は少なく、整形外科疾患の方が多かった印象でした。ただ、現地スタッフと一緒にリハ室で待っていると整形外科のドクターからオーダーがくるのですが、他の診療科の回診と一緒にいっていくと、内科的な疾患の方も沢山いらっちゃって、まだまだ理学療法士がアプローチできる方々が多くいるという印象でした。一般的にネパールでリハビリテーションを受ける方というのは整形外科疾患の方が多いと思います。」

佐藤「青年海外協力隊の試験について、簡単にご説明いただけますか。」

木原「一次試験と二次試験があるのですが、一次試験のときは履歴書のような書類に“どうして志望したのか、また開発途上国でどういったことをやりたいのか”という事を中心に記載する必要がありました。二次試験は面接と私の時は英語のテストがありましたが、今はTOEIC等の点数を提出すれば良いそうです。面接では専門知識を問われたり、開発途上国の物資が整っていない環境でどのように工夫して課題をクリアするか、どのような活動をしたと考えているか、ということをお聞きされました。」



木原 由里子氏

佐藤「これから国外に出て行って仕事をしたい方々もいると思いますので、それらも踏まえてお話をいただけますか。」

木原「今回のテーマは国際交流なのですが、国際交流にはジャンルの異なる2種類があると思います。私が経験してきたのは開発途上国での経験で、もう一方は先進国の大学や大学院への進学だと思いますが、この2つは線引きをした方が良いと思います。開発途上国に行く場合は、技術協力をすることが中心になると思いますし、先進国に行く場合は、より専門的な知識を得てくるのが目的になると思います。また、開発途上国で過ごす経験でも先進国で過ごす経験でも共通して感じる事だと思いますが、皆さんに伝えたいことは、日本の中にいると自分は多数派だということです。国内では、日本人であることで皆さん同じ様に何不自由なく過ごすことができます。逆に海外での生活を意識してみると、差別なども含めて自分が少数派になるという経験をします。例えば日本国内では障害を持っている方が少数派になるかと思いますが、その方々のご意見が社会環境を造る上では非常に重要であるように、少数の方々の意見も社会の一つの個性として受け入れていかなければならないと考えるようになったと自分では感じています。若い方

には、開発途上国だけでなく、先進国でも自分が少数派になる経験はできると思いますので、色々挑戦して帰国後にその経験を活かしていただければと思います。今後10年では北海道から協力隊に参加する方も増えてくると思いますので、今後は興味を持ってくれる若い人たちに情報を発信し、経験を持った方を育てていくことが必要になってくると考えています。」

福嶋「一般的に想像される理学療法は、個人の疾病や障害などに対して行うものになってくると思うのですが、開発途上国の制度とか仕組みとかに不備があるように感じるなど、そのようなことに触れるような機会はあったのですか。」

木原「私自身は病院派遣であり地域を巡回するようなことはなかったのですが、深く関わることはできたかというところではなかったです。しかし、自分でも模索して配属先の病院にも交渉して、派遣先の病院が運営していた首都のカトマンズから車で5時間ほどの地域にあるクリニックに2ヶ月に1回派遣させてもらいました。そこでは理学療法士もおらず専門家がすごく少ない中で、首都まで出てくるのが難しい方に対して、どう対応すればよいのかを考えさせられるような機会がありました。」

福嶋「やはり院内だけの技術指導という目的だけでは解決できない問題に気づいた際は、色々な機関に働きかける必要があるのでしょうかね。」

佐藤「木原先生、ありがとうございました。次に行政経験者として福嶋先生にお話をいただきたいと思います。」

福嶋「行政経験者というのもおこがましいのですが、私は札幌市内の脳神経外科で5年程務め、その後訪問看護ステーションのリハビリに出会いました。そこから現在の特定非営利活動法人



福嶋 篤氏

HPTに異動しました。そこで介護予防事業に出会ったことで、介護予防を一生懸命やってみようと思い、働いているうちに課題も増えてきたので東京で介護予防が学べる大学院に行きました。それと並行して東京都健康長寿医療センター研究所で勤務させていただき、昼は研究所で介護予防に関わる研究員として、夜は大学院という形で貴重な経験をさせていただきました。札幌市で介護予防に従事しているときに、日本理学療法士協会から打診をいただきまして、厚生労働省保険局の医療介護連携政策課に、官民交流事業として2年間、行政事務官として勤めることが出来まし

た。そこから2年間の勤務を経て特定非営利活動法人HPTの方に戻り訪問看護事業と介護予防に取り組ませていただいております。」

佐藤「厚労省での経験を踏まえていただき、今後に向けてお話しをしていただけますか。」

福嶋「今回のテーマは10年後ですが、結構私は先のことを考えるのが苦手で、5年先も見えないというか…、イメージできないので10年先はもっとイメージができないというのが正直なところですよ。冒頭で太田会長から、今までの10年より今後の10年のスピードは速くなるであろうということでしたが、個人レベルとしては10年後のことを考えるよりも、まずは今の仕事のことをしっかり考えていくのが大事かなと思っています。目の前のことをしっかり取り組むことで、現在が未来に繋がっていくと思うので、現在をスルーしてしまうと未来までのプロセスが見えなくなると思います。結局未来は今の延長線上と積み重ねだと思うので、未来は未来で今を対処する事が大切かなというスタンスで取り組みたいと思っています。」

行政の方で経験したこととしては、行政はどちらかといえば理学療法士という職業に対して専門的に凄く期待を持っているかというところではなく、一般的な理学療法士だと思ってしまうのですが、行政の中では「理学療法士って何？」と色々な人から聞かれるんですよ。色々聞かれて理学療法士って何だろうと考えるようになり、その経験から改めて専門性というところをすごく意識するようになりました。自分で理学療法士の専門性というところを理解していないと他者に伝えられないですよ。理学療法士は理学療法について、「我々は何ができるのか」ということを社会に伝えていく必要があると思います。そうでなければ社会に対して我々が必要であるということを理解してもらえないですし、何で理学療法士が来るんだって思われても仕方がないと思うので、そういったところをキーワードに自分自身が何者かという事を判りやすくコミュニケーションをとりながら伝えていくことが必要であると思います。そこが一番行政経験を経て感じたところですね。」

佐藤「では次に北星記念病院の箭内先生から地域の活動ということでお話をいただきたいと思っています。」

箭内「私の地元は札幌ですが、長期実習をきっかけに、この地域の方に理学療法士としてできることをしっかりとしていきたいという想いで北見に就職いたしました。地域リハとの関わりは、私が2年目の時に広域のリハセンターの事務局が当院にあり、多くの研修会や懇親会で情報交換ができたこと、多職種の方々と色々な話しをして“この地域をもっと良くしたい”とか“地域の専門職の連携を高めるために、どうしたらまとまっていけるか”と考え、この町のことを真剣に考えている方々と、この町のためにできることをしていきたいという様に思いました。3年目に

なって支部活動に少しずつ参加させていただき、9年目からは職能部の部長として関わらせていただいています。平成26年に北見市の地域包括支援センターと協働事業を開始し、転倒・骨折を理学療法士の力で防止するという活動を開始しました。協働事業を開始した第6期計画では、要介護・要支援の原因疾患の8.3%が転倒・骨折でしたが、事業開始3年後の第7期計画では7.6%に減少しており、協働事業の成果だと感じています。最近では、北見だけではなく、近隣の市町村からの派遣依頼も来ているのでそういったところに向向いて地域のニーズに合わせた介護予防を行っています。」

佐藤「具体的にはどういう取り組みを行っているのか、10年後に向けて介護予防というところを踏まえてビジョンをお話いただけますか。」

箭内「この転倒・骨折の率に関しては北見市の方では私たちがご当地体操にしたいと考えている“きたみんと体操”を北見市民の方に普及する活動を展開しています。各種のお祭りで様々な予防事業等で広く展開し、介護予防の重要性を伝えています。このきたみんと体操は北見市民なら誰でも知っている“北見ばやし”という音楽を使っています。市民の方が自主的に北見ばやしのCDを買って、地域の方々が町内会やサロンなどで体操を取り入れてくれたことが先程の成果につながったと感じています。今後10年についてですが、北見の人口は減り10万人を切るという予想のなかで現在就業している理学療法士が約100人。ほぼ医療機関に勤めている方で実際に介護予防事業に出るとなると、日中派遣できる人は数名しかおらず、十分な体制が構築されていない状況です。今後、ますます介護予防の重要性が地域の方々に認知されていく一方で“理学療法士を呼んでみたい、もっと話を聞いてみたい”と言ってもらっても地域のニーズに応えきれない可能性があります。そういった中で、今立ち上げ準備中のプロジェクトは“きたみんと体操指導者を育てる”というプロジェクトです。理学療法士が前に出て体操することも大事だと思いますが、そこで黒子に回ってチームをバックアップする、自助互助のために活躍できる住民を育てるという取り組みが必要であると思っています。地域医療というテーマでは、介護予防以



箭内 一浩氏

外のキーワードとして“多職種連携”があります。北見は小さな町ですので、何か事業やイベントの企画には直ぐに専門職が集まり、スピード感を持って取り組むことができる地域です。所属している施設は違っても信頼できる仲間と今後も地域のために活動し、今後はそういった北見モデルとか北見の取り組みのノウハウを他の地域に発信しサポートするような活動をしていきたいと思っています。」

佐藤「是非、今後育っていく理学療法士の方々のためにも先生の経験を広げていただいて地域の活動や介護予防等、発展していくようなものになればと思います。」

服部「きたみんと体操は支部、市、役所のどの管轄で作られたのですか。」

箭内「道東支部で作りました。」

服部「そうなのですね。だから根付いたのですね。大体、市町村で作るご当地体操は作って発表して終わりになるものが多いのですが、コンテンツやプロモーションも工夫されたのですか。」

箭内「北見の名産がハッカ油とタオル、音楽は北見ばやしを使った体操で、その3点セットできるように工夫しています。タオルやハッカ油を使用しますが関連する地元企業のご理解とご協力もあり、少しずつではありますが北見で根付いていると感じております。」

太田会長「実際に大森道東支部長が企業と交渉し、協賛をいただいてタオルを何百枚も提供していただきました。地元企業とタッグを組んでいるところも北見の特徴ですね。」



佐藤「箭内先生どうもありがとうございました。それでは保健所の機能に関して苫小牧保健所の服部先生にお話しいただきます。」

服部「私は、公務員志向が強かったのかもしれないのですが、道職員としての就職を希望し道立病院に勤務いたしました。最終的には急性期の呼吸器の病院で臨床でのキャリアを一時お休みして道立保健所に異動し勤務5年目になります。道立の保健所は全部で26か所ありまして、その中で行政として理学療法士・作業療法士が配置されているのは7か所になります。保健所の理学療法士の業務の一つとしては対人支援があります。社会保障制度には、医療保険、介護保険、あと身障手帳などがありますが、地域の中にはどの制度にも適応とならない方がいて、そういう時に行政サービスとして無料で理学療法のサービスを提供することが対人支援です。また、私達の仕事で比較的比重が大きいものとしては対集団支援があります。例えば地域の難病患者さんの交流会の講師ですとか、地域の団体等からの依頼を受けて健康講話を行うとか、苫小牧保健所では船員さんの集まりから依頼を受け、腰痛関係の講話に出向いたりすることもあります。郡部では

町内にリハ職がない場合とか、老健施設の理学療法士なので役場の高齢者事業に中々招集できないということもあります。その様な場合に私たちが出向いて関わるということもしております。あくまで地域の高齢者をサポートされている方たちへの支援である「支援者支援」ということで行っています。市町村は介護予防を当然、町の事業として行っているのですが、それについて効果があるかどうか分からないという職員さんも多く、リハ職の視点で、例えば「半年の教室参加で機能維持ができていのであれば上出来です。」などとアドバイスをしています。一方、評価ツールとしては協会が作ったE-SASを、地域での活動の様子を知ることができる良いツールかなと思い日高の方の町役場に紹介しております。また介護保険法に基づく介護保険施設の実地指導ということで施設に出向き、基準や加算の関係の確認などの事務仕事も行っております。これらが私の現在の仕事です。」



服部 研祐氏

佐藤「箭内先生からいただいた話に関連するかもしれませんが、町村部に関しましては過疎化も進み、都市圏と比べますと高齢化率もかなり高い状況になっていくと思います。今後10年という中でどのようなことを進めていけるのか、あるいは後輩にむけて伝えたいことをお話しいただけますか。」

服部「保健所の理学療法士として郡部の町役場に出向いて助言等しておりますけれども、この役目については地元の理学療法士の方に担っていただきたいという希望があります。地域の先生方を何とか巻き込みながら、今後10年かかるのかわからないですが、自分の住んでいる役場の高齢者事業に参加していただくのが当然という環境を作っていけたらと思います。このようなことを養成校で教育していただければ、今後変わっていくのかなと思います。」

佐藤「ありがとうございました。最後に災害リハビリテーションについて羊ヶ丘病院の工藤先生お願いします。」

工藤「羊ヶ丘病院は整形外科疾患を対象とした病院なので、今回は別の災害時のリハということでお話をさせていただきます。私も元々は青年海外協力隊員としてチュニジアという国で活動をしていましたが、アラブの春などの情勢不安があって国外退避になりました。そして日本で待機している時に東日本大震災が起きました。福島県にJICAの研修施設があり、そこが避難所となりました。避難所の状況を良くするために、まずは隊員の中で医療職や子供のケアができる隊員を動

員し活動しようということになりました。約1ヶ月後に福島県で支援活動をさせていただいたという経験から災害リハに関わるようになりました。東日本大震災以後、災害リハビリテーションを組織的に行うための大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）が設立され、地域JRATとして北海道災害リハビリテーション推進協議会（DoRAT）が設立されました。

DoRATには、福島県での私の活動を知った北海道理学療法士会理事の推薦があり、設立からメンバーとして関わっております。活動としては北海道で災害が起きたときにどの様に活動するのかということが課題で、有時に大事なのがコーディネートになりますので、コーディネートを行うことができる人材を育てることが団体の一番の使命となります。実際にその準備をしている間に熊本地震が発生し、JRATを立ち上げて初めて全国から応援を要請して活動する災害でしたので、私も自分の休みを利用して熊本に行かせていただきました。災害が北海道で起きてもそうですし、その様な時にどのような活動すべきか整えていくために団体としての活動を細々と行っていますが、私たちは任意団体であるため何の後ろ盾もないまま出資金をいただくという形で運営し、様々な財団からの寄付をいただいて研修会を開催しました。現在、北海道リハビリテーション専門職協会（HARP）の一組織として、特別会員という形で道と協定を結べるように進めています。」

佐藤「昨今、非常に災害が多いという状況ですが、災害時のリハビリテーションの機能として今後10年どの様な役割を担えるのか、お話しいただけたらと思います。」

工藤「実際に災害が起きたとき、理学療法士として「何ができるか」の前に、人として「何ができるか」だと思いますが、そこは社会福祉協議会とか様々なボランティア団体が存在しますので、人としての活動はそちらを中心に進めていただきます。JRATでは、理学療法士が国家資格を持った専門職として災害リハに関わるにはどうしたら良いかということについて、組織としての方針を「災害リハビリテーション標準テキスト」として提唱しています。まずはニーズがあるか現地の人に収集していただいてそれに見合った人をどの様に派遣するかということ組織とし



工藤 篤志氏

て行えるよう準備を進めています。実際に何を行っているかということ、何か凄いことを行っているわけではなく、実際に現地入りしないと分からない事が多いので、まずは現地に行ってニーズを把握し、その中で自分達ができることは何なのかということの評価し、他団体と方針を統一しながら実施できることを行っています。実際に福島県での活動では協力隊で2年間位かけて行うことを3日間位で行うような感覚でした。患者さんを評価してプログラムを立案

するという事は、普段の理学療法業務の中で当たり前に行っていますが、災害時はそれらの実施期間や場所が大きく変わるという感じで、避難所や仮設住宅での生活環境を整えたり、動作指導を行ったりしています。当たり前のことですが、職種によって持っている知識が異なるということもあります。保健師さんが一人一人を回っているなかで「この人ちょっと立ち上がるのが大変そうだ」というような要請に対して活動することも多いので、やはりまずは行政との繋がりや保健師さんとの繋がりの中で活動していくという方針を立てています。災害リハというと特別な感じがすると思いますが、普段の理学療法と大きくは変わりません。なので、誰もが発災時に活動できる体制を整備したいと考えています。また、平時から住民主導で生活不活発病予防ができる活動を行えたらと思います。」



佐藤「工藤先生ありがとうございました。ではこのあたりで、午前の部は終了したいと思います。皆様、本日はありがとうございました。」

塚本「これより午後の部の座談会を開始させていただきます。午後の部は、基礎領域の研究活動、ウィメンズヘルス、急性期の臨床業務、スポーツ選手のサポート活動、そして障害者スポーツに関わっていらっしゃる方にお集まりいただきました。どうぞよろしくお願い致します。では基礎研究の分野でご活躍されている廣田先生からお話をいただければと思います。これまで皆さんがやってきたこと事を中心に、現状も含めながらこれからの10年で目指すべきところをお話いただければと思います。」



司会：塚本 健太氏

廣田「今の医療は、根拠に基づく医療ということは既に周知のこととは思いますが、理学療法ではサイエンスの部分と経験を含めたアートの部分が共存して行われているのが現状であると思います。基礎研究は、このサイエンスの部分を支える重要な領域であると考えており、基礎研究の上に臨床研究や臨床応用があると考えております。なので、当然ながら臨床で求められるような臨床的意義のある基礎研究を行う必要があると考えています。私の場合は骨の形態や筋、靭帯の付着部などが個人によって異なるということが明らかになっているという点に着目し、単に一

つの病態や一つの機能障害と捉えるのではなく、個人の有する特徴を基にして理学療法を行っていきたいと考えて研究を行っています。

これからの10年に何をすべきか、という点に関しては全員が同じである必要はなく、これから先に何が求められているのか、自分は何に興味があるのかということを考えながら研究活動や臨床業務を突き詰めていくことが重要ではないかと考えています。

私自身は、今後の方向性についてジェネラリストというよりはスペシャリストという方向に向いていくのではないかと考えています。加えて、グローバル化に伴う英語力が求められることはもちろん、様々な事に関するスピード感が加速していくというように考えてい

ます。やはり独りで活動していくのはなかなか難しい状況になってくると思いますので、同じ志を持った仲間であったり、理学療法士以外の他の職種の方とも協力して活動の場を広げていったりしても良いのではないかと考えています。また「研究は苦手…」という苦手意識がある方もいるのではないかと思います。皆さんが関心を持って研究に参加することで、臨床に生きることもあると思います。苦手意識がある方も積極的に研究にも興味を持っていただき、研究の意義を感じてもらえると良いのではないかと考えています。」



廣田 健斗氏

塚本「ありがとうございます。研究の部分についてはスペシャリストとして基礎研究からどのように臨床に活かしていくのか、これからの10年でもう少し広く新しい分野が確立していく部分もあると思います。基礎研究を進めている方や臨床で目の前の患者様と向き合う方、それぞれが色々な視点で自分の興味のあるところを掘り下げて、同じ方向性をもった方々で取り組んでいければというところでお話していただきました。現場では、研究には興味があるけど実際何をきっかけにしたら良いのか、職場の先輩がいれば聞きやすいのかもしれないですが、取り組んでみたいけどやり方が分からない、という方も多いと思うのですがいかがでしょう。」

廣田「学校教育のカリキュラムで研究を経験されていない方もいらっしゃると思います。そのような教育のカリキュラムも変わっていくと皆さんの意識が変わってくるのではないかと思います。あと、独りだとやっぱり難しいので、グループで進めていけると良いのではないかと思います。」

塚本「廣田先生ありがとうございました。高橋先生も大学院で研究を進めているお一人ですが、ウィメンズヘルスはまだまだ新しい分野だと思います。これまでの経緯なども含めてお話いただければと思います。」

高橋「この分野に興味を持ったきっかけは、担当する患者様のほとんどが下部尿路機能障害を合併していたことです。私は、回復期病棟で9年間勤務し、整形外科疾患、脳血管障害、廃用症候群の三つの疾患に対して関わるが多かったのですが、骨折等で入院されているにもかかわらず“頻尿で困っている”“尿が漏れるのが一番困る”などを主訴とする患者様が多く、QOLへの影響が大きい疾患だと感じました。当初は、泌尿器科分野に関することは、すべて看護師が行うものだと思います、問診や評価などはすべて任せていましたが、QOLの低下に対して、自分に何かできることがないかと勉強し始め、泌尿器科分野に興味が湧きました。

今後、日本では高齢化が進むにつれて下部尿路機能障害を有する患者様も増加することが予想されます。日本の疫学調査では、40歳以上の男女の約78%が頻尿や失禁などの下部尿路症状を呈することが報告されています。そのめ、私たち理学療法士が介入していくべき分野であると思っ



高橋 由依氏

ています。また、学生の時から泌尿器科分野に対する基礎知識を持つことも大変重要だと思います。例えば、目の前の患者様が排尿のことで悩んでいると聞いたときに、なぜその問題が起きているのか、何を評価したら良いか、という視点を持つことで、治療やQOLの向上につながります。しかしながら、現在、養成校においては泌尿器科分野に関する教育は少ないのが現状です。実際の臨床においても、排泄に関わる評価や他職種との連携は少ないと感じています。まずウィメンズヘルス部門の私たちにはできることは、泌尿器科分野に対する理学療法の重要性を情報発信し、啓発活動を行っていくことだと考えています。」

塚本「私も学生時代に排泄に関することを学ぶ機会は少なかったと思いますが、実際に患者さんやご家族が困っている事として排泄ケアが挙がることが多いので、疾患や入院患者さんだけではなく、地域で生活している方々全てに関わると考えられますね。しかし理学療法士としては、どんな介入をしたら良いのか分からない点が多いので、是非とも講演などの啓発活動で広げていただければと思います。大学院でされている研究は、どのようなものですか？」

高橋「この問題は、男性にも前立腺癌の術後や前立腺肥大の問題が生じることがあるので男女ともに関わっていく必要があると考えています。予防という観点も大切で、たとえば前立腺癌のオペ後に尿漏れが起こる可能性を説明された患者さんが非常に驚かれることがあるので、術前から介入することも大切だと感じています。臨床ではまだまだ不十分であると感じています。ですが、日本では下部尿路症状に対するリハビリテーションは普及しておらず、保険点数もついていないため積極的に介入はできない状況であり、まずは泌尿器科分野に対するエビデンスを確立

していくことが重要だと考えています。大学院での研究は、下部尿路症状を呈する患者様の骨盤底筋について、基礎研究と臨床研究をさせていただいています。先ほどお伝えした通り、現在は積極的な臨床介入が広く進んでいる訳ではなく、大学院や大学病院での研究的介入が中心となります。そのため、まずは私たちがエビデンスを確立することで泌尿器科分野に対する臨床介入の機会を拓げるきっかけにしたいと考えています。」

塚本「予防という観点も含めて若い方々をはじめ多くの方に発信していくことが大切ですね。それでは次は急性期の分野から杉浦先生お願いします。」

杉浦「急性期総合病院という立場から、いろんな疾患の急性期についてお話しさせていただきます。急性期の医療の目的は、各臓器別の専門治療というのが原則的な役割となっています。そのため各臓器別の治療が終わった時には、急性期の治療は終わったということなので急性期の理学療法士は、短いスパンの中でいかに良い結果を出すかということが求められていると思います。最近は早期リハビリテーションの重要性が示され、集中治療医学会から昨年出された



杉浦 宏和氏

た早期リハビリテーションに関するエキスパートコンセンサスでは、新規の発症や急性増悪を含めて48時間以内に入るべきであると明文化されています。今後の急性期リハビリテーションの関わりは、48時間以内に介入する能力が必要となってくると思います。その時にどのような理学療法士を目指すべきかという、各臓器の専門家たちが集中治療をしている中にチームの一員として参加していけるスペシャリストとしての力を持つこと必要だと思います。知識不足だと専門用語で医師や他職種のスタッフと協働していけず治療が成り立たないので、今後は集中治療に関わる能力のセラピストが必要だと思います。一方、近年はいろんな合併症を持っている重複障害の患者さんやフレイルの患者さんなど、入院したらすぐに要介護状態になってしまう虚弱な患者さんが増えており、特定の疾患だけを診られるというスペシャリストだけでは、急性期の医療は務まらないと思っています。その視点から考えると、色々な合併症や基礎疾患以外にも対応できるジェネラリストとしての能力も必要となってくると思っています。これからの10年、心臓疾患や呼吸器疾患、癌のリハビリテーションなど各分野の疾患を色々な人たちが学んでいく中で、全部をスペシャリストとして関わる理学療法士は余りいないと思います。ただ色々な背景を持った患者さんが専門治療を受けにくる時に、医療チームとして各専門分野の人たちがうまく組み合わせ、疾患や合併症に対して専門的な治療が可能であり、合併症にも対応できるチームを作らないと対応できなくなると考えられるので、今後はそのようなチームとして関わる視点も必要に

なると思います。もう一つは、私自身の課題でもありますが、高度急性期に関わっていると最終的に患者さんが帰る地域社会に関する知識が不足してきていると感じています。今は病院完結型医療から地域完結型医療へシフトしつつあるので、地域と連携して実施しなければいけないのですが、急性期に関わっていると集中治療の勉強ばかりしてしまい、患者さんが本来帰るべき地域社会のことを具体的に見据えて介入できているかという点、私自身も手薄な部分があると感じています。なので今後は、急性期の段階から地域社会への視点を持ってリハビリテーションを進めていく能力が求められると思います。」

太田会長「協会でも今、生涯学習システムの見直しを10月の協議会までにある程度整理して提示するという点になっていきます。スペシャリストやジェネラリストに関するディスカッションが何回も繰り返されていて、ただ専門家としてその領域の勉強を深くするだけでもいっぱいいっぱいになってしまう。スペシャリストという概念と急性期におけるジェネラリストという概念で、半田会長がイメージしているのは、心臓なら心臓という専門的なところも大事だが、呼吸と循環というような周辺領域のジェネラリスト的な形を生涯学習の中に組み込むことができれば良いかなというところなんです。また在宅では重複疾患も訪問の理学療法士が診れなければならないという点、医師がいない中で急変した時にどう対応するかなどの知識も必要となってくる。東京では在宅ネットワークというものがあるのですが、“あそこの訪問リハは循環器に強い”など特徴を出して、もし何かあったらあそこに相談すればいいというようなネットワークを整備しているところなんです。そういったネットワークを上手くできるのは理学療法士だから、ネットワークを作って、情報ネットワークを進めて行くというようにしているようです。だから急性期でも在宅でもそういったところを整理していくということになっています。」



塚本「市立札幌病院では、カンファレンスなどは積極的にいらっしゃいますか？」

杉浦「基本的に各診療科とのカンファレンスは週1回以上の頻度で定期的には実施していますが、個別的な退院前カンファレンスなどは、対象人数が多いので抽出して優先順位の高い方から行っています。マンパワーが不足しており行えていない方がいるのも現状です。そして現在は病院の機能分化が進んでおり、分化すればするほど患者さんの退院に関する連携がとれておらず、もっと連携がとれていけば患者さんが地域に行く時に良い状態でスムーズにいけると思うので、もっ

と勉強していきたいと思います。」

塚本「ありがとうございました。ではスポーツ分野の山内先生お願いします。」

山内「私は現在、全日本スキー連盟のスノーボード部門アルペン種目のトレーナーをさせていただいているのですが、2018年5月から正式に携わらせていただくことが決まり、2018年の1月からW杯などの遠征に帯同させていただきます。ここまでの経緯ですが、学生時代からスポーツに携わりたい、海外で働きたいという希望があり“いつかはサポートするスタッフとしてオリンピックという大きな舞台を目指したい”という熱い気持ちがありました。でもどうしたら良いのか分からずにいましたが、4年前に綿谷美佐子先生から道内のジュニア世代のスノーボード選手に対する育成トレーニングとケアの指導に関わる機会を紹介いただき、そこでの活動を通じて今回の遠征に繋がりました。理学療法士として知識や技術を深めて行くことはもちろん大切ですが、これまで繋がってきた人と人との関わりがすごく大切だと思います。この先10年と考えた時に、ロボットを含む機械化など“人”でなくても関わっていける部分がどんどん増えて行くと思いますが、“人”でなくてはいけない部分も絶対にあると思います。それは選手が求めることに対して、私たち理学療法士が専門性を発揮できる部分でもあると思うので、そこに対して選手達を全力でサポートするという意味ではスタッフの人間性が大切だと思います。現場に出て気付いたことなのですが、監督やコーチ、選手から“女性のトレーナーが欲しい”と言われることがすごく多いんです。大会期間中の女性ならではの悩みを男性コーチや男性トレーナーには話しにくいということもあり、女性が関わっていくという事が必要だと感じました。私自身スポーツ現場に関わる女性のセラピストが少ないという印象を持っていますが、現在は養成校も増えておりそのような現場を目指している女性も多いと思います。ですが、どのようにスポーツに関わったら良いか分からない方も多いと思われるので、その方々を牽引していけるようになりたいと思います。また、ここは北海道なので、大自然と雪に恵まれた環境でウィンタースポーツを盛り上げていくことが大切だと思います。私も札幌育ちなので、セラピストとして北海道から世界へ発信していきたいと思います。」



山内 聡美氏

塚本「理学療法士の養成校に入る時にスポーツ分野を目指して入学する方もいると思います。そしてスポーツの分野を目指す際に誰に相談すれば良いのかとか、所属している病院などの理解と協力も必要になると思います。目指しても自分の判断だけでは進められない面もあると思うの

ですが、山内先生の時はどういう流れだったのでしょうか？」

山内「病院には業務内容に関する説明を行い派遣という形で許可をいただく。そこでも病院という組織だけでなく、他部署の方との関わりもすごく大切だと思います。行くからには病院にどのようなことが還元できるのか、ということも考えなくてはいけないと思います。しかし、一番は選手に対して自分ができることを最大限提供するという気持ちが大切だと思います。」

太田会長「病院が出してくれるという環境がなかなか難しいと思うのですが、帯広市内のある病院もスケート競技のサポートをしているが宣伝としては使えない、院内のポスターとしては患者さんに啓発できるが、病院の宣伝用には使えないという話をしていました。それから、昔から女性のトレーナーが少ないというのは課題であり、現在は徐々に増えては来ていますが、それでもまだ少ないというのが現状です。」



塚本「トレーナーの中でも理学療法士の資格を持っていない方もいると思うのですが、理学療法士の資格を持っていてトレーナー活動をしている方の強みやメリットはどういった点でしょうか？」

山内「他のトレーナーは、柔道整復師などの資格を持っている方もいらっしゃいますが、私たち理学療法士は普段から病院で勤務し色々な疾患に対して治療している経験があるので、そういったメディカルの部分をサポートできるということが強みだと思います。」

塚本「ありがとうございました。それでは最後に障害者スポーツという分野から塚田先生お願いします。」

塚田「私が障害者スポーツに出会ったきっかけですが、脊髄損傷の方でテニスをしたいという方がいて、その方を通じて障害の特性を知らながらテニスなどの障害者スポーツに関わることができました。それが自分のやりたいことではないかと思って関わり始めたのが最初です。それからいろんなスポーツや車椅子スポーツに関わらせていただき、実際に競技団体に所属して世界大会にも帯同させていただきました。しかし、パラリンピックや世界大会だけが障害者スポーツではありませんし、地域の中では身障手帳を持った方だけがスポーツをするわけでもありません。」

障害者スポーツで大切なのはルールと使う道具なんです。これを明確に設定できれば、誰でも参加することができるんです。健全な方も障害を持った方も、ルールと道具を明確に設定すれば一緒に参加して楽しむこともできるので、地域の養護学校の先生や中小企業の方を交えて、旭川の地域創りについてスポーツを通じて一緒に考えてきた経緯があります。その中で課題となるのが、障害を持った方々の特性が分からないという地域の方々の声であり、それに対して私たち理学療法士の知識や技術でお手伝いできるかもしれないという考えで10数年やってきました。これまでの旭川での活動としては、障害者スポーツを行う際に体育館に傷が付くとか、バリアフリー施設でなければならないという問題もあるため、車椅子ユーザーの皆様方と街に出て、自分たちで障害になる場所を見つけたり、実際に使用して危険な部分はどこかというところを確認したり、廃材などを用いてバリアフリー化を図るなどの環境作りから行ってきました。

また、使用する道具では、競技用の車椅子になると30~50万ほどお金が必要になります。子供達がスポーツを始めるためには道具の購入という点が課題になります。旭川では、義肢装具士さんや車椅子業者さんに関わっていただいて、障害児が使うようなチェアスキーを作製していただきました。作製時は簡素なつくりにしてもらって製作コストを下げられるようにし、学校の体育に導入できた事例もあります。

理学療法士が障害者スポーツに関わりたいと思った時にどんな関わり方ができるかについて、認定資格も含めて紹介したいと思います。資格は指導員、トレーナー、クラシファイヤーがあります。私自身はトレーナーの資格を持っていて障害特性と競技特性を理解しながら競技力向上、スポーツ障害の予防を含めたトレーニング指導に関わっています。健全スポーツとは異なり、ADLがスポーツ障害に大きく関連している場合もあるというのが特徴的だと思います。

クラシファイヤーは競技者の身体障害がパラリンピックの参加資格を満たしているのかという事を検査したり、競技の公平性を保つために選手の身体障害の重症度を検査したりする資格です。公平性を保つという事を説明するとしたら、例えば陸上競技で説明すると、同じ100mであっても大腿切断の選手と下腿切断の選手は障害の重症度が違うので違うクラスで争うということになります。車いすバスケットボールではプレーヤーの5人を合わせた障害の重症度が偏らないよう



塚田 鉄平氏

にします。競技によってもクラス分けが異なりますので、一言では説明できないくらい奥が深い仕事です。理学療法士全体の障害者スポーツの認識を深めるという意味では、障害者スポーツ指導員の講習などを受講して実際に障害者スポーツの指導に参加してみるという関わり方もあると思います。リハビリはみんなが通る道ですので障害者スポーツの選手で理学療法士を知らない人はいません。

これからの10年ということを考えていくと、講習会を開

くということもそうですが、学校教育の中で初級の講習会などを組めたりできないだろうかと考えています。目の前の患者さんがスポーツを始めたいと言ったときに、何を始めたら良いかなどの窓口を私たちが知っているということはすごく重要だと考えています。その様な普及活動を個人だけではなく北海道理学療法士会の中で組織立てて行っていくことが大切なのではないかと思います。」

太田会長「初級に関しては、高校でも授業でやっているところもありますよね。大学では選択科目などで初級の講義などを入れられるのではないかと思います。道士会で障害者スポーツに対して何かやっというのはまだまだ十分ではないので、まずはネットワークの洗い出しをしていただき、個別で関わっている方々に士会としてどう関わって行くかを考えていきたいと思えます。」

塚本「では最後に、太田会長に本座談会の総括をお願いします。」

太田会長「午前中は国際交流やJICA、地域医療、保健所や行政での理学療法士業務、災害リハという観点でお話しをしていただきました。午後からも基礎研究やウィメンズヘルス、急性期リハビリテーションやスポーツサポートなど、若い先生を中心に次の10年へ向けた話をさせていただきました。日本理学療法士協会としても次の10年ということは色々考えています。今後の人口動態などについては10年以上前から分かっている事で、その先を見越してこちらからある程度予測を出していかなければならないと思います。随分昔に理学療法士はもうこれ以上いらなくなるだろうと予測されていましたが、未だに北海道では求人がある。北海道士会が道内の状況をもっと予測して北海道独自の理学療法士の働き方というところを提言していかないと職域の拡大が進まないのではないかと思います。医療保険、介護保険では方向性が色々変わってしまう、そして回復期がだんだん整理されると回復期機能は必要だけれども回復期ベッドは要らないという方向性になってくる。そうすると地域包括ケアシステムという点では地域の輪の中で基幹病院が中心となって、セラピストが市町村と連携をとって地域の中でそれぞれ完結して行くというシステム

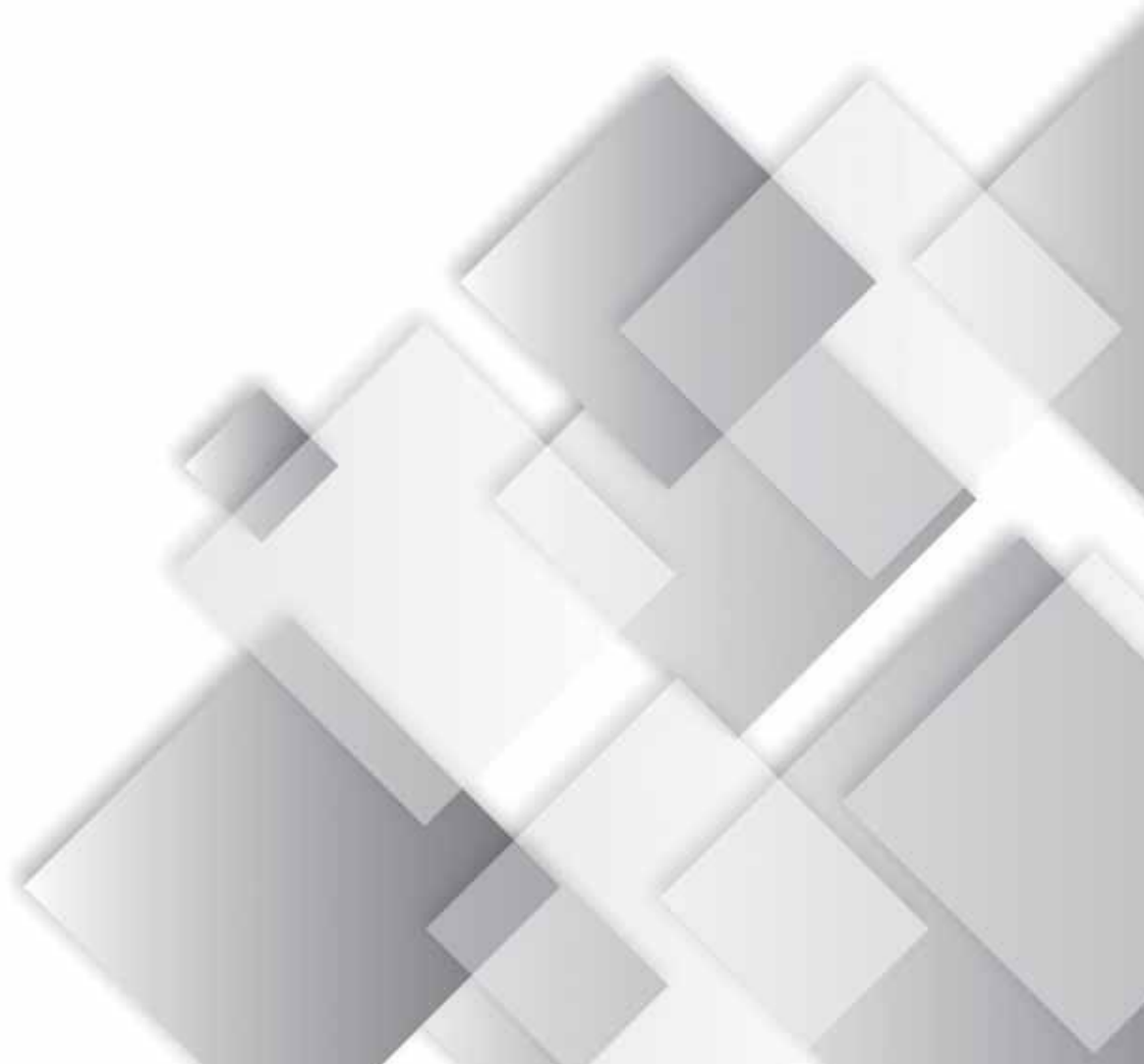


太田 誠会長

を作り上げなければならない。午前中はこの様な話を中心でした。午後からはある意味「世界に発信して行く」スポーツの世界というのは非常に広いので、もちろん北海道限定ではない。そうするとやっぱり違う方向性で全国との連携を取りながら、北海道バージョンを作っていかなければならないと感じました。皆さん、本日は本当にありがとうございました。」



50周年記念 事業



創立50周年記念学会「理学療法のワークシフト」を終えて

第69回北海道理学療法士学会

大会長 杉原俊一

第69回北海道理学療法士学会は、創立50周年記念事業の一つとして平成30年7月28日～29日の会期で、札幌コンベンションセンターで行われました。

秋から初夏に日程が移り大会期間中は猛暑となりましたが、1,000名を超える方々にご来場を頂きました。人口構造の変化に伴い個人の生き方や価値観、社会の仕組み等、私たちを取り巻く環境が急激に変化し、記念学会はまさに大きな節目となるため、「理学療法のワークシフト」を大会テーマと致しました。

基調講演、特別講演、シンポジウム、口述・ポスター演題発表に加え、新たな試みのLINEによる情報発信、抄録集の電子化、次世代を担う新卒療法士を対象としたフレッシュマンセッション、自主企画セミナー、優秀演題賞の表彰等、大会役員の大なる労力と札幌支部会員の運営協力により多くの企画を実施する事が出来ました。

この原稿を入稿する段階では新しい元号は決まっておりませんが、次の50年に繋がる「理学療法のワークシフト」に相応しい学会となりました。



「スポーツチームの管理栄養士が語る勝つために食べる」

平成30年7月28日(土) 10:00～11:30



株式会社ウェルネスプランニング札幌
代表取締役
北海道コンサドーレ札幌 管理栄養士

小松 信隆



「健康のための正しい靴選び」

平成30年7月29日(日) 13:00～14:30



札幌丸山整形外科病院
リハビリテーション科 理学療法士

仲澤 一也



祝典・祝賀会

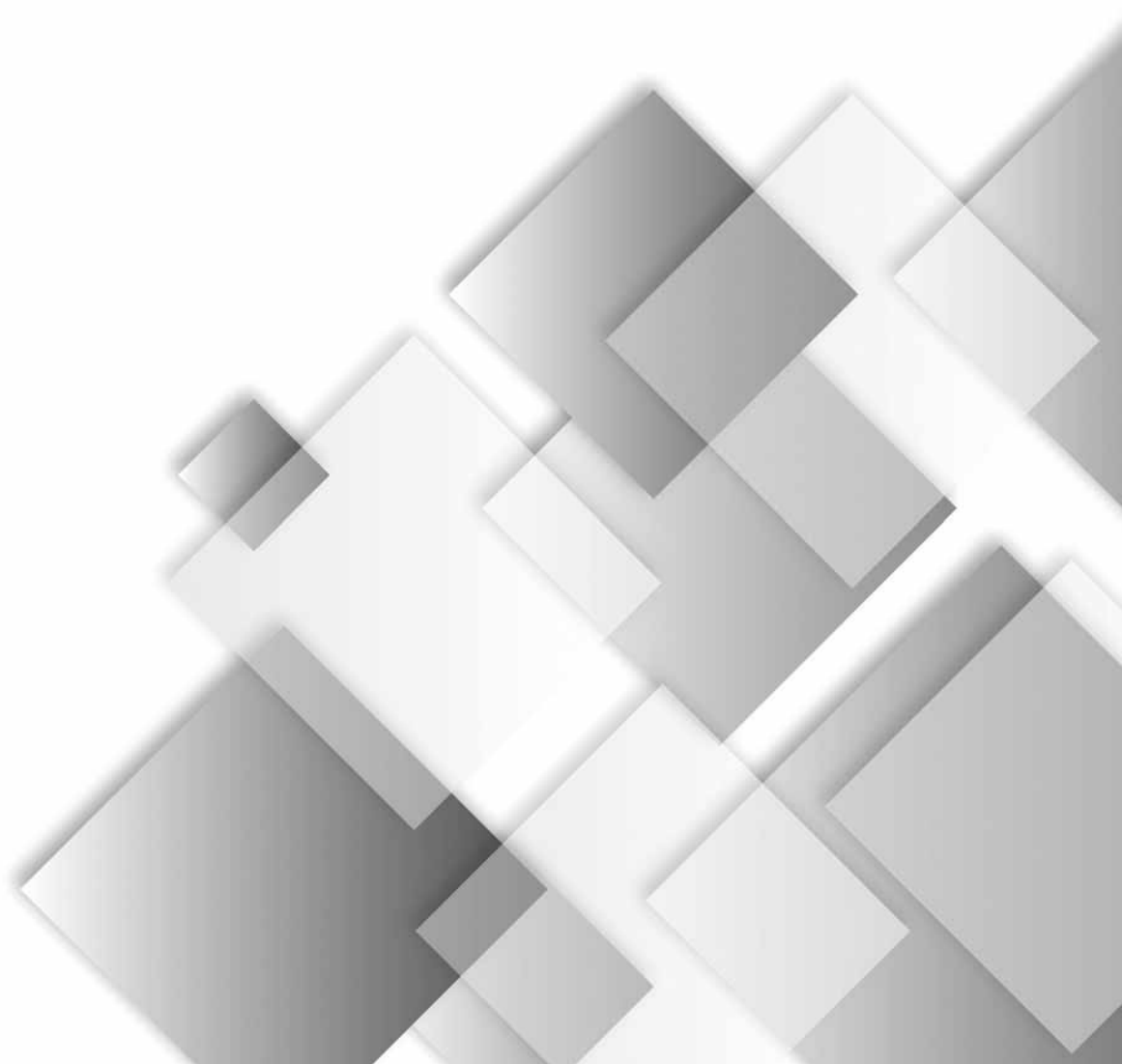


祝典・祝賀会





年 表



年 月 日	項 目
昭和43年 6 月	北海道理学療法士会発足に向けて協議（旭川整肢学院） 参加者：佐藤俊雄、尾沢千代宣、秋元久実、酒井喜代司、齋藤和平、大塚欣壮、金子實、齋藤博、山岸毅、大場武、福田修、渡部平八、金川丈太郎
昭和44年 2 月 1 日	北海道理学療法士会発足 第 1 回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 29名の会員登録と参加 初代役員 会 長 大塚 欣壮 副 会 長 金子 實、金川丈太郎 事務局 長 福田 修 顧 問 河邨文一郎教授（札幌医科大学） 島啓吾教授（北海道大学医学部） 高山 坦三教授（札幌医科大学） 松野 誠夫（北海道大学医学部） 若松不二夫院長（美唄労災病院） 七戸 幸夫院長（旭川整肢学院） 会員数 29名（第 1、2、3 回国家試験合格者全員） 会 費 年 500円 事務局 北海道大学医学部附属病院理学療法部内（札幌市北区北14条西 5 丁目）
昭和44年 2 月 9 日	北海道理学療法士会会則制定
昭和45年 5 月 31 日	第 2 回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院 第三会議室） 第 1 回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「脳性麻痺の整形外科的治療」
昭和46年 2 月 18 日	北海道理学療法士会報No. 1 発行
昭和46年 3 月 28 日	第 3 回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院 第三会議室） 第 2 回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「股関節症と理学療法」、「片麻痺」
昭和46年 6 月 17 日	北海道理学・作業療法士養成機関設置期成会発足 常任委員 大塚欣壮
昭和46年 9 月 26 日	第 3 回北海道理学療法士会研修学会（函館共愛会病院） テーマ「人工関節について」、「筋力に関する研究」
昭和47年 1 月 12 日 ～ 2 月 17 日	札幌オリンピック冬季大会に医療班として協力
昭和47年 3 月 19 日	第 4 回北海道理学療法士会総会（札幌慈啓会病院） 第 4 回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「老化と老人のリハビリテーションの問題点」、「運動失調」
昭和47年 9 月 16 日 ～ 9 月 17 日	第 5 回北海道理学療法士会研修学会（旭川市） テーマ「両上肢切断患者のリハビリテーション」 「第12回世界肢体不自由者リハビリテーション会議に出席して」 「脳卒中患者に適應できるファシリテーションテクニックの理論と実際」 「各種訓練器具の検討」、「脊椎破裂症」
昭和48年 2 月 18 日	第 5 回北海道理学療法士会総会（札幌肢体不自由児総合療育センター） 第 6 回北海道理学療法士会研修学会（第 1 回PT・OT合同学会） テーマ「ヨーロッパのリハビリテーションについて」、「ADLにおける問題点」
昭和48年 4 月	第二代会長 山内孝彦 就任 事務局 苫小牧市立総合病院理学療法科内（苫小牧市本幸町 1 - 2 - 21）

年 月 日	項 目
昭和48年7月8日	第7回北海道理学療法士会研修学会（第2回PT・OT合同学会）（洞爺湖温泉眺湖荘） テーマ「片麻痺のRihabilitationをかえりみて」 「脳血管障害患者のBed sideにおける問題点」
昭和49年3月3日	第6回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第8回北海道理学療法士会研修学会（一般演題のみ）
昭和49年9月28日 ～9月29日	第9回北海道理学療法士会研修学会（第3回PT・OT合同学会）（苫小牧市） テーマ「腰痛症について」、「麻酔の脳血管像」、「PT・OTからみた評価と問題点」
昭和50年3月6日	第7回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第10回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「病院、施設におけるPTの役割とチームの連携について」
昭和50年9月27日 ～9月28日	第11回北海道理学療法士会研修学会（登別市） テーマ「瘻性のメカニズム」、「義肢装着評価時における要点」
昭和51年4月4日	第8回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第12回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「整形外科」
昭和51年9月25日 ～9月26日	第13回北海道理学療法士会研修学会（釧路市） テーマ「等運動性収縮について」、「人工関節のリハビリテーションについて」 「脊髄損傷のリハビリテーション」、「業務独占について」
昭和51年10月25日 ～11月20日	PT・OT養成施設教員等長期講習会開催（主催：厚生省）
昭和52年4月	事務局 登別厚生年金病院リハビリテーション科内（登別市登別温泉町133）
昭和52年6月9日 ～6月10日	第12回日本理学療法士研修学会開催（札幌市民会館） テーマ「地域医療と理学療法」
昭和52年8月25日	北海道医療技術者団体連絡協議会発足 山内孝彦、福田修 理事に就任
昭和52年9月10日 ～9月11日	第9回北海道理学療法士会総会（登別臨海観光ホテル） 第三代会長 齋藤和平 就任 第14回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「術直後義肢装着法」、「リハビリテーションにおけるPTとナースの役割」
昭和52年11月18日	山内孝彦氏 藍綬褒賞受章
昭和52年12月	大塚欣壮氏 高木奨励賞受賞
昭和52年12月3日	山内孝彦氏 藍綬褒賞受章祝賀会（室蘭ニューブラザー）
昭和53年4月23日	第10回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第15回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「脊柱側弯症の理学療法」、「側弯症に対する理学療法」
昭和53年10月7日 ～10月8日	第16回北海道理学療法士会研修学会（旭川ホテルニューキクヤ） テーマ「脳性麻痺」 北海道理学療法士会創立10周年記念式典
昭和54年2月10日	第3回全国現職者講習会（北海道大学附属病院） テーマ「中枢性疾患のリハビリテーション」

年 月 日	項 目
昭和54年 4 月29日	第11回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第17回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「整形外科領域におけるマイクロサージェリーについて」
昭和54年10月20日 ～10月21日	第18回北海道理学療法士会研修学会（岩見沢労災病院） テーマ「歩行障害の鑑別と診断」、「脳卒中のリスクファクター」 「振動病について」、「じん肺症について」、「筋拘縮症について」 「理学療法の学問的体系化について」
昭和54年11月 3 日	渡部平八氏 文部大臣表彰
昭和55年 4 月20日	第12回北海道理学療法士会総会（札幌医科大学附属病院） 第19回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「脳性麻痺の理学療法の歴史」、「四肢長幹骨骨折の理学療法について」
昭和55年10月18日 ～10月19日	第20回北海道理学療法士会研修学会（登別市） テーマ「第14回世界リハビリテーション会議に出席して」 「義肢のチェックについて」
昭和56年 4 月	事務局：札幌医科大学附属病院リハビリテーション部内 （札幌市中央区南1条西16丁目）
昭和56年 4 月19日	第13回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第四代会長 福田 修 就任 第21回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「上肢の機能解剖について」
昭和56年 4 月28日	北海道大学医療技術短期大学部 開学式
昭和56年 6 月29日 ～ 7 月20日	Vojta法講習会（北海道立札幌肢体不自由児総合療育センター）
昭和56年 8 月 9 日	第16回日本理学療法士協会全国研修会（北海道大学クラーク会館） テーマ「合併症」
昭和56年11月14日 ～11月15日	第14回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第22回北海道理学療法士会研修学会（北海道大学附属病院） テーマ「障害者の自立」、「ボバースアプローチについて」 「米国における施設の現状と臨床体験」
昭和57年 3 月28日	第23回北海道理学療法士会研修学会（北海道大学附属病院） テーマ「運動制御のメカニズム」
昭和57年 9 月25日 ～ 9 月26日	第24回北海道理学療法士会研修学会（苫小牧市） テーマ「カナダにおける理学療法」、「CTスキャナからみた神経症状の予後」 「スポーツトレーニングの諸問題について」
昭和57年11月 3 日	渡部平八氏 勲六等瑞宝章受章
昭和58年 3 月27日	第15回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第25回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「理学療法に対する神経生理学的考えの導入」 「片麻痺患者におけるRisk管理、Anderson基準の再検討」
昭和58年 4 月15日	札幌医科大学衛生短期大学部 開学式
昭和58年 8 月19日 ～ 8 月21日	第 1 回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「PNF 基礎コース」

年 月 日	項 目
昭和58年 8月27日 ～ 8月28日	第2回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「モビライゼーション四肢・関節コース」
昭和58年11月19日	創立15周年記念式典・祝賀会（三越ホール：札幌市）
昭和58年11月19日 ～11月20日	北海道理学療法士会創立15周年記念研修会（札幌医科大学講堂） 第26回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「臨床実習における諸問題」、「Isokinetic Exerciseの理論と実際」 「成人片麻痺に対するボバース法」、「感覚統合理論による治療アプローチ」 日本理学療法士協会臨床実習指導研修会
昭和59年 3月25日	第16回北海道理学療法士会総会（北海道大学附属病院） 第27回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「脊柱疾患のリハビリテーション」、「運動と成長」 日本理学療法士協会北海道士会15年史発行
昭和59年 6月23日	北海道理学療法士会卒後研修会（北海道大学附属病院） テーマ「中枢神経疾患の見方」
昭和59年 7月26日 ～ 7月28日	第3回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「モビライゼーション」
昭和59年 8月23日 ～ 8月25日	第4回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「PNF」
昭和59年10月13日 ～10月14日	第28回北海道理学療法士会研修学会（美唄市） テーマ「理学療法の医療点数請求における問題点について」 「中枢疾患による片麻痺について」、「心身障害者の福祉について」
昭和59年11月10日	北海道理学療法第1巻 初刊
昭和60年 3月23日 ～ 3月24日	第17回北海道理学療法士会総会（札幌医科大学衛生短期大学部） 第29回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「リウマチ疾患の基礎と臨床」、「リウマチ疾患の理学療法について」
昭和60年 4月	事務局：国立療養所西札幌病院理学診療科内（札幌市西区山の手5条7丁目）
昭和60年 7月13日	北海道理学療法士会卒後研修会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「心疾患の医学的管理とPT」
昭和60年 8月 1日 ～ 8月 2日	第5回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「モビライゼーション」
昭和60年 8月29日 ～ 8月30日	第6回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「PNF」
昭和60年10月19日 ～10月20日	第30回北海道理学療法士会研修学会（室蘭・登別保健センター） テーマ「みんなで学ぼう脳卒中のリハビリテーション」、「脳卒中の診断と治療」 「股関節手術の変遷について」
昭和60年11月30日	北海道理学療法士会冬季研修会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「機能的電気刺激（FNS）による四肢制御」
昭和61年 1月23日	国立国会図書館に機関誌「北海道理学療法」寄贈
昭和61年 3月29日 ～ 3月30日	第18回北海道理学療法士会総会（札幌医科大学衛生短期大学部） 第31回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「片麻痺」、「神経内科疾患の医学的アプローチ」 「神経内科疾患の理学療法的アプローチ」

年 月 日	項 目
昭和61年 7 月 5 日	北海道理学療法士会卒後研修会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「ドイツのボイタ研修を終えて」
昭和61年 7 月31日 ～ 8 月 1 日	第 7 回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「中枢神経疾患に対する運動療法」
昭和61年 8 月21日 ～ 8 月22日	第 8 回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「スポーツ外傷障害のリハビリテーション」 （テーピングの理論と実際を含む）
昭和61年 9 月27日 ～ 9 月28日	第32回北海道理学療法士会研修学会（旭川市勤労者福祉会館） テーマ「緊急医療をめぐる一現状と問題点と未来」 「脊髄損傷者の社会復帰の現状」
昭和61年 9 月29日	大塚欣壮氏 厚生大臣表彰受賞
昭和61年11月29日	北海道理学療法士会冬期研修会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「随意運動」
昭和62年 3 月28日 ～ 3 月29日	第19回北海道理学療法士会総会（札幌医科大学衛生短期大学部） 第33回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「関節置換術後の理学療法」、「糖尿病の医学的管理」、「糖尿病の理学療法」
昭和62年 6 月20日	新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「PT協会・士会の歴史と現状」
昭和62年 8 月 7 日 ～ 8 月 8 日	第 9 回北海道理学療法士会講習会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「神経発達学による成人中枢神経疾患へのアプローチ」
昭和62年 8 月27日	第10回北海道理学療法士会講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「呼吸器障害に対する理学療法」
昭和62年 9 月19日 ～ 9 月20日	第34回北海道理学療法士会研修学会（ホテル法華クラブ 函館市） テーマ「脳卒中片麻痺足部変形に対する観血的療法」 「脳血管障害の外科的治療」
昭和63年 1 月23日	北海道理学療法士会冬季研修会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「神経可塑性の運動及び感覚～機能回復に果たす役割」 北海道理学療法士会新年交礼会（厚生年金会館）
昭和63年 3 月26日 ～ 3 月27日	第21回北海道理学療法士会総会（札幌医科大学衛生短期大学部） 第35回北海道理学療法士会研修学会 テーマ「装具について最近考えること」、「下肢装具」
昭和63年 6 月18日	新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「PT協会・士会の歴史と現状」
昭和63年 7 月29日 ～ 7 月30日	第11回北海道理学療法士会講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「呼吸障害に対する理学療法」
昭和63年 8 月26日 ～ 8 月27日	第12回北海道理学療法士会講習会（北海道大学医療技術短期大学部、時計台病院） テーマ「成人中枢神経障害に対するボバース法」
昭和63年11月12日 ～11月13日	第36回北海道理学療法士会研修学会（北海道大学学術交流会館 大講堂） テーマ「冬季における障害者の諸問題」 創立20周年記念式典・祝賀会（北大学術交流会館）

年 月 日	項 目
平成元年 1 月 21 日	北海道理学療法士会冬季研修会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「筋の収縮とそのメカニズム」 新年交礼会（厚生年金会館）
平成元年 3 月 25 日 ～ 3 月 26 日	第37回北海道理学療法士会研修学会（札幌医科大学臨床教育研究棟） テーマ「腰痛症の診断と治療」
平成元年 4 月 22 日 ～ 4 月 23 日	第13回北海道理学療法士会講習会（北海道大学医療技術短期大学部、時計台病院） テーマ「成人中枢障害に対するアプローチ」
平成元年 6 月 24 日	新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部）
平成元年 7 月 2 日	ソフトボール大会（国立療養所西札幌病院）
平成元年 7 月 29 日 ～ 7 月 30 日	第14回北海道理学療法士会講習会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「感覚統合の原理と応用」
平成元年 8 月 25 日 ～ 8 月 27 日	全国現職者講習会 担当北海道士会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「関節モビライゼーション（脊柱・骨盤帯）」
平成元年 10 月 14 日 ～ 10 月 15 日	第38回北海道理学療法士会研修学会（帯広市勤労者福祉センター） テーマ「変形性膝関節症の治療について」、「スポーツ選手に対する理学療法」 「地域におけるリハビリテーション病院の役割」
平成 2 年 1 月 27 日	北海道理学療法士会冬季研修会（北海道庁別館） テーマ「老健法の課題」
平成 2 年 3 月 24 日 ～ 3 月 25 日	第39回北海道理学療法士会研修学会（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「地域医療における理学療法士の役割」 「地域医療活動における理学療法士の役割を考える」
平成 2 年 5 月 23 日 ～ 5 月 25 日	第25回日本理学療法士学会（札幌市） テーマ「四半世紀の歩み」
平成 2 年 6 月 16 日	新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「PT協会・士会の歴史と現状」
平成 2 年 8 月 25 日 ～ 8 月 26 日	北海道理学療法士会夏期講習会（旭川リハビリテーション病院） テーマ「成人中枢神経障害に対するボバース法」
平成 2 年 9 月 27 日	法人化推進会議（札幌医科大学衛生短期大学部）
平成 2 年 9 月 28 日	全国現職者講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「関節モビライゼーション」
平成 2 年 11 月 10 日 ～ 11 月 11 日	第40回北海道理学療法士会研修学会（苫小牧プリンスホテル） テーマ「心疾患のリハビリテーション」 「地域医療苫小牧市における乳幼児健診について」
平成 3 年 1 月 26 日	北海道理学療法士会冬季研修会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「わが国の理学療法法の展望」 社団法人化設立総会開催
平成 3 年 2 月 16 日	北海道理学療法士会冬期研修会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「スポーツ障害の診断と治療」
平成 3 年 3 月 2 日 ～ 3 月 3 日	第 6 回北海道理学療法士会講習会（室蘭市） テーマ「クラインフォーゲルバッハ法による成人中枢障害に対するアプローチ」

年 月 日	項 目
平成3年3月2日 ～3月10日	1991年第15回冬季ユニバシアード大会へ医療班として協力
平成3年3月30日 ～3月31日	第41回北海道理学療法士会研修学会（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「筋力強化法のレビュー」、「臨床における筋力強化」
平成3年4月1日	社団法人認可
平成3年5月18日	社団法人設立記念講演・祝賀会開催（三越ホール：札幌市）
平成3年6月29日	新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「PT協会・士会の歴史と現状」
平成3年7月27日 ～7月28日	第17回北海道理学療法士会技術講習会（クラーク病院） テーマ「PNF」
平成3年8月29日 ～8月31日	全国現職者講習会（札幌医科大学衛生短期大学部） テーマ「関節モビライゼーション（脊柱、骨盤）」
平成3年9月21日 ～9月22日	第42回北海道理学療法士会研修学会（パル三愛 旭川市） テーマ「運動器疾患と神経機能の関わり -基礎的研究の立場から-」
平成3年11月9日	大塚欣壮氏 勲五等瑞宝章受章
平成4年1月25日 ～1月26日	第5回地域リハビリテーション研修会（札幌医科大学）
平成4年4月18日 ～4月19日	社団法人北海道理学療法士会第1回定期総会（札幌医科大学） 第1回全道学術研修大会 テーマ「アメリカ見聞録 -日米PTの違いを中心に-」
平成4年6月13日	新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「PT協会・士会の歴史と現状」、「チーム医療におけるリーダーシップとは」 「運動施設基準の管理運営について」
平成4年7月25日	第18回北海道理学療法士会技術講習会（苫小牧東病院） テーマ「PNF」
平成4年10月3日 ～10月4日	第43回北海道理学療法士会研修学会（岩見沢市民会館） テーマ「筋電図研究回顧」
平成5年1月23日	北海道理学療法士会冬季研修会（北海道大学術交流会館） テーマ「運動習得と認知心理学的アプローチ」
平成5年4月17日 ～4月18日	社団法人北海道理学療法士会第2回総会（札幌医科大学講堂） 第2回全道学術研修大会 テーマ「高次脳機能障害 -運動プログラムを中心に-」、「車椅子」
平成5年5月31日	北海道在宅医療ケア事業団設立総会（福田修、水本善四郎）
平成5年6月5日、 6月19日、7月3日	第1回北海道理学療法士会中堅会員治療技術講習会（札幌大保健医療学部） テーマ「PNF治療（応用編）」 第1回北海道理学療法士会新人会員治療技術講習会（札幌大保健医療学部） テーマ「中枢神経疾患患者の診かた・考え方とハンドリング」
平成5年6月12日	新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部）
平成5年7月30日 ～7月31日	第19回北海道理学療法士会技術講習会（札幌大保健医療学部） テーマ「腰痛症に対するManual Therapy」

年 月 日	項 目
平成5年8月19日 ～8月21日	全国現職者講習会（札幌大保健医療学部） テーマ「関節モビライゼーション（四肢関節の障害）」
平成5年8月21日	北海道理学療法士会創立25周年記念事業（札幌市） 「リハビリテーション講習会1」
平成5年8月28日	北海道理学療法士会創立25周年記念事業（札幌市） 「リハビリテーション講習会2」
平成5年11月6日 ～11月7日	第44回北海道理学療法士会研修学会（北海道大学学術交流会館） テーマ「理学療法士の多様化を問う」 創立25周年記念式典・祝賀会（ホテル最上さっぽろ）
平成6年1月22日	北海道理学療法士会冬季研修会（KKR札幌） テーマ「脳卒中に対する最近の脳神経外科的アプローチとリハビリテーション」
平成6年4月	全道6支部を配置（道南・日胆・札幌・空知・旭川・道東）
平成6年4月16日 ～4月17日	社団法人北海道理学療法士会第3回定期総会（札幌市社会福祉総合センター） 第3回全道学術研修大会（札幌医科大学講堂） テーマ「最新の義肢・装具」
平成6年6月11日	新卒者研修会
平成6年6月25日	第4回士会新入会員治療技術講習会 テーマ「中枢神経疾患の診方・考え方」
平成6年6月26日	第5回士会新入会員治療技術講習会 テーマ「中枢神経疾患の診方・考え方」
平成6年7月23日 ～7月24日	第20回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「心臓と運動－基礎と臨床応用－」
平成6年8月25日 ～8月27日	全国現職者講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「脊柱のマニュアルセラピー」
平成6年10月22日 ～10月23日	第45回北海道理学療法士会（室蘭パレスホテル） テーマ「生きがい再考－理学療法との関りの視点から－」 「生きがいをとおして理学療法を見つめなおす」
平成6年11月21日	医療技術者団体連絡協議会パネル展出展（北海道庁ロビー）
平成6年11月26日	第4回中堅者治療技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「PNFの臨床応用」
平成6年11月27日	第5回中堅者治療技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「PNFの臨床応用」
平成7年1月21日	北海道理学療法士会冬季研修会（KKR札幌） テーマ「老人の心理とリハビリテーション医療」 新年交礼会（KKR札幌）
平成7年4月	事務局：北海道大学医学部附属病院理学療法部内（札幌市北区北14条西5丁目） 北海道千歳リハビリテーション学院 開学 日本福祉リハビリテーション学院 開学 北都保健福祉専門学校 開学

年 月 日	項 目
平成7年4月22日 ～4月23日	社団法人北海道理学療法士会第4回定期総会（札幌医科大学臨床講堂） 第4回全道学術研修大会 テーマ「高齢化社会と理学療法」、「在宅療養生活を支える」
平成7年5月22日	阪神淡路大震災兵庫県義援金送付
平成7年6月3日	新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「社会人としてのマナー」ほか
平成7年9月9日	第21回北海道理学療法士会技術講習会 テーマ「成人片麻痺の評価と治療 -嚥下と咀嚼-」
平成7年10月6日	理学療法士協会・作業療法士協会設立30周年記念事業（東京）
平成7年11月11日 ～11月12日	第46回北海道理学療法士学会（函館国際ホテル） テーマ「糖尿病とフットケア」、「理学療法と糖尿病」
平成8年1月20日	北海道理学療法士会冬季研修会（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「手の機能再建術」、「経営的観点からのリハビリテーション」 新年交礼会（ホテルポールスター札幌）
平成8年2月24日 ～2月25日	第22回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「急性期呼吸管理のリハビリテーション -機械的人工呼吸と肺理学療法-」 第23回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「片麻痺 -問題解決のためのポイント-」
平成8年4月	札幌総合医療専門学校 開学
平成8年4月20日 ～4月21日	社団法人北海道理学療法士会第5回定期総会（札幌医科大学臨床講堂） 第5回全道学術研修大会 テーマ「人間管理について」、「中枢障害に対するポバースアプローチについて」 「生涯学習システムを考える」、「理学療法と研究」
平成8年6月8日	平成8年度新卒者研修会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「新社会人の心得とマナー」ほか
平成8年6月22日 ～6月23日	第24回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学医学部附属病院） テーマ「腰痛症」
平成8年7月17日	「理学療法の日」理学療法週間開催（札幌地下街）
平成8年8月22日 ～8月24日	現職者講習会（札幌大保健医療学部） テーマ「脊柱のマニュアルセラピー」
平成8年8月31日 ～9月1日	第25回北海道理学療法士会技術講習会（札幌大保健医療学部） テーマ「成人片麻痺の評価と治療」
平成8年9月30日 ～10月1日	北海道医療技術者団体連絡協賛議会パネル展（北海道庁ロビー）
平成8年10月3日 ～10月5日	第26回北海道理学療法士会技術講習会（札幌大保健医療学部） テーマ「PNF」
平成8年11月3日	山内孝彦氏 瑞宝章勲五等受章
平成8年11月3日 ～11月4日	第47回北海道理学療法士学会（北見ロイヤルホテル） テーマ「地域ニーズに応えるために」

年 月 日	項 目
平成8年11月30日 ～12月1日	第27回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「地域医療」
平成9年1月25日	冬季研修会（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「福祉用具－車椅子を中心に－」、「脳の可塑性とリハビリテーション」 新年交礼会（KKR札幌）
平成9年1月26日	第28回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「スーパーバイザー研修会」
平成9年2月24日 ～2月25日	第29回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「急性期呼吸管理のリハビリテーション」
平成9年4月19日 ～4月20日	社団法人北海道理学療法士会第6回定期総会（札幌医科大学臨床講堂） 第五代会長 宮本重範 就任 全道8支部へ細分化（道南・日胆・札幌・空知・旭川・十勝・道東・釧根） 第6回全道学術研修大会（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「臨床理学療法の知恵」
平成9年5月31日	新卒者研修会（札幌医科大学保健医療学部）
平成9年7月12日 ～7月13日	第30回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「肩関節の理学療法」
平成9年7月17日	理学療法週間事業（札幌市／大通地下街オーロラスクエア）
平成9年7月26日 ～7月27日	第31回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、札幌秀友会病院） テーマ「嚥下の理学療法」
平成9年9月13日 ～9月14日	第48回北海道理学療法士学会（旭川市民文化会館） テーマ「下肢荷重連鎖における足部の役割」、「足部の機能と動作に果たす役割」
平成9年11月29日 ～11月30日	第32回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「地域医療」
平成10年1月17日	冬季研修会（PT・OT合同研修会）（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「教育活動における学び方、教え方の実践的な内容を求めて」 「福祉工学への歩みとその行方」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成10年1月18日	第33回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「第2回スーパーバイザー研修会」
平成10年1月25日	第34回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「新介護システム（介護保健制度）」
平成10年2月21日 ～2月22日	第35回北海道理学療法士会技術講習会（旭川リハビリテーション病院） テーマ「中枢神経疾患患者の環境適応と運動学習」
平成10年3月14日 ～3月15日	第36回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「急性期呼吸理学療法」
平成10年4月	札幌医科大学保健医療学部大学院 開学
平成10年4月18日 ～4月19日	社団法人北海道理学療法士会第7回定期総会（札幌医科大学臨床講堂） 第7回全道学術研修大会 テーマ「高齢者ケア支援と理学療法」
平成10年5月16日	平成10年度新卒者研修会（札幌医科大学保健医療学部）

年 月 日	項 目
平成10年 6 月21日	第37回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「新介護システム」
平成10年 7 月11日 ～ 7 月23日	理学療法週間事業 道内各地でイベント実施
平成10年 7 月21日 ～ 7 月24日	第38回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「神経モビライゼーション」
平成10年 8 月20日 ～ 8 月22日	全国現職者講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「四肢のマニュアルセラピー」
平成10年 8 月21日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（北海道庁ロビー）
平成10年 8 月24日 ～ 8 月26日	第39回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「PNF技術講習会」
平成10年 9 月12日 ～ 9 月13日	第40回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、札幌秀友会病院） テーマ「嚙下の理学療法」
平成10年10月 3 日 ～10月 4 日	第41回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「腰部の理学療法」
平成10年10月31日	第42回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「急性呼吸不全に対する呼吸理学療法（基礎編）」
平成10年11月21日	創立30周年記念式典・祝賀会（札幌アспенホテル）
平成10年11月21日 ～11月22日	第49回北海道理学療法士学会（創立30周年記念）（北海道大学学術交流会館） テーマ「変革する保健・医療・福祉と理学療法士への期待」
平成10年12月12日 ～12月13日	第43回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「地域医療」
平成11年 1 月23日	冬季研修会、PT・OT合同研修会（北海道大学学術交流会館） テーマ「生き生きコミュニケーション」、「復職援助を考える」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成11年 1 月24日	第44回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「スーパーバイザー研修会」
平成11年 1 月31日	運動制御・運動学習理論の臨床理学療法への展開
平成11年 3 月 6 日 ～ 3 月 7 日	第45回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「急性呼吸不全に対する急性期理学療法」
平成11年 4 月	顧問税理士導入 事務局：時計台病院リハビリテーション部内（札幌市中央区北1条東1丁目）
平成11年 4 月17日 ～ 4 月18日	第 8 回全道学術研修大会（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「地域をもっと身近に」 社団法人北海道理学療法士会第 8 回定期総会（札幌医科大学臨床講堂）
平成11年 5 月15日	新卒者研修会（札幌医科大学保健医療学部）
平成11年 6 月 5 日 ～ 6 月 6 日	第46回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「スポーツ選手の肩甲帯及び肩関節の評価と治療」

年 月 日	項 目
平成11年 6 月 5 日	第47回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「介護保険」
平成11年 6 月13日 ～ 6 月14日	第48回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「上肢の評価」
平成11年 6 月26日 ～ 6 月27日	第49回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「下肢の評価」
平成11年 7 月10日 ～ 7 月11日	第50回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「脊柱の評価」
平成11年 8 月19日 ～ 8 月21日	現職者講習会 テーマ「四肢のマニュアルセラピー」
平成11年 9 月11日 ～ 9 月12日	第51回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、札幌秀友会病院） テーマ「中枢神経疾患へのボバースアプローチ」
平成11年10月	ホームページ開設
平成11年10月 9 日 ～10月10日	第52回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、札幌秀友会病院） テーマ「肩関節の理学療法」
平成11年10月 9 日 ～10月10日	第53回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「慢性呼吸不全のリハビリテーション」
平成11年11月13日 ～11月14日	第50回北海道理学療法士会（岩見沢市文化センター） テーマ「環境 ～身体を制約し越える～」
平成12年 1 月22日	第 6 回PT・OT合同冬季研修会（札幌医科大学臨床講堂） 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成12年 1 月23日	第54回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「スーパーバイザー研修会／臨床実習その知識・技術の具体的な指導方法」
平成12年 3 月11日 ～ 3 月12日	第55回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「急性呼吸不全に対する呼吸理学療法（応用編）」
平成12年 3 月25日	第56回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学実習棟） テーマ「地域医療」
平成12年 4 月15日 ～ 4 月16日	社団法人北海道理学療法士会第 9 回定期総会（札幌医科大学臨床講堂） 第 9 回全道学術研修大会（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「筋力 - 基礎から臨床まで -」
平成12年 5 月13日	新卒者研修会（札幌医科大学臨床講堂）
平成12年 6 月 3 日 ～ 6 月 4 日	第57回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「モビライゼーション&スタビライゼーション」
平成12年 6 月10日 ～ 6 月11日	第58回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「モビライゼーション&スタビライゼーション」
平成12年 7 月17日	理学療法週間パネル展（札幌地下街）
平成12年 7 月27日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（北海道庁ロビー）
平成12年 9 月15日 ～ 9 月16日	第51回北海道理学療法士会（釧路市生涯学習センター「まなぼと幣舞」） テーマ「あなたと考える明日の理学療法」

年 月 日	項 目
平成12年11月18日	第59回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「腰痛の理学療法」
平成12年12月9日	第60回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「地域医療」
平成12年12月9日 ～12月10日	第61回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、札幌秀友会病院） テーマ「中枢神経疾患へのボバースアプローチ」
平成13年1月13日	新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成13年1月28日	第62回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「スーパーバイザー研修会」
平成13年2月24日 ～2月25日	第63回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、時計台病院） テーマ「成人中枢神経疾患の評価と治療 更衣動作に向けて」
平成13年3月10日 ～3月11日	第64回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「呼吸不全の評価」
平成13年4月21日 ～4月22日	第10回全道学術研修大会（札幌医科大学臨床講堂） テーマ「病院から地域へ」
平成13年5月9日	第六代会長 水本善四郎 就任
平成13年5月12日	新卒者研修会（札幌医科大学保健医療学部）
平成13年7月17日	理学療法週間パネル展（札幌地下街オーロラタウン）
平成13年7月20日	現職者講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「四肢のマニュアルセラピー」
平成13年9月16日	第65回北海道理学療法士会技術講習会（市立札幌病院） テーマ「糖尿病」
平成13年9月22日 ～9月23日	第66回北海道理学療法士会技術講習会（市立函館病院） テーマ「IDストレッチング」
平成13年10月16日	PT・OT合同三役会議（水本会長、太田副会長、湯元副会長）
平成13年10月20日 ～10月21日	第67回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、札幌秀友会病院） テーマ「中枢神経疾患のボバースアプローチ」
平成13年11月10日 ～11月11日	第52回北海道理学療法士学会（苫小牧市民会館） テーマ「老化と機能変化」
平成13年11月23日 ～11月24日	第68回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「肩関節の理学療法」
平成13年12月9日	地域医療研修会（北海道大学医学部臨床講堂）
平成14年1月19日	PT・OT合同冬季研修会（センチュリーロイヤルホテル：札幌市） テーマ「地域リハビリテーションの現状とこれから」 新年交礼会（センチュリーロイヤルホテル：札幌市）
平成14年1月27日	第1回スーパーバイザー研修会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「臨床教育を考える」

年 月 日	項 目
平成14年2月23日 ～2月24日	第69回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医大保健医療学部、札幌時計台病院） テーマ「成人中枢神経疾患の評価と治療」
平成14年3月3日	第70回北海道理学療法士会技術講習会（旭川リハビリテーション病院） テーマ「下肢整形外科疾患の評価と治療」
平成14年3月9日 ～3月10日	第71回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「呼吸不全の評価と治療」
平成14年3月23日	第72回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、札幌秀友会病院） テーマ「脳卒中片麻痺者の体幹機能の評価と治療」
平成14年4月20日 ～4月21日	社団法人北海道理学療法士会第11回定期総会（札幌医科大学臨床講堂） 第11回全道学術研修大会 テーマ「介護予防」
平成14年5月15日	第1回北海道地域リハビリテーション協議会（水本善四郎会長）
平成14年5月18日	新卒者研修会（かでの2.7：札幌市）
平成14年6月23日	第2回スーパーバイザー研修会（市立札幌病院） テーマ「臨床実習指導の工夫」
平成14年6月29日 ～6月30日	第73回北海道理学療法士会技術講習会（苫小牧東病院） テーマ「成人中枢神経疾患の評価と治療」
平成14年7月19日 ～7月20日	理学療法週間パネル展（札幌地下街オーロラスクエア）
平成14年7月25日 ～7月27日	現職者講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「脊柱のマニュアルセラピー」
平成14年9月1日	第74回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学病院臨床講堂） テーマ「生活習慣病とその予防」
平成14年9月21日 ～9月22日	第75回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学医療技術短期大学） テーマ「IDストレッチング」
平成14年10月27日	第1回症例検討研修会（札幌医科大学臨床講堂）
平成14年11月	PTマップ発行（会員名簿と合冊）
平成14年11月9日 ～11月10日	第53回北海道理学療法士学会（函館市民会館） テーマ「万人のスポーツ」
平成14年11月23日 ～11月24日	第76回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「肩関節の理学療法」
平成14年11月27日 ～11月30日	北海道理学療法士会技術講習会（追加）（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「オーストラリアマニュアルセラピー」
平成14年12月7日 ～12月8日	第77回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「脳卒中後遺症者の評価と治療」
平成15年1月18日	第9回PT・OT合同冬季研修会（サッポロファクトリーホール） テーマ「地域リハビリテーションの新たな流れ」 新年交礼会（全日空ホテル札幌）
平成15年1月26日	第3回スーパーバイザー研修会（市立札幌病院）

年 月 日	項 目
平成15年2月15日 ～2月16日	第78回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「腰痛症の評価と治療 ～post isometric relaxation」
平成15年3月15日 ～3月16日	第79回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「重症心身障害児の理学療法」
平成15年3月22日 ～3月23日	第80回北海道理学療法士会技術講習会（旭川リハビリテーション病院） テーマ「脳卒中片麻痺の評価と治療」
平成15年4月19日 ～4月20日	社団法人北海道理学療法士会第12回定期総会（札幌医科大学臨床講堂） 第12回全道学術研修大会 テーマ「健康科学と生活習慣病」
平成15年5月17日	新卒者研修会（札幌市北区民センター）
平成15年7月18日	理学療法週間パネル展（JR札幌駅西口コンコース）
平成15年6月7日 ～6月8日	第81回北海道理学療法士会技術講習会（苫小牧東病院） テーマ「腰痛症の評価と治療」
平成15年6月22日	第4回スーパーバイザー研修会（札幌市立高等看護学院）
平成15年7月5日 ～7月6日	第82回北海道理学療法士会技術講習会（北都保健福祉専門学校） テーマ「最新の運動学」
平成15年7月25日 ～7月27日	現職者講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「四肢のマニュアルセラピー」
平成15年8月3日	高校生向けの講演会（2講演と体力測定実演・体験）（札幌市） テーマ「スポーツ医学と理学療法」
平成15年8月4日 ～8月8日	高校生1日リハビリ体験（OT士会と合同事業） 協力施設：道内24施設
平成15年8月23日 ～8月24日	第83回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、時計台病院） テーマ「成人片麻痺患者の評価と治療 ～ボバースコンセプト」
平成15年8月31日	北海道マラソン救護班（従事PT29人）
平成15年9月6日 ～9月7日	第84回北海道理学療法士会技術講習会（日本福祉リハビリテーション学院） テーマ「パワーリハビリテーション」
平成15年9月28日	第85回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学病院臨床講堂） テーマ「生活習慣病とその予防」
平成15年10月2日	北海道大学医学部保健学科設置記念式典
平成15年10月4日 ～10月5日	第86回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医大保健医療学部） テーマ「IDストレッチング」
平成15年10月18日 ～10月19日	第87回北海道理学療法士会技術講習会（旭川療育センター） テーマ「重症児の運動療法」
平成15年11月	創立35周年記念式典・祝賀会（日航ホテル） PTマップ発行
平成15年11月8日 ～11月9日	第54回北海道理学療法士学術大会（かでの2.7：札幌市） テーマ「健康科学と予防のための理学療法」

年 月 日	項 目
平成15年11月22日 ～11月23日	第88回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「肩関節の理学療法」
平成15年12月13日 ～12月14日	第89回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、時計台病院） テーマ「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ」
平成16年1月17日	第10回PT・OT合同冬季研修会（クラーク会館） テーマ「高齢者リハビリテーション」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成16年1月25日	第5回スーパーバイザー研修会（市立札幌病院）
平成16年2月14日 ～2月15日	第90回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「筋膜リリース」
平成16年3月3日	業務推進部主催座談会（札幌市） テーマ「女性の就労に関わる諸問題について」
平成16年3月13日 ～3月14日	第91回北海道理学療法士会技術講習会（函館脳神経外科病院） テーマ「成人片麻痺患者の評価と治療」
平成16年4月17日 ～4月18日	第13回全道学術研修大会（北海道経済センター） テーマ「理学療法と疼痛」
平成16年5月15日	新卒者研修会（クラーク会館）
平成16年6月19日 ～6月20日	第92回北海道理学療法士会技術講習会（帯広第一病院） テーマ「腰痛症の評価と治療」
平成16年6月27日	第6回スーパーバイザー研修会（市立札幌病院）
平成16年7月16日	理学療法週間パネル展（札幌駅西口コンコース）
平成16年7月23日 ～7月25日	現職者講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「脊柱のマニュアルセラピー」
平成16年7月31日	PTマップ発行（会員名簿と合冊）228施設掲載
平成16年7月31日 ～8月1日	第93回北海道理学療法士会技術講習会（旭川リハビリテーション病院） テーマ「成人片麻痺患者の評価と治療 ～ボバースコンセプト」
平成16年8月2日 ～8月6日	高校生1日リハビリ体験（OT士会と合同事業）協力施設：道内31施設
平成16年8月7日	高校生向けの講演会（2講演と体力測定実演・体験）（札幌市） テーマ「スポーツ医学と理学療法」
平成16年8月8日	第94回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学病院臨床講堂） テーマ「生活習慣病とその予防」
平成16年8月28日 ～8月29日	第95回北海道理学療法士会技術講習会（札幌病院） テーマ「成人片麻痺の評価と治療」
平成16年8月29日	北海道マラソン救護班（従事PT15人）
平成16年9月11日 ～9月12日	第96回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「IDストレッチング」

年 月 日	項 目
平成16年 9 月25日 ～ 9 月26日	第97回北海道理学療法士会技術講習会（日本福祉リハビリテーション学院） テーマ「パワーリハビリテーション」
平成16年10月30日 ～10月31日	第55回北海道理学療法士学術大会（旭川市民文化会館） テーマ「バランスって？」
平成16年11月20日 ～11月21日	第99回北海道理学療法士会技術講習会（登別厚生年金病院） テーマ「肩関節の理学療法」
平成16年12月 4 日 ～12月 5 日	第100回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部、時計台病院） テーマ「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ」
平成16年12月18日 ～12月19日	第101回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「下肢運動器疾患に対する理論とその臨床応用」
平成17年 1 月15日	第11回PT・OT合同冬季研修会（札幌市医師会館） テーマ「地域リハビリテーション」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成17年 1 月23日	第 7 回スーパーバイザー研修会（市立札幌病院）
平成17年 2 月12日 ～ 2 月13日	第102回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「筋膜リリース」
平成17年 3 月 5 日 ～ 3 月 6 日	第98回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「重症児の運動療法」
平成17年 3 月20日	第103回北海道理学療法士会技術講習会（苫小牧市民会館） テーマ「運動学；最近の知見を交えて」
平成17年 4 月16日 ～ 4 月17日	第14回全道学術研修大会（札幌コンベンションセンター） テーマ「Therapists Now！」
平成17年 5 月21日 ～ 5 月22日	新卒者研修会（ポルト 札幌市）
平成17年 6 月11日 ～ 6 月12日	第103回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学医学部臨床講堂） テーマ「筋電図と理学療法」
平成17年 6 月26日	第 8 回スーパーバイザー研修会（吉田学園）
平成17年 7 月 2 日 ～ 7 月 3 日	第104回北海道理学療法士会技術講習会（函館脳神経外科病院） テーマ「成人片麻痺患者の評価と治療 ～ボバースコンセプト」
平成17年 7 月 8 日	訪問リハビリテーションに関するアンケート調査
平成17年 7 月15日	理学療法週間パネル展（札幌駅西口コンコースイベント広場） PTマップ発行（会員名簿と合冊）261施設掲載
平成17年 7 月22日 ～ 7 月24日	現職者講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「四肢のマニュアルセラピー」
平成17年 8 月 6 日	高校生向け講演会「スポーツ医学と理学療法」（きたえる 札幌）
平成17年 8 月20日 ～ 8 月21日	第105回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「IDストレッチング」
平成17年 8 月28日	第106回北海道理学療法士会技術講習会（吉田学園） テーマ「運動制御と運動療法」

年 月 日	項 目
平成17年 8月28日	北海道マラソン救護班
平成17年 9月 3日 ～9月 4日	第107回北海道理学療法士会技術講習会（北大医学部保健学科、クラーク病院） テーマ「パワーリハビリテーション」
平成17年10月 1日 ～10月 2日	第108回北海道理学療法士会技術講習会（北都保健福祉専門学校） テーマ「下肢運動器疾患に対する理論とその臨床応用」
平成17年10月 8日 ～10月 9日	第109回北海道理学療法士会技術講習会（札幌療育センター） テーマ「重症児の運動療法」
平成17年10月14日 ～10月16日	きたのくに いきいき福祉・健康フェア2005（アクセスサッポロ）
平成17年10月	事務所開設（札幌市北区北24条東1丁目3-2 樋口ビル4階）
平成17年10月28日	日本理学療法士協会・日本作業療法士協会40周年記念式典 （水本善四郎、太田誠 出席）
平成17年11月 5日 ～11月 6日	北海道理学療法士会臨時総会（帯広市民文化会館） 第56回北海道理学療法士学術大会 テーマ「エビデンス」
平成17年11月26日 ～11月27日	第110回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「肩関節の理学療法」
平成17年12月	訪問看護ステーションポット東開設
平成17年12月 3日 ～12月 4日	第111回北海道理学療法士会技術講習会（登別厚生年金病院） テーマ「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ」
平成17年12月17日 ～12月18日	第112回北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学附属病院） テーマ「腰痛症の評価と治療」
平成18年 1月21日	第12回PT・OT合同冬季研修会（共済ホール） テーマ「介護保険改正と介護予防」 新年交礼会（ホテルニューオータニ札幌）
平成18年 1月22日	第 9 回スーパーバイザー研修会（市立札幌病院）
平成18年 2月11日 ～2月12日	第113回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「筋膜リリース」
平成18年 4月15日 ～4月16日	第15回全道学術研修大会（札幌コンベンションセンター） テーマ「離床促進のためのリハビリテーション」
平成18年 5月20日 ～5月21日	新卒者研修会（札幌コンベンションセンター）
平成18年 6月10日 ～6月11日	第114回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「脊柱のマニュアルセラピー」
平成18年 6月25日	第10回スーパーバイザー研修会（吉田学園） テーマ「臨床実習指導で抱える問題点」
平成18年 7月 1日 ～7月 2日	第115回北海道理学療法士会技術講習会（森山メモリアル病院） テーマ「成人片麻痺患者の評価と治療」

年 月 日	項 目
平成18年7月14日	理学療法週間パネル展（JR札幌駅西コンコース） 紹介パネル、道新コラムからの福祉・介護用品の展示
平成18年7月21日 ～7月23日	現職者講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「脊柱・骨盤のマニュアルセラピー –評価と治療手段–」
平成18年8月27日	北海道マラソン救護班15名
平成18年9月9日 ～9月10日	第116回北海道理学療法士会技術講習会（吉田学園） テーマ「パワーリハビリテーション」
平成18年9月13日	診療報酬部座談会「介護保険関連」（柏葉脳神経外科病院） 参加施設：介護療養病棟をもつ4病院、介護老人保健施設4施設
平成18年10月	ケアマネジャーに対する訪問リハアンケート実施
平成18年10月1日	高校生対象講演会（2講演と体力測定実演・体験）（きたえる 札幌） テーマ「スポーツ医学と理学療法」
平成18年10月15日	第117回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「下肢運動器疾患に対する理論とその臨床応用」
平成18年11月11日 ～11月12日	第57回北海道理学療法士学術大会（岩見沢市民会館・文化センター） テーマ「理学療法の未来像」
平成18年11月18日 ～11月19日	第118回北海道理学療法士会技術講習会（帯広開西病院） テーマ「肩関節の理学療法」
平成18年11月25日 ～11月26日	第119回北海道理学療法士会技術講習会（時計台記念病院） テーマ「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ」
平成18年12月16日 ～12月17日	現職者講習会（吉田学園） テーマ「臨床運動学的評価法」
平成19年1月20日	第13回PT・OT合同冬季研修会（道新ホール） テーマ「地域での連携について」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成19年2月10日 ～2月11日	第120回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「筋膜リリース」
平成19年2月17日 ～2月18日	第121回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「PNF」
平成19年3月11日	第11回スーパーバイザー研修会（北海道大学病院臨床講堂） テーマ「コミュニケーション」 社団法人北海道理学療法士会第16回定期総会（北海道大学病院臨床講堂）
平成19年4月14日 ～4月15日	第16回全道学術研修大会（金森ホール：函館市） テーマ「理学療法再考」
平成19年5月19日 ～5月20日	新卒者研修会（札幌コンベンションセンター）
平成19年5月20日	社団法人北海道理学療法士会第17回定期総会（札幌コンベンションセンター）
平成19年6月24日	第12回スーパーバイザー研修会（市立札幌病院） テーマ「臨床実習教育」

年 月 日	項 目
平成19年 7月13日	理学療法週間パネル展（札幌支部と共催）（JR札幌駅西コンコース）
平成19年 7月20日 ～ 7月21日	現職者講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「四肢関節のマニュアルセラピー – 評価と治療手技 –」
平成19年 7月26日 ～ 7月27日	北海道医療技術者団体連絡協議会（北海道庁ロビー）
平成19年 8月 1日	平成19年度診療報酬改定影響アンケート調査
平成19年 8月 4日 ～ 8月 5日	第122回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「PNF」
平成19年 8月11日 ～ 8月12日	第123回北海道理学療法士会技術講習会（苫小牧東病院） テーマ「成人片麻痺者の評価と治療 ～ボバースコンセプト」
平成19年 8月26日	第124回北海道理学療法士会技術講習会（吉田学園） テーマ「下肢運動連鎖と理学療法」
平成19年 9月 9日	北海道マラソン救護班
平成19年 9月15日 ～ 9月16日	第125回北海道理学療法士会技術講習会（北都保健福祉専門学校） テーマ「肩関節の理学療法」
平成19年 9月22日 ～ 9月23日	現職者講習会（札幌札幌リハビリテーション専門） テーマ「臨床運動学的評価法」
平成19年10月 6日 ～10月 7日	第126回北海道理学療法士会技術講習会（札幌あゆみの園） テーマ「脳性麻痺児の24時間姿勢ケア」
平成19年10月 7日	札幌マラソン大会救護班
平成19年10月12日 ～10月14日	きたのくに いきいき健康・福祉フェア2007（アクセスサッポロ）
平成19年10月27日	高校生対象講演会（2講演と体力測定実演・体験）（きたえる 札幌） テーマ「スポーツ医学と理学療法」
平成19年11月 3日 ～11月 4日	第58回北海道理学療法士学術大会（札幌コンベンションセンター） テーマ「脳と運動」
平成19年11月 4日	地域リハビリテーション広域支援センター意見交換会（札幌コンベンションセンター）
平成19年12月 8日 ～12月 9日	第127回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「整形外科疾患に対する運動療法」
平成19年12月15日 ～12月16日	第128回北海道理学療法士会技術講習会（札幌禎心会病院） テーマ「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ」
平成19年 1月19日	第14回PT・OT合同冬季研修会（共済ホール） テーマ「他職種から見た理学療法士・作業療法士」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成20年 2月 1日	PTマップ単独発行（関連団体等へ発送）
平成20年 2月 9日 ～ 2月10日	第129回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「脊柱疾患に対する理学療法」
平成20年 2月10日	札幌国際スキーマラソン救護班

年 月 日	項 目
平成20年2月16日	地域リハビリテーション広域支援センター意見交換会（札幌市社会福祉総合センター）
平成20年2月22日 ～2月23日	第130回北海道理学療法士会技術講習会（北都保健福祉専門学校） テーマ「運動療法のための筋膜リリース」
平成20年3月9日	第13回スーパーバイザー研修会（札幌コンベンションセンター） テーマ「インストラクションの鉄則」
平成20年4月19日 ～4月20日	第17回全道学術研修大会（ホテルローヤル：伊達市） テーマ「地域リハビリテーション」
平成20年5月	札幌市理学療法赤十字団結成
平成20年5月24日 ～5月25日	新人教育プログラム 1年次研修会（札幌コンベンションセンター）
平成20年6月8日	第14回スーパーバイザー研修会（市立札幌病院） テーマ「意志ある学びで臨床実習が変わる」
平成20年6月21日 ～6月22日	第131回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「脊柱に対する徒手療法」
平成20年7月18日	理学療法週間パネル展（札幌支部と共催）（JR札幌駅西コンコース）
平成20年7月19日 ～7月21日	現職者講習会（北海道文教大学） テーマ「脊柱・骨盤のマニュアルセラピー」
平成20年7月24日 ～7月25日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（北海道庁ロビー）
平成20年8月	事務所移転（札幌市北区北24条西3丁目1-7 商工センタービル5階）
平成20年8月	平成20年診療報酬改定アンケート調査実施 離職に関するアンケート調査実施
平成20年8月30日 ～8月31日	新人教育プログラム 2年次研修会（札幌商工会議所）
平成20年8月31日	北海道マラソン救護班
平成20年9月13日 ～9月14日	現職者講習会（吉田学園） テーマ「臨床運動学的評価法」
平成20年10月	訪問看護ステーションポット東本会から独立し、NPO法人へ移行
平成20年10月10日 ～10月11日	第43回日本理学療法士協会学術研修大会in北海道（札幌コンベンションセンター） テーマ「評価の再考」
平成20年10月12日	第59回北海道理学療法士学術大会（札幌コンベンションセンター） テーマ「ADL評価の再考」
平成20年10月17日 ～10月19日	いきいき福祉・健康フェア2008（アクセスサッポロ） テーマ「用具活用術セミナー40周年記念講演会、いきいき体操体験コーナー、ブース展示」
平成20年11月1日 ～11月2日	第133回北海道理学療法士会技術講習会（札幌あゆみの園） テーマ「GMSCS LevelVの脳性まひのこどもと成人のための理学療法」

年 月 日	項 目
平成20年11月15日	創立40周年記念式典・祝賀会（京王プラザホテル札幌） 記念講演「動作分析 臨床では卒前教育が役に立っていますか」
平成20年11月26日	業務推進部座談会（国立病院機構北海道がんセンター） テーマ「離職に関する意識」 離職に関するアンケート調査結果の提示と離職経験者同士の意見交換
平成21年1月17日	第15回PT・OT合同冬季研修会（道新ホール：札幌市） テーマ「歩行の神経科学」 新年交礼会（京王プラザホテル札幌）
平成21年1月24日 ～1月25日	第134回北海道理学療法士会技術講習会（函館稜北病院） テーマ「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ」
平成21年1月24日 ～1月25日	第135回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「肩関節の理学療法」
平成21年2月14日	中高校生対象講演会（講演と体力測定実演・体験）（きたえる 札幌） テーマ「スポーツ医学と理学療法」
平成21年2月21日	地域リハビリテーション広域支援センター意見交換会（かでの2.7：札幌市）
平成21年2月28日 ～3月1日	第136回北海道理学療法士会技術講習会（北海道文教大学） テーマ「運動療法のための筋膜リリース」
平成21年3月7日	社団法人北海道理学療法士会第20回定期総会（札幌コンベンションセンター）
平成21年3月21日 ～3月22日	臨床実習指導者研修会（兼第15回スーパーバイザー研修会） （北海道リハビリテーション大学校）
平成21年3月29日	スポーツ関連公益事業支援スタッフ育成講習会（日本福祉リハビリテーション学院）
平成21年4月	第七代会長 太田誠 就任
平成21年4月18日 ～4月19日	第18回全道学術研修大会（旭川市公会堂） テーマ「PT、医療経済を考える!!」
平成21年5月16日 ～5月17日	新人教育プログラム 1年次研修会（札幌コンベンションセンター）
平成21年5月17日	社団法人北海道理学療法士会第21回定期総会（札幌コンベンションセンター） 地域リハ推進部主催研修会 テーマ「訪問リハビリテーション創設に向けて -これから我々が為すべきこと」
平成21年5月24日	理学療法士講習会（基本編）（札幌コンベンションセンター） テーマ「徒手療法の理論的背景と基礎」
平成21年6月20日 ～6月21日	第137回北海道理学療法士会技術講習会（北海道子ども総合医療・療育センター） テーマ「理学療法が必要な小児疾患の理解と理学療法の実際について」
平成21年6月27日	業務推進部研修会（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「感染対策～理学療法における感染予防」
平成21年7月5日	第16回スーパーバイザー研修会（初級編）（市立札幌病院） テーマ「実習場面における学生指導 ～成長し続ける学生との関わり方を考える」
平成21年7月18日 ～7月19日	理学療法士講習会（応用編）（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「臨床運動学的評価法」

年 月 日	項 目
平成21年8月8日 ～8月9日	新人教育プログラム 2年次研修会（札幌商工会議所）
平成21年9月6日	第17回スーパーバイザー研修会（上級編）（市立札幌病院） テーマ「臨床実習の備え ～始まる前に考えておくべきこと、すべきこと～」
平成22年9月12日 ～9月13日	第138回北海道理学療法士会技術講習会（開西病院：帯広市） テーマ「肩関節の理学療法」
平成21年9月19日	業務推進部研修会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「より良い職場をつくるには ～人材という観点から～」
平成21年10月10日	第139回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「FIM」
平成21年11月8日	理学療法士講習会（基礎編）（北海道大学臨床講堂） テーマ「レントゲンの診方 ～骨関節系～」
平成21年11月14日	業務推進部研修会（札幌医療福祉デジタル専門学校） テーマ「からだとことばのペーシング」
平成21年11月21日 ～11月22日	第60回北海道理学療法士学術大会（札幌コンベンションセンター） テーマ「高齢社会の理学療法 ～あなたのリスク管理は大丈夫ですか？～」
平成21年12月5日 ～12月6日	新人教育プログラム 3年次研修会（共済ホール：札幌市）
平成22年1月16日	第16回PT・OT合同冬季研修会（共済ホール：札幌市） テーマ「認知症の診断と治療、リハビリテーションの実践」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成22年2月13日 ～2月14日	第140回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「post isometric relaxation」
平成22年2月27日	社団法人北海道理学療法士会第22回定期総会（札幌医学技術福祉専門学校）
平成22年3月6日 ～3月7日	第141回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ」
平成22年3月6日 ～3月7日	第18回スーパーバイザー研修会（中級編）（市立札幌病院） テーマ「臨床実習教育の進め方 =学習につまずきのある学生への教授法=」 「臨床実習を円滑に進めるために -この10年の取り組み-」
平成22年4月24日 ～4月25日	第19回全道学術研修大会（釧路市生涯学習センター（まなぼっと斂舞）） テーマ「リスク管理 ～今、理学療法士に何が求められているのか～」
平成22年5月15日 ～5月16日	新人教育プログラム 1年次研修会（札幌医学技術福祉専門学校）
平成22年6月6日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「徒手の理学療法の基礎～脊柱・骨盤に関して～」
平成22年6月19日	感染対策研修会（札幌医療科学専門学校）
平成22年6月27日	第19回スーパーバイザー研修会（初級編）（札幌市立病院）
平成22年8月7日 ～8月8日	第142回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医療福祉デジタル専門学校） テーマ「痛みに対する理学療法」

年 月 日	項 目
平成22年 8 月 7 日 ～ 8 月 8 日	平成22年度新人教育プログラム 2 年次研修会（北海道経済センタービル）
平成22年 8 月 21 日 ～ 8 月 22 日	第143回北海道理学療法士会技術講習会（旭川肢体不自由児総合療育センター） テーマ「理学療法が必要な小児疾患の理解と理学療法の実践について」
平成22年 8 月 21 日 ～ 8 月 22 日	第144回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「片麻痺歩行病態の新たな評価と分析に基づいた下肢装具療法の介入」
平成22年 8 月 29 日	北海道マラソン救護班（前日にパークホテルに於いてブース出展）
平成22年 9 月 4 日 ～ 9 月 5 日	第145回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「肩のスポーツ障害後の理学療法」
平成22年 9 月 12 日	第20回スーパーバイザー研修会（上級編）（市立札幌病院）
平成22年 10 月 3 日	第146回北海道理学療法士会技術講習会（市立札幌病院） テーマ「糖尿病と理学療法」
平成22年 10 月 9 日	中高生対象理学療法セミナー テーマ「スポーツ障害から転倒予防まで」
平成22年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日	理学療法士講習会（基本編）（日本福祉リハビリテーション学院） テーマ「行動分析学に基づいた日常生活動作練習について」
平成22年 11 月 1 日	公益社団法人認可
平成22年 11 月 6 日 ～ 11 月 7 日	第61回北海道理学療法士学術大会（札幌コンベンションセンター） テーマ「プロフェッショナルへの途 ースペシャリストからの脱却ー」
平成22年 11 月 20 日	職域事業部研修会（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「通所系サービスのリハビリテーションのあり方を考える」
平成22年 11 月 27 日	職域事業部研修会（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「コーチングの基礎」
平成22年 12 月 11 日 ～ 12 月 12 日	新人教育プログラム 3 年次研修会（札幌医学技術福祉専門学校）
平成22年 12 月 12 日	理学療法士講習会（基本編）（北海道大学臨床大講堂） テーマ「レントゲン・MRI・CTの診方 ～神経系～」
平成22年 12 月 18 日	公益社団法人北海道理学療法士会 第 1 回臨時総会（札幌医科大学記念ホール） 事務局、学術局、教育局、社会局、職能局、支部事業局の 6 局体制へ変更
平成23年 1 月 15 日	第17回PT・OT合同冬季研修会 テーマ「地域リハビリテーションにおける連携について」 公益社団法人北海道理学療法士会 新年交礼会（札幌全日空ホテル） （※以降は、関連各団体、養成校、企業、議員等を迎えて開催）
平成23年 1 月 22 日 ～ 1 月 23 日	第147回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「よりよい吸器理学療法を実践するための環境づくり」
平成23年 1 月 23 日	理学療法士講習会（基本編、技術）（北海道千歳リハビリテーション学院） テーマ「関節可動域治療の基本 ～下肢に関する関節可動域治療手技～」
平成23年 2 月 19 日 ～ 2 月 20 日	第148回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「生活期におけるリハビリテーション ～評価を中心にした考え方と実践～」

年 月 日	項 目
平成23年2月19日 ～2月20日	第21回スーパーバイザー研修会（中級編）（市立札幌病院） テーマ「臨床実習の質向上」
平成23年2月26日 ～2月27日	北海道三士会合同訪問リハビリテーション実務者研修会 （札幌医学技術福祉専門学校）
平成23年3月6日	第1回健康支援スタッフ育成講習会（札幌市社会福祉総合センター） テーマ「介護予防・転倒予防関係事業の基本的スキル、実技」
平成23年4月23日 ～4月24日	第20回全道学術研修大会（小樽市民会館） テーマ「動作分析の再考 ～プロフェッショナルはこう見ている～」
平成23年4月24日	平成23年度新人教育プログラムセミナー（春）（小樽市民会館）
平成23年5月14日	公益社団法人北海道理学療法士会第2回定時総会（北海道大学学術交流会館） 平成23年度新人教育プログラム1年次研修会（北海道大学クラーク会館）
平成23年6月19日	第5回スポーツ支援育成講習会（札幌医療技術福祉専門学校） テーマ「これだけは抑えておきたいスポーツ現場帯同時のポイント」
平成23年6月25日 ～6月26日	第149回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「下肢スポーツ外傷のリハビリテーション -機能的評価の仕方と対処法-」
平成23年6月26日	第22回スーパーバイザー研修会（初級編）（市立札幌病院） テーマ「学生を生かしたコーチング」
平成23年7月2日	通所関連施設従事者研修会（札幌医学福祉技術専門学校） テーマ「聴いてみよう・話してみよう ～近隣の通所施設でのセラピストの取り組みについて」
平成23年7月8日	市民公開講座（札幌）（手稲溪仁会病院） テーマ「息切れのリハビリって？（加齢と呼吸のリハビリテーション）」
平成23年7月13日	市民公開講座（釧根）（釧路労災病院） テーマ「移乗講習会」
平成23年7月17日	市民公開講座（旭川）（アッシュアトリウム） テーマ「腰痛と膝痛の運動療法」
平成23年8月18日 ～8月19日	北海道医療技術者団体連絡協議会（北海道庁ロビー）
平成23年8月27日	コミュニケーション研修会（北海道難病センター） テーマ「相手が自発的に行動を起こすコミュニケーション」
平成23年8月28日	北海道マラソン2011救護班
平成23年8月27日 ～8月28日	第150回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「姿勢コントロールと運動コントロール」
平成23年9月3日 ～9月4日	第151回北海道理学療法士会技術講習会（開西病院：帯広市） テーマ「侵害受容性疼痛に対する理学療法」
平成23年9月3日 ～9月4日	新人教育プログラム2年次研修会（札幌医学技術福祉専門学校）
平成23年9月3日	成人対象スポーツ医学と理学療法講演会（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「ひざイタに対する理学療法」

年 月 日	項 目
平成23年9月10日	職場管理研修1（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「組織の中におけるリハビリの位置づけ」
平成23年9月11日	スーパーバイザー研修会（上級編）（市立札幌病院） テーマ「実習指導を職場教育にどう活かすか」
平成23年9月24日 ～9月25日	第152回北海道理学療法士会技術講習会（北都保健福祉専門学校） テーマ「片麻痺歩行病態の新たな評価と分析に基づいた3D 下肢装具療法の介入」
平成23年10月14日 ～10月16日	いきいき福祉・健康フェア2011（アクセスサッポロ） ブース出展「健康維持をめざして ～膝・腰・肩の元気のために～」 ステージセミナー「膝イタ予防の豆知識と簡単エクササイズ」
平成23年10月30日	第154回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「糖尿病治療と理学療法」
平成23年10月30日	第6回スポーツ支援育成講習会（札幌医療技術福祉専門学校） テーマ「これだけは知っておきたいスポーツ現場での知識 腰痛編」
平成23年11月26日 ～11月27日	第155回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「脳性麻痺児への介入方法に結びつく評価への挑戦」
平成23年12月3日 ～12月4日	新人教育プログラム3年次研修会（札幌医学技術福祉専門学校）
平成23年12月5日	自立支援法下の理学療法士座談会（新さっぽろ脳神経外科病院）
平成23年12月10日	職場管理研修2（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「医療保険・介護保険同時改定を見据えて」
平成24年1月21日	第18回PT・OT合同冬季研修会（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「嚥下障害のリハビリテーションと栄養サポートチーム」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成24年1月28日 ～1月29日	第157回北海道理学療法士会技術講習会（北見赤十字病院） テーマ「循環器に対する理学療法」
平成24年2月4日	中高生向けスポーツ医学と理学療法講演会（札幌エルプラザ） テーマ「スポーツ障害から転倒予防まで」
平成24年2月6日	第2回健康支援育成講習会（札幌市中央区民センター）
平成24年2月18日	第156回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「パーキンソン病に対する理学療法」
平成24年2月18日 ～2月19日	北海道ブロック臨床実習指導者研修会兼スーパーバイザー研修会（中級編） （手稲溪仁会病院）
平成24年2月25日	北海道三士会合同訪問リハビリテーション実務者研修会（札幌医学技術福祉専門学校）
平成24年3月17日	第158回北海道理学療法士会技術講習会（東小樽病院） テーマ「信頼を得るサービスを提供するために」
平成24年3月24日 ～3月25日	第153回北海道理学療法士会技術講習会（北海道文教大学） テーマ「腰痛に対する理学療法」
平成24年4月21日 ～4月22日	第21回全道学術研修大会（岩見沢市民会館／文化センター） テーマ「理学療法とクオリティ・マネジメント」

年 月 日	項 目
平成24年 5月19日 ～ 5月20日	新人教育プログラム初期必須研修会（北海道大学クラーク会館）
平成24年 6月10日	理学療法士講習会（基本編）（北海道文教大学） テーマ「徒手の理学療法の基礎 - 脊柱・骨盤に対して -」
平成24年 6月10日	第7回スポーツ支援育成講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「コレだけは押さえておきたいスポーツ関連事業帯同時のポイント」
平成24年 6月16日	公益社団法人北海道理学療法士会第3回定時総会（北海道経済センタービル）
平成24年 6月23日	コミュニケーション研修（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成24年 7月1日	第25回スーパーバイザー研修会（初級）（市立札幌病院） テーマ「ティーチングやコーチングの紹介と実際」
平成24年 7月7日 ～ 7月8日	第159回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「感覚システム」
平成24年 7月11日	理学療法週間事業 理学療法セミナー（函館市総合保健センター）
平成24年 7月12日 ～ 7月13日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（北海道庁ロビー）
平成24年 7月21日	理学療法週間事業 理学療法セミナー（岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」） 理学療法週間事業 理学療法セミナー（帯広市保健福祉センター）
平成24年 8月5日	第3回健康支援育成講習会（札幌市中央区民センター） テーマ「介護予防事業の運営と実際」
平成24年 9月1日 ～ 9月2日	新人教育プログラム選択研修会2（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成24年 9月8日	職場管理研修（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成24年 9月9日	第26回スーパーバイザー研修会（上級編）（市立札幌病院）
平成24年 9月30日	理学療法士講習会（基本編）（北海道文教大学） テーマ「観察による歩行分析」
平成24年10月28日	第160回北海道理学療法士会技術講習会（西小樽病院） テーマ「初めて重症心身障害児・者に関わる上で押さえておきたいポイント」
平成24年10月28日	第8回スポーツ支援育成講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「テーピングの基礎と実習（下肢）」
平成24年11月10日 ～11月11日	第63回北海道理学療法士学術大会（苫小牧市民会館） テーマ「チームとして必要とされる理学療法士像」
平成24年11月24日 ～11月25日	第161回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「観察による臨床運動・動作分析」
平成24年12月1日 ～12月2日	新人教育プログラム選択研修会3（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成24年12月9日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道大学学友会館フラテ） テーマ「画像（レントゲン・MRI・CT）の診方 ～神経系～」

年 月 日	項 目
平成24年12月15日 ～12月16日	理学療法士講習会（応用編）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「脊柱・体幹の触診機能解剖」
平成25年1月19日	第19回PT・OT・ST合同冬季研修会（札幌医学技術福祉専門学校） テーマ「これからの北海道リハビリテーション」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成25年1月26日	通所関連施設従事者研修会
平成25年1月27日	理学療法講習会（基本編、技術）（北海道千歳リハビリテーション学院） テーマ「関節可動域治療の基本 ～下肢に関する関節可動域治療手技～」
平成25年2月9日 ～2月10日	北海道ブロック臨床実習指導者研修会兼スーパーバイザー研修会（中級編） （市立札幌病院）
平成25年2月17日	第162回北海道理学療法士会技術講習会（代謝）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「糖尿病と理学療法 ～医学的治療戦略と理学療法の実際～」
平成25年2月17日	第163回北海道理学療法士会技術講習会（スポーツ）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「障害者スポーツに対する理学療法」
平成25年2月24日	第164回北海道理学療法士会技術講習会（呼吸）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「呼吸合併症を予防する理学療法戦略 ～何故、呼吸合併症は起こるのか～」
平成25年3月25日	事務所移転（札幌市中央区北3条西2丁目1 カミヤマビル4階）
平成25年3月16日	第165回北海道理学療法士会技術講習会（生活支援）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「見方が変われば味方が変わる!! 信頼関係構築のスキル」
平成25年4月20日 ～4月21日	第22回全道学術研修大会（北見芸術文化ホール） テーマ「明日へつながる理学療法 ～プロフェッショナルはこう考える～」
平成25年5月18日 ～5月19日	新人教育プログラム初期必須研修会（北海道大学クラーク会館）
平成25年6月9日	理学療法士講習会開催基本編（北海道文教大） テーマ「徒手の理学療法の基礎 ～四肢に関して」
平成25年6月9日	第9回スポーツ支援育成講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成25年6月15日	公益社団法人北海道理学療法士会第4回定時総会（北海道経済センタービル）
平成25年6月15日	コミュニケーション関連研修会（ベーシック編）（札幌医療リハビリ専門学校）
平成25年6月23日	第166回北海道理学療法士会技術講習会（スポーツ）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「ランニング障害に対する理学療法」
平成25年6月30日	第27回スーパーバイザー研修会（初級）（北海道リハビリテーション大学校）
平成25年7月13日 ～7月15日	理学療法士講習会（応用編）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「四肢の触診機能解剖」
平成25年7月17日	理学療法週間事業 理学療法セミナー（函館市総合保健センター）
平成25年7月20日 ～7月21日	第167回北海道理学療法士会技術講習会（運動器）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「股関節とリーズニング」
平成25年7月27日	理学療法週間事業 理学療法セミナー（室蘭市中小企業センター） コミュニケーション関連研修会（スキルアップ編）（札幌医療リハビリ専門学校）

年 月 日	項 目
平成25年 8 月 4 日	第 4 回健康スタッフ支援育成研修会（手稲区民センター）
平成25年 8 月10日	理学療法週間事業 理学療法セミナー（北見市民会館）
平成25年 8 月25日	2013北海道マラソン救護班
平成25年 9 月 7 日	第168回北海道理学療法士会技術講習会（スポーツ）（北海道文教大学） テーマ「障害者スポーツに対する理学療法」
平成25年 9 月21日	職場管理研修（札幌医療リハビリ専門学校） テーマ「職場におけるメンタルヘルス」
平成25年 9 月21日 ～ 9 月22日	理学療法士講習会（応用編）（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「NICUの理学療法 ～早産・低出生体重児のFollow Up～」
平成25年 9 月29日	理学療法士講習会（基本編）（北見赤十字病院） テーマ「観察による歩行分析」
平成25年10月18日 ～10月20日	いきいき福祉・健康フェア2013（アクセスサッポロ） 「快適な生活のための健康維持コーナー」
平成25年10月19日 ～10月20日	第169回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「hands on therapyと運動学習」
平成25年10月20日	第10回スポーツ支援育成講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「これだけは押さえておきたいスポーツ関連事業帯同時のポイント ～野球編～」
平成25年10月26日 ～10月27日	第170回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「通所リハの現状と理学療法士の目指す道」
平成25年11月 2 日	創立45周年記念式典・祝賀会（札幌全日空ホテル）
平成25年11月 2 日 ～11月 3 日	第64回北海道理学療法士学術大会（創立45周年記念大会） （札幌コンベンションセンター） テーマ「リハビリテーション・マインド」
平成25年11月30日 ～12月 1 日	第171回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「観察による臨床運動・動作分析 ～脳血管障害後遺症に焦点をあてて～」
平成25年12月 3 日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（札幌駅前通地下歩行空間）
平成25年12月 8 日	理学療法士講習会基本編（北海道大学医学部臨床大講堂） テーマ「画像（レントゲン・MRI・CT）の診方 ～骨関節系～」
平成25年12月14日 ～12月15日	新人教育プログラム選択研修会 2（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成26年 1 月18日	平成25年度PT・OT・ST合同冬季研修会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「リスクマネジメントと事故対応 ～事例から見る法的責任～」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成26年 1 月26日	理学療法士講習会基本編・技術（北海道千歳リハビリテーション学院） テーマ「関節可動域治療の基本 ー下肢に対する関節可動域治療手技ー」
平成26年 2 月 2 日	第34回札幌国際スキーマラソン救護班
平成26年 2 月 9 日	スーパーバイザー研修会上級編（市立札幌病院） テーマ「職場管理 ～人材育成と学生指導」

年 月 日	項 目
平成26年2月23日	第172回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「リンパ浮腫に対する複合的治療を中心とする保存的治療」
平成26年3月2日	第173回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「循環器に対する理学療法」
平成26年4月20日	第11回スポーツ支援育成講習会（札幌市西区民センター） テーマ「北海道高等学校野球メディカルサポート事前講習会」
平成26年4月26日 ～4月27日	第23回全道学術研修大会（恵庭市民会館） テーマ「臨床と研究の融合」
平成26年4月29日	福田修氏 旭日双光章受章（春）
平成26年6月8日	第174回北海道理学療法士会技術講習会（NTT病院） テーマ「スポーツ現場におけるメディカルチェックの考え方とその実践」
平成26年6月14日 ～6月15日	新人教育プログラム必須初期研修会（北海道大学クラーク会館）
平成26年6月15日	第12回スポーツ支援育成講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「北海道マラソンメディカルスタッフ必須研修会」
平成26年6月21日	公益社団法人北海道理学療法士会第5回定時総会 （TKP札幌駅カンファレンスセンター）
平成26年6月30日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（札幌駅前通地下広場）
平成26年7月5日	地域包括ケア推進リーダー導入研修会（旭川会場）（北都保健福祉専門学校）
平成26年7月12日	コーチング研修会1 ベーシック編（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成26年7月20日	域包括ケア推進リーダー導入研修会（札幌会場） （札幌医科大学 記念ホール）
平成26年7月26日 ～7月27日	理学療法士講習会（応用編）（北海道医療大） テーマ「クリニカルリーズニング ～肩関節運動機能障害を通して～」
平成26年7月27日	スーパーバイザー研修会（市立札幌病院）
平成26年8月3日	第5回健康支援育成講習会（介護予防推進リーダー導入研修会） （札幌市南区民センター）
平成26年8月9日	通所関連施設従事者研修会（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成26年8月10日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「徒手理学療法の基礎 ～脊柱・骨盤に対して～」
平成26年8月30日 ～8月31日	第175回北海道理学療法士会技術講習会（北海道医療大） テーマ「生活期に必要な福祉用具と補装具の知識とその活用の仕方 ～生活環境整備に向けて～」
平成26年8月31日	2014北海道マラソン救護班（参加者16,000人、従事PT63人）
平成26年9月13日	地域包括ケアシステムについて学ぼう（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成26年9月20日	介護予防推進リーダー導入研修会（札幌市生涯学習センター ちえりあ）

年 月 日	項 目
平成26年 9月20日 ～ 9月21日	理学療法士講習会（応用編）（札幌医科大学保健医療学部） テーマ「NICUの理学療法 ～早産・低出生体重児のNICU及び退院後のFollow-upの実際」
平成26年 9月28日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「観察による歩行分析」
平成26年10月 4日 ～10月 5日	第176回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「姿勢制御と歩行」
平成26年10月11日 ～10月12日	新人教育プログラム選択研修会 1（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成26年10月17日 ～10月19日	いきいき福祉・健康フェア2014（アクセスサッポロ） ブース出展、市民セミナー テーマ「腰・膝を守りながら運動を楽しむ身体づくり」
平成26年10月18日	コーチング研修 2 スキルアップ編（札幌医療リハビリ専門学校）
平成26年10月19日	第13回スポーツ支援育成講習会（北海道科学大学保健医療学部） テーマ「スポーツ選手を対象とした肩のコンディショニング」
平成26年10月18日 ～10月19日	理学療法士講習会応用編（北海道リハビリテーション大学） テーマ「脊柱・体幹の触診機能解剖」
平成26年10月25日 ～10月26日	第65回北海道理学療法士学術大会（帯広市民文化ホール） テーマ「近未来への期待と準備 ～再生医療と地域包括ケアシステム～」
平成26年11月29日 ～10月30日	第177回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「観察による臨床運動・動作分析 ～運動器疾患に焦点をあてて～」
平成26年12月 6日 ～12月 7日	新人教育プログラム選択研修会 2（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成26年12月14日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道大学学術交流会館） テーマ「画像（レントゲン・MRI・CT）の診方 ～神経編～」
平成27年 1月24日	第178回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「呼吸リハビリテーション ～救急・周術期から回復期・退院へのアプローチ ～呼吸障害を全身疾患として捉える～」
平成27年 1月25日	理学療法士講習会（基本編、技術）（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「関節可動域治療の基本 ～下肢に対する関節可動域治療手技～」
平成27年 1月31日	平成26年度PT・OT・ST合同冬季研修会（札幌医療リハビリ専門学校） テーマ「地域包括ケアシステムにおけるリハ専門職の役割」 新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成27年 2月19日	道民向けセミナー（介護予防）（札幌エルプラザ） テーマ「尿漏れ予防で介護予防」
平成27年 2月15日	第179回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「糖尿病と理学療法 ～臨床家にとって必要な知識～」
平成27年 2月28日	第180回北海道理学療法士会技術講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「循環器に対する理学療法」
平成27年 4月19日	第14回スポーツ育成講習会（札幌市手稲区民センター） テーマ「北海道高校野球メディカルサポート事前講習会」

年 月 日	項 目
平成27年 5月23日 ～5月24日	第24回全道学術研修大会（釧路市生涯学習センター） テーマ「クリニカルリーズニング」
平成27年 6月 6日	水本善四郎氏 厚生労働大臣表彰受賞
平成27年 6月 9日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（札幌駅前通地下歩行空間）
平成27年 6月14日	第15回スポーツ育成講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「ランニング障害へのリハビリテーション」
平成27年 6月20日	公益社団法人北海道理学療法士会第 6 回定時総会（北海道経済センタービル）
平成27年 6月27日	地域包括ケアシステムについて学ぼう（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成27年 6月30日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（札幌駅前通地下広場）
平成27年 7月 4日 ～7月 5日	理学療法士講習会（応用編、運動器）（釧路協立病院） テーマ「クリニカルリーズニング ～膝関節に関して～」
平成27年 7月12日	新人教育プログラム必須初期研修会（札幌コンベンションセンター）
平成27年 8月 2日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「徒手の理学療法の基礎 ～四肢に関して～」
平成27年 8月 8日	地域包括ケア推進リーダー導入研修会（札幌医療リハビリ専門学校）
平成27年 8月23日	第 5 回健康支援スタッフ講習会（札幌市西区民センター 第3、4 集会室） テーマ「地域包括ケアにおけるケアマネージャーとセラピストの連携」
平成27年 8月29日	通所関連従事者研修会（札幌医療リハビリ専門学校）
平成27年 8月30日	2015北海道マラソン救護班（参加者18,000人、従事PT40人）
平成27年 8月30日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「観察による歩行分析」
平成27年 9月12日 ～9月13日	第182回北海道理学療法士会技術講習会（北海道医療大学） テーマ「生活期に必要な福祉用具と補装具とその活用の仕方」
平成27年 9月19日 ～9月20日	理学療法士講習会（応用編）（札幌医科大学 保健医療学部） テーマ「NICUにおける理学療法の実際」
平成27年 9月26日 ～9月27日	北海道リハビリテーション三団体連絡協議会訪問リハビリテーション実務者研修会 （札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「地域につなげるリハビリテーションマネジメント」
平成27年10月 4日	第 1 回臨床実践研修会（市立札幌病院） テーマ「臨床における基礎理論」
平成27年10月10日 ～10月11日	第183回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「片麻痺の評価と治療 ～姿勢制御に基づく上肢へのアプローチ～」
平成27年10月16日 ～10月18日	いきいき健康・福祉フェア2015（アクセスサッポロ） 姿勢チェックと健康を維持する身体づくりコーナーの出展
平成27年10月24日 ～10月25日	第184回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「観察による臨床運動・動作分析 ～中枢神経疾患に焦点をあてて～」

年 月 日	項 目
平成27年10月31日 ～11月1日	第66回北海道理学療法士学術大会（旭川市民文化会館） テーマ「予防」
平成27年11月21日 ～11月23日	理学療法講習会（応用編） テーマ「上肢・下肢の触診機能解剖」
平成27年11月28日	第181回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「急性期から在宅にわたる呼吸リハビリテーション」
平成27年12月6日	第16回スポーツ育成講習会（八軒地区センター 1階ホール） テーマ「スポーツ現場でおさえておきたい知識と技術（スノーボード）」
平成27年12月13日	第185回北海道理学療法士会技術講習会（旭川赤十字病院） テーマ「循環器に対する理学療法」
平成27年12月13日	画像の診方講習会（北海道大学医学部学友会館） テーマ「運動器に対する画像の診方」
平成28年1月9日	POS合同冬季研修会（地域リハビリテーション指導者養成研修事業）(ニトリ文化ホール) テーマ「地域包括ケア」
平成28年1月16日	新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成28年1月24日	理学療法士講習会（基本編、技術）（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「関節可動域治療の基本 ～下肢に対する関節可動域治療手技について～」
平成28年2月14日	第186回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「ランニング障害に対する理学療法」
平成28年2月27日	第187回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「リンパ浮腫に対する評価と複合的治療」
平成28年3月1日	一般社団法人北海道リハビリテーション専門職協会 設立
平成28年3月12日 ～3月13日	新人教育プログラム選択研修会2（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成28年4月10日	第17回スポーツ支援育成講習会（札幌市産業振興センター） テーマ「第8回冬季アジア札幌大会スタッフ育成講座」
平成28年4月17日	第18回スポーツ支援育成講習会（札幌市産業振興センター） テーマ「少年野球チームおよび北海道高等学校野球連盟へサポート」
平成28年4月23日 ～4月24日	第25回全道学術研修大会（小樽市民会館） テーマ「機能解剖にもとづいた理学療法の再考」
平成28年5月7日 ～5月8日	理学療法士講習会（応用編）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「クリニカルリーズニング ～運動機能障害における神経系の関与～」
平成28年6月11日	公益社団法人北海道理学療法士会第7回定時総会（北海道経済センタービル）
平成28年6月18日	地域包括ケアシステムについて学ぼう（札幌医療リハビリ専門学校）
平成28年7月9日 ～7月10日	理学療法士講習会（応用編）（北海道立子ども総合医療療育センター） テーマ「脳性まひ時の治療と評価 ～姿勢制御を中心に～」
平成28年7月10日	新人教育プログラム必須初期研修会（札幌コンベンションセンター）

年 月 日	項 目
平成28年7月24日	第19回スポーツ支援育成講習会（未定） テーマ「第8回冬季アジア札幌大会スタッフ育成講座」
平成28年8月7日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「徒手の理学療法の基礎 ～脊柱・骨盤に対して」
平成28年8月21日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「観察による歩行」
平成28年8月27日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（札幌地下歩行空間）
平成28年8月28日	2016北海道マラソン救護班（参加者20,000人超、従事PT45人）
平成28年9月3日 ～9月4日	第189回北海道理学療法士会技術講習会（北海道科学大学、北海道医療大学） テーマ「生活期に必要な福祉用具活用の視点と下肢装具の考え方」
平成28年9月17日	地域包括ケア推進リーダー導入研修会（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成28年9月25日	第2回臨床実践研修会（市立札幌病院） テーマ「臨床の基礎」
平成28年9月27日	北海道理学療法士会技術講習会（北海道大学医療技術短期大学部） テーマ「オーストラリアマニユアルセラピー」
平成28年10月1日	第7回健康支援育成講習会（札幌市中央区民センター つどいA・B） テーマ「ウイメンズヘルス分野における理学療法の関わり」
平成28年10月1日 ～10月2日	理学療法士講習会（応用編）（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「脊柱・体幹の触診機能解剖」
平成28年10月9日	第8回健康支援育成講習会（札幌市産業振興センター） テーマ「介護予防事業の実際および今後の展望」
平成28年10月14日 ～10月16日	いきいき健康・福祉フェア2016（アクセスサッポロ）
平成28年10月16日	第190回北海道理学療法士会技術講習会（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「足部・足関節疾患に対するスポーツ理学療法」
平成28年10月29日 ～10月30日	第191回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「姿勢制御と歩行」
平成28年10月30日	介護予防推進リーダー導入研修会（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成28年11月5日 ～11月6日	第67回北海道理学療法士学術大会（函館市民会館、函館アリーナ） テーマ「理学療法領域における教育」
平成28年11月20日	第188回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「人工呼吸器使用患者を対象とした呼吸リハビリテーション」
平成28年11月23日	道民向け（小学生対象）啓発セミナー（ACU-Y） テーマ「キッズワークショップ2016」
平成28年11月26日	理学療法士講習会（基本編、理論）（札幌医療リハビリ専門学校） テーマ「運動器疾患に対する画像の診方」
平成28年12月11日	第3回臨床実践研修会（札幌医療リハビリ専門学校） テーマ「臨床の基礎（呼吸編）」

年 月 日	項 目
平成28年12月11日	第192回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「循環器理学療法において必要な評価」
平成29年1月14日 ～1月15日	平成28年地域包括ケアシステムにおける介護予防アドバイザー養成研修会 （札幌医療リハビリ専門学校）
平成29年1月21日	新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成29年1月22日	理学療法士講習会（基本編、技術）（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「関節可動域治療の基本 ～下肢に対する関節可動域治療手技」
平成29年1月22日	第4回臨床実践研修会（運動器編）（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「腰痛症と変形性膝関節症の評価と治療」
平成29年2月4日	新人教育プログラム選択研修会2（札幌医療リハビリ専門学校）
平成29年2月18日	介護予防推進リーダー導入研修会（函館）（函館脳神経外科病院）
平成29年2月19日	第193回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「糖尿病に対する理学療法 ～理学療法士による療養指導～」
平成29年2月19日 ～2月26日	2017冬季アジア札幌大会へ救護班として協力 （約30か国、選手約2,300人、従事PT100人超）
平成29年4月16日	第20回スポーツ支援育成講習会（札幌市産業振興センター）
平成29年4月22日 ～4月23日	第26回全道学術研修大会（砂川市地域交流センターゆう） テーマ「スペシャリストの視点」
平成29年5月27日	管理者研修会（札幌）（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
平成29年6月10日	公益社団法人北海道理学療法士会第8回定時総会（北海道経済センタービル）
平成29年6月18日	「地域包括ケアを学ぼう」（札幌医療リハビリ専門学校）
平成29年6月24日 ～6月25日	理学療法士講習会（応用編）（北海道リハビリテーション大学） テーマ「肩関節の理学療法評価と治療」
平成29年7月8日 ～7月9日	理学療法士講習会（応用編）（北海道立子ども総合医療療育センター） テーマ「脳性まひ時の治療と評価 ～姿勢制御を中心に～」
平成29年7月9日	新人教育プログラム必須初期研修会研修会（北海道大学クラーク会館） テーマ「協会組織と生涯学習システム」
平成29年7月15日 ～7月17日	理学療法士講習会（応用編）（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「上肢・下肢の触診機能解剖」
平成29年7月22日	介護予防推進リーダー導入研修会（札幌医療リハビリ専門学校）
平成29年8月6日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「徒手理学療法の基礎」
平成29年8月20日	理学療法学生と生活期分野に従事するPTの交流ワークショップ （北海道立道民活動センター かでの2.7）
平成29年8月26日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（札幌地下歩行空間）
平成29年8月27日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道文教大学） テーマ「観察による歩行分析」

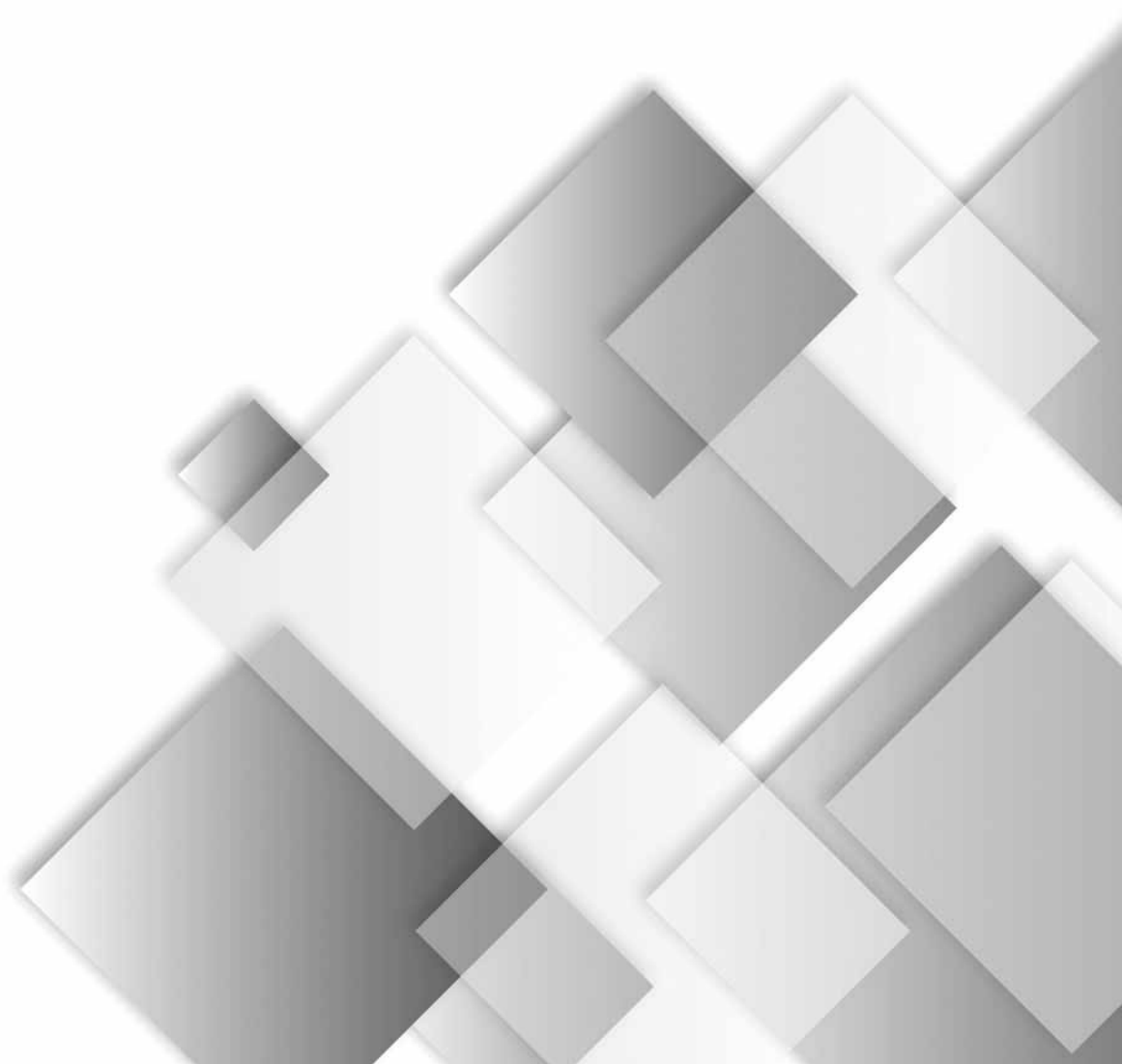
年 月 日	項 目
平成29年 8月27日	北海道マラソン2017救護班（従事PT40人）
平成29年 9月10日	第194回北海道理学療法士会技術講習会（北海道医療大学） テーマ「事例に学ぶ！生活環境整備における福祉用具活用の考え方」
平成29年 9月10日	第1回臨床実践研修会（神経編）（札幌医療リハビリ専門学校） テーマ「脳血管障害と神経難病に対する評価と治療」
平成29年 9月23日	第195回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「ランニング障害に対するスポーツ理学療法」
平成29年 9月30日 ～10月1日	第196回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「片麻痺の評価と治療 ～姿勢制御に基づく上肢へのアプローチ～」
平成29年10月13日 ～10月15日	いきいき健康・福祉フェア2017（アクセスサッポロ） ブース出展
平成29年10月14日	地域包括ケア推進リーダー研修会（札幌リハビリテーション専門学校）
平成29年10月21日 ～10月22日	第68回北海道理学療法士会学術大会（苫小牧市民会館） テーマ「再検証 理学療法士の根幹」
平成29年11月4日	第9回健康支援育成講習会（北海道科学大学） テーマ「第1回シニア手稲区体力測定会、スタッフ育成講習会」
平成29年11月11日	理学療法士講習会（基本編、理論）（札幌医療リハビリ専門学校） テーマ「画像の診方、神経編」
平成29年11月18日	地域包括ケア研修会（札幌医科大学保健医療学部棟）
平成29年11月19日	復職支援ワークショップ（札幌市中央区民センター）
平成29年11月23日	道民向け（小学生対象）啓発セミナー（ACU-A） テーマ「キッズワークショップ2017」
平成29年11月25日	第2回臨床実践研修会（呼吸編）（市立札幌病院） テーマ「理学療法評価（問題点抽出までの過程）」
平成29年12月2日	ADL 維持向上加算についての研修会（札幌医療技術福祉歯科専門学校）
平成29年12月10日	第197回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「周術期を含めた急性期～回復期（退院）への呼吸リハビリテーション」
平成29年12月10日	理学療法士講習会（応用編）（北海道薬科大学サテライトキャンパス） テーマ「ニューロサイエンスに基づく運動学習と姿勢制御」
平成30年 1月20日	新年交礼会（札幌全日空ホテル）
平成30年 1月28日	第3回臨床実践研修会（運動器編）（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「腰痛症と変形性膝関節症の評価と治療」
平成30年 1月28日	理学療法士講習会（基本編、技術）（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「関節可動域の基礎～下肢に対する関節可動域治療手技～」
平成30年 2月4日	第198回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「心不全～再入院を予防するためにできること～」
平成30年 2月18日	第199回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「リンパ浮腫に対する評価と複合的治療」

年 月 日	項 目
平成30年2月25日	第10回健康支援育成講習会（トレリハ倶楽部） テーマ「高齢者向け体力測定、スタッフ育成講習会」
平成30年2月24日	新人教育プログラム選択研修会（札幌医療リハビリ専門学校）
平成30年2月25日	介護報酬改定研修会（札幌医療リハビリ専門学校）
平成30年3月4日	理学療法士講習会（基本編、技術）（札幌リハビリテーション専門学校） テーマ「関節可動域の基礎 ～上肢に対する関節可動域治療手技～」
平成30年3月18日	診療報酬改定研修会（北海道リハビリテーション大学校）
平成30年5月20日	第22回スポーツ支援育成講習会（トレリハセンターまえた）
平成30年6月9日	公益社団法人北海道理学療法士会第9回定時総会（北海道経済センタービル）
平成30年6月9日	地域包括ケアを学ぼう（札幌医療リハビリ専門学校）
平成30年6月23日 ～6月24日	理学療法士講習会（応用編）（北海道文教大学） テーマ「肩関節の理学療法評価と治療」
平成30年6月24日	第23回スポーツ支援育成講習会（TWIST SAPPORO）
平成30年6月30日 ～7月1日	理学療法士講習会（応用編）（北海道立子ども総合医療療育センター） テーマ「脳性まひ児に対する治療の考え方」
平成30年7月8日	新人教育プログラム必須初期研修会（札幌コンベンションセンター）
平成30年7月8日	第11回健康支援育成講習会（とれりは倶楽部）
平成30年7月17日	北海道理学療法第35巻発刊
平成30年7月21日 ～7月22日	理学療法士講習会（応用編）（北海道リハビリテーション大学校） テーマ「脊柱・体幹の触診機能解剖」
平成30年7月28日 ～7月29日	第69回北海道理学療法士学術大会、創立50周年記念学会（札幌コンベンションセンター） テーマ「理学療法のワークシフト」
平成30年7月28日	北海道理学療法士会マスコットキャラクター「りっぴ」に決定
平成30年8月4日	介護予防推進リーダー導入研修会（札幌医科大学）
平成30年8月5日	理学療法士講習会（基本編、理論）（滝川市立病院） テーマ「徒手理学療法の基礎 ～脊柱・骨盤に対して～」
平成30年8月18日	北海道医療技術者団体連絡協議会パネル展（札幌地下歩行空間）
平成30年8月19日	理学療法士講習会（基本編、理論）（旭川厚生病院） テーマ「変形性膝関節症と腰痛症に対する評価と治療」
平成30年8月26日	北海道マラソン救護班2018（従事PT45人）
平成30年8月26日	PT 学生と生活期分野に従事するPTの交流ワークショップ （北海道立道民活動センター かでの2.7）
平成30年9月29日	創立50周年式典・祝賀会（ANAクラウンプラザホテル札幌）
平成30年9月30日	休職者を対象としたワークショップ（札幌市中央区民センター）

年 月 日	項 目
平成30年10月6日 ～10月7日	第202回北海道理学療法士会技術講習会（札幌秀友会病院） テーマ「片麻痺の評価と治療 ～姿勢制御に基づく歩行へのアプローチ～」
平成30年10月12日 ～10月14日	いきいき健康・福祉フェア2018（アクセスサッポロ） 姿勢チェックブース出展
平成30年10月14日	第200回北海道理学療法士会技術講習会（北海道科学大学） テーマ「活動と参加に向けた適切な下肢装具の使用方法について」
平成30年10月21日	第201回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「足部・足関節疾患に対するスポーツ理学療法」
平成30年10月21日	理学療法士講習会（基本編、理論）（北海道リハビリテーション大学） テーマ「観察による歩行分析」
平成30年10月21日	休職している会員対象ワークショップ（札幌市中央区民センター）
平成30年10月27日	理学療法士講習会（基本編、理論） テーマ「画像の診方 運動器」
平成30年10月27日	地域包括ケア推進リーダー導入研修会（札幌医科大学）
平成30年11月3日	理学療法士講習会（基本編、理論） テーマ「呼吸リハビリテーションにおける評価と治療」
平成30年11月18日	介護施設での実習受け入れ増加を目的としたワークショップ（会場：かでの2.7）
平成30年11月25日	理学療法士講習会（基本編、理論） テーマ「脳血管障害と神経難病における評価と治療」
平成30年12月1日	地域包括ケア研修会（札幌市生涯学習センターちえりあ）
平成30年12月2日	理学療法士講習会（応用編）（北海道科学大学サテライトキャンパス） テーマ「ニューロサイエンスに基づく運動学習と姿勢制御」
平成30年12月2日	新人教育プログラム必須初期研修会（十勝リハビリテーションセンター）
平成31年1月19日	平成30年度新人教育プログラム選択研修会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） 新年交礼会（ANAクラウンプラザホテル札幌）
平成31年1月26日	第12回健康支援育成講習会（トレリハセンターていね）
平成31年2月16日	第204回北海道理学療法技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「循環器疾患の理学療法 ～動脈硬化性疾患の理学療法と心血管検査法～」
平成31年2月17日	第205回北海道理学療法士会技術講習会（北海道リハビリテーション大学） テーマ「2型糖尿病の理学療法 ～基礎から実践まで～」
平成31年2月23日	第203回北海道理学療法技術講習会（札幌医学技術福祉歯科専門学校） テーマ「呼吸リハビリテーション ～急性期から生活期、外来フォローにおけるアプローチ～」



表彰受賞者一覽



◆黄綬褒章受賞

金子 實 (平成21年11月)

◆藍綬褒章受賞

山内 孝彦 (昭和52年11月)

◆勲六等瑞宝章受賞 (保健衛生の功勞)

渡部 平八 (昭和57年11月)

◆文部大臣表彰受賞

渡部 平八 (昭和54年11月)

◆厚生大臣表彰受賞

大塚 欣壯 (昭和61年11月)

福田 修 (平成7年11月)

宮本 重範 (平成17年11月)

◆厚生労働大臣表彰受賞

水本善四郎 (平成27年6月)

◆勲五等瑞宝章受賞

大塚 欣壯 (平成3年11月)

山内 孝彦 (平成8年10月)

◆北海道社会貢献賞受賞

昭和53年 秋元 久実 / 昭和57年 大塚 欣壯

昭和59年 齋藤 和平 / 昭和62年 池内 峯雄

平成元年 南波 良和 / 平成2年 金子 實

平成9年 福田 修 / 平成11年 齋藤 博

平成12年 酒井喜代司 / 平成13年 高橋 善雄

平成14年 山田 晃 / 平成16年 花田 隆

平成18年 大道 憲一 / 平成20年 岡田しげひこ

平成22年 水本善四郎 / 平成27年 高田 博光

◆医療功勞賞 (国内部門: 読売新聞社主催)

第23回 (平成6年) 金子 實 / 第30回 (平成13年) 加藤 祐二 / 第32回 (平成15年) 釘本 熙正

第36回 (平成19年) 山田 晃 / 第39回 (平成22年) 花田 隆 / 第40回 (平成23年) 小島 清幸

第45回 (平成29年) 秋島 光雄

◆都道府県医療功勞賞受賞 (読売新聞主催)

第5回 (昭和51年) 大塚 欣壯 / 第19回 (平成2年) 池内 峯雄

第20回 (平成3年) 大場 武 / 第21回 (平成4年) 佐々木 昇

第22回 (平成5年) 齋藤 和平 / 第23回 (平成6年) 金子 實

第28回 (平成11年) 酒井喜代司 / 第30回 (平成13年) 加藤 祐二

第32回 (平成15年) 釘本 熙正 / 第35回 (平成18年) 高橋 善雄

第36回 (平成19年) 山田 晃 / 第38回 (平成21年) 岡田しげひこ

第39回 (平成22年) 花田 隆 / 第40回 (平成23年) 小島 清幸

第41回 (平成24年) 小神 博 / 第42回 (平成25年) 遠山 英行

◆日本理学療法士協会 協会賞受賞

第2回(昭和58年) 山内 孝彦・渡部 平八／第3回(昭和59年) 大塚 欣壮
第4回(昭和60年) 齋藤 和平／第8回(平成元年) 池内 峯雄・金子 實
第15回(平成8年) 酒井喜代司／第16回(平成9年) 齋藤 博
第18回(平成11年) 宮本 重範／第19回(平成12年) 大島 純一
第20回(平成13年) 高橋 善雄／第22回(平成15年) 石橋 朝子
第23回(平成16年) 福田 修／第24回(平成17年) 乾 公美
第25回(平成18年) 山田 晃／第26回(平成19年) 大場 武
第27回(平成20年) 林 徹哉／第28回(平成21年) 花田 隆
第29回(平成22年) 南波 良和／第30回(平成23年) 大道 憲一
第31回(平成24年) 水本善四郎／第32回(平成25年) 岡田しげひこ・太田 智弘(協会推薦)
第33回(平成26年) 小神 博／第34回(平成27年) 橋内 勇・若井 克史

◆北海道理学療法士会学術大会奨励賞

平成16年度 成川 智聡／平成17年度 久保田健太

◆北海道理学療法学術奨励賞

平成18年度 益田 洋史／平成19年度 隈元 庸夫／平成20年度 石田 和宏
平成21年度 伊藤 晃範／平成22年度 世古 俊明／平成23年度 家入 章
平成24年度 丸谷 孝史／平成25年度 森野 陽／平成26年度 金子 諒介
平成27年度 松田 直樹／平成28年度 粟飯原里美／平成29年度 工藤 夢子
平成30年度 内藤 考洋

◆地域理学療法貢献賞

平成16年度 小児専門部会「ひだまり」(日胆支部)・訪問リハビリテーション連絡会(札幌支部)
初山別村役場 住民福祉課保険係 長谷川和美(道北支部)
平成17年度 登別厚生年金病院 リハビリテーション室 山田 幸信(日胆支部)
森山病院 リハビリテーション部 東海林拓哉(道北支部)
道北勤医協一条通病院 リハビリテーション科 広富 美保(道北支部)
平成18年度 小林 道夫(道南支部)
(有)K&Kトータルケア 小島 清隆(日胆支部)
手稲溪仁会病院 リハビリテーション部 福田 貴子(札幌支部)
平成19年度 美唄労災病院 リハビリテーション科 遠山あづさ(空知支部)
平成20年度 北海道社会福祉事業団 白糠学園 溝渕 武(釧根支部)
苫小牧日翔病院 石川 修一(日胆支部)
旭川リハビリテーション病院 塚田 鉄平(道北支部)
平成21年度 町立長沼病院 木田 貴英(空知支部)
医療法人譲仁会 聖ヶ丘病院 渋谷 宣践(日胆支部)
平成22年度 名寄市立総合病院 堺 真理(道北支部)
平成23年度 北海道社会事業協会 富良野病院 千葉 恒(道北支部)
標茶町立病院 原田 亮(釧根支部)
平成24年度 秀友会 在宅リハビリテーション 赤羽根 誠(札幌支部)
平成25年度 なかむら整形外科クリニック 木下 滋(日胆支部)
本別町国民健康保険病院 小倉 博志(十勝支部)
釧路三慈会病院 出村 博之(釧根支部)

◆社会分野奨励賞

平成27年度 札幌市西区介護予防センター西町 菊地 伸（札幌支部）
平成28年度 西岡第一病院 当麻 靖子（札幌支部）
平成29年度 介護老人保健施設ことぶき 酒井 安弘（道北支部）
平成30年度 森山メモリアル病院 指定訪問リハビリテーション事業所 小林 浩（道北支部）

◆北海道知事感謝状

昭和63年11月12日 金川丈太郎・真田 三雄・金子 實・花見 勇
平成5年11月6日 石垣 幸也・佐藤 俊雄・竹田 明・林 繁雄
平成10年11月21日 佐々木 昇・佐藤 欣也・橋本 勉・丸山 和夫
平成15年11月8日 石橋 朝子・大島 純一・釘本 熙正・越谷 一男・吉田 信弘
平成20年11月15日 釘本 熙正・久米 正志・澤田三津子・渡辺 孝昭
平成25年11月2日 大道 憲一・橋内 勇・高田 博光
平成30年9月29日 高橋 善雄・山中 正紀・伊藤 俊一・井上 由紀・山本 泰雄
木村 和久・吉田 香織・梅田 信吾・樋口 賢一・小山 昭人

◆北海道医療技術者団体連絡協議会表彰

平成5年11月6日 佐藤 俊夫・酒井喜代司・齋藤 博
平成10年11月21日 蒲池 昌視・斉藤 有・田中 實・玉尾 良輝・千葉日出吉
弘瀬 誠一・柳原 昭二・吉見 彰徳
平成15年11月8日 秋島 光雄・大道 憲一・小島 清幸・鈴木 宗敏・常田 弘悦
丹羽 忠義・長谷川雅一・花田 隆・本田 勇・藪下 光恵
平成20年11月15日 石川 幸博・江刺家 修・大嶋 英義・加藤 典敏・小林 輝美
斎藤 誠一・平岡 幸雄・安永 道生
平成25年11月2日 大野 幹夫・腰越 正男・高田 貫之
平成30年9月29日 水上 八行・生駒 直彦・浅賀 忠義・加藤 修・富永 淳
長谷川雅章・今野 廣利・栗本 一宏

◆日本理学療法士協会 名誉会員

山内 孝彦（平成5年11月6日）／福田 修（平成23年6月25日）

◆北海道理学療法士会 創立10周年表彰（昭和53年10月7日）

渡部 平八・金川丈太郎・金子 實・弘瀬 誠一・福田 修・佐藤 俊雄・越谷 一男
齋藤 博・南波 良和・大場 武・秋元 久実・佐々木 昇・古俣 成昇・小山 実
真田 三雄・鈴木 一夫・酒井喜代司・飯塚 彪

◆歴代会長感謝状

大塚 欣壮・山内 孝彦

◆北海道理学療法士会 創立15周年表彰（昭和58年11月19日）

大塚 欣壮・山内 孝彦・渡部 平八・齋藤 和平・秋島 光雄・金川丈太郎・金子 實
越谷 一男・佐々木 昇・山田 晃・大場 武・池内 峯雄

◆北海道理学療法士会 創立20周年表彰（昭和63年11月12日）

林 繁雄・吉見 彰徳・石橋 朝子・丸山 和夫・竹田 明・猪俣 美智・柳原 昭二
田中 實・蛭間 孝次

◆北海道理学療法士会 創立25周年表彰（平成5年11月6日）

池内 峯雄・大場 武・金子 實・本田 勇・南波 良和・高田 博光・三島与志正
花田 隆・山崎 利幸

◆永年会員表彰

石崎 忠夫・大道 憲一・大嶋 英義・斉藤 有・鈴木 宗敏・鈴木 弘・高橋 憲一
田村 博・添田マサト・丹羽 忠義・橋本 勉・常田 弘悦・水野 勝明・藪下 光恵

◆北海道理学療法士会 創立30周年表彰（平成10年11月21日）

【士会長特別表彰】

齋藤 和平・福田 修

◆北海道理学療法士会 創立35周年表彰（平成15年11月8日）

石川 幸博・小林 輝美・平岡 幸雄・渡辺 孝昭

【歴代会長感謝状】

宮本 重範

【士会長特別表彰】

加藤 祐二

◆北海道理学療法士会 創立40周年表彰（平成20年11月15日）

太田 智弘・橋内 勇・腰越 正男・佐藤日出夫・高田 博光・高橋 光彦・林 徹哉
山中 正紀

【士会長特別表彰】

釘本 熙正・山田 晃

◆北海道理学療法士会 創立45周年表彰（平成25年11月2日）

今野 廣利・加賀谷 芳夫・佐藤 克弘・水上 八行・若井 克史

【歴代会長感謝状】

水本善四郎

【士会長特別表彰】

小島 清幸・花田 隆

◆北海道理学療法士会 創立50周年表彰（平成30年9月29日）

【士会長感謝状】

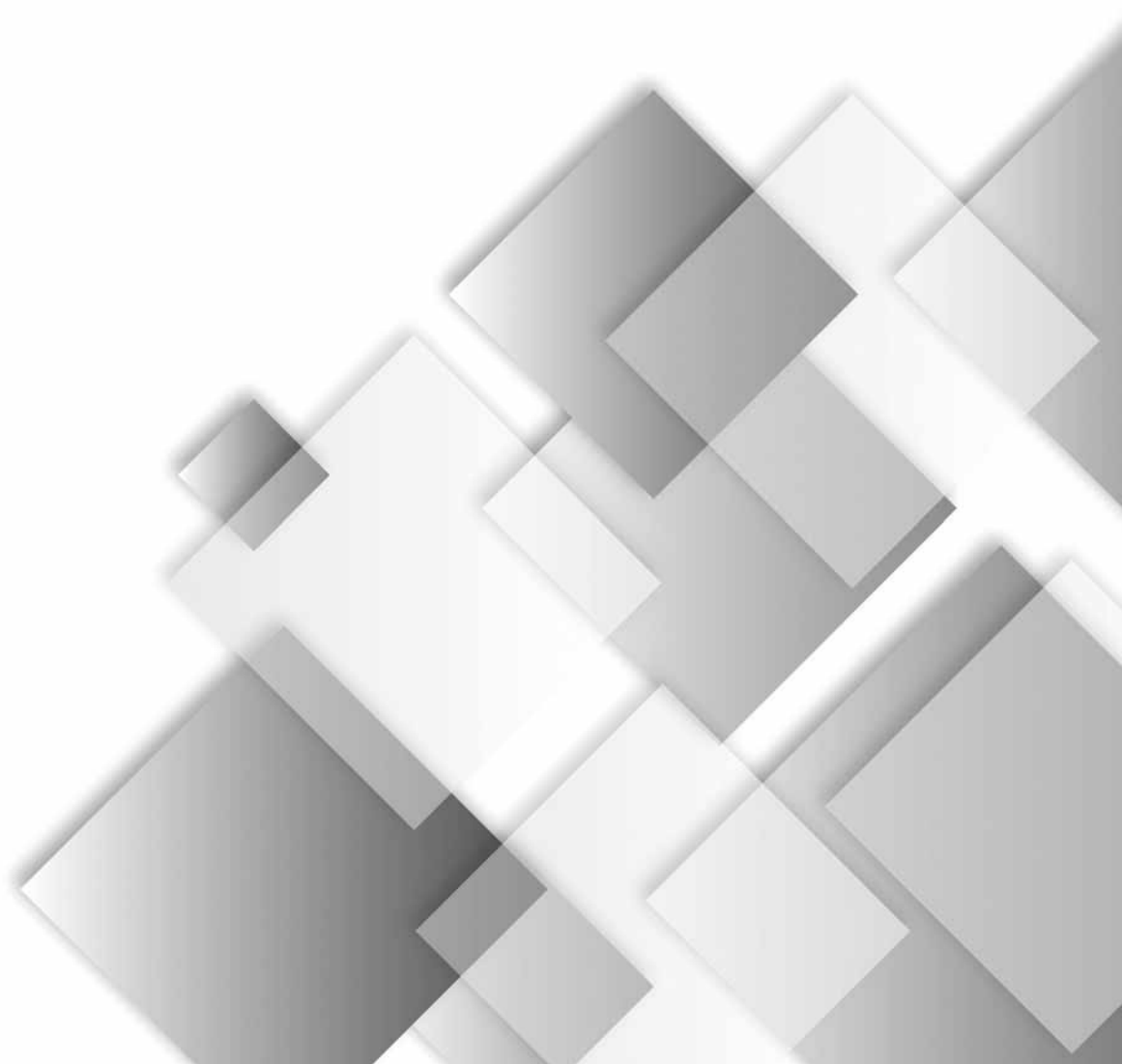
小塚 直樹・芳澤 昭仁・芳賀 浩司・池野 秀則・長久 武史・肥田 秀昭・原 清和

◆福田賞

平成10年度 伊藤 俊一／平成15年度 石田 和宏／平成20年度 三浦 利彦
平成25年度 青山 誠／平成30年度 千葉 恒



歴代役員



	昭和43年～45年度	昭和46年～47年度	昭和48年～49年度	昭和50年～51年度	昭和52年～53年度
会 長	大塚 欣壮	大塚 欣壮	山内 孝彦	山内 孝彦	齋藤 和平
副 会 長	金子 實 金川丈太郎	金子 實 齋藤 和平	池内 峯雄 越谷 一男	池内 峯雄 金子 實	福田 修 大場
事 務 局 長	福田 修	福田 修	齋藤 和平	齋藤 和平	池内 峯雄
総 務 部 長 (庶務担当)	—	鈴木 弘	蛭間 孝次	蛭間 孝次	高橋 善雄
財 務 部 長	—	酒井喜代司	北崎 親幸	北崎 親幸	蛭間 孝次
広 部 長	—	—	—	—	—
身 分 部 長	—	—	—	—	—
学 術 局 長 教 育 部 長	—	坂田 主税	佐々木 昇	佐々木 昇	齊藤 博
理 事	(設立準備委員) 大塚 欣壮 金川丈太郎 金子 實 福田 修	大塚 欣壮 金子 實 齋藤 和平 福田 修 鈴木 弘 酒井喜代司 坂田 主税 池内 峯雄	山内 孝彦 池内 峯雄 越谷 一男 齋藤 和平 蛭間 孝次 北崎 親幸 佐々木 昇	山内 孝彦 池内 峯雄 金子 實 齋藤 和平 蛭間 孝次 北崎 親幸 佐々木 昇 福田 修	齋藤 和平 福田 修 大場 峯雄 池内 峯雄 高橋 善雄 齊藤 博 蛭間 孝次 秋島 光雄 三島与志正 弘瀬 誠一
監 事	—	秋元 久実 渡部 平八	酒井喜代司 大塚 欣壮	酒井喜代司 齊藤 博	北崎 親幸 酒井喜代司
相 談 役	—	—	—	—	山内 孝彦 渡部 平八 秋元 久実

歴代役員

昭和54年～55年度	昭和56年～57年度	昭和58年～59年度	昭和60年～61年度	昭和62年～63年度
齋藤 和平	福田 修	福田 修	福田 修	福田 修
福田 修 大場 武	酒井喜代司 大場 武	酒井喜代司 蛭間 孝次	酒井喜代司 宮本 重範	酒井喜代司 宮本 重範
池内 峯雄	秋島 光雄	大島 純一	水本善四郎	水本善四郎
高橋 善雄	大島 純一	高田 博光	高田 博光	井上 由紀
蛭間 孝次	齊藤 博	齊藤 博	齊藤 博	齊藤 博
—	次年度から新設	花田 隆	花田 隆	太田 誠
—	—	次年度から新設	吉田 信弘	花田 隆
秋島 光雄	水本善四郎	水本善四郎	乾 公美 高橋 正明	乾 公美
齋藤 和平 福田 修 大場 武 池内 峯雄 高橋 善雄 蛭間 孝次 秋島 光雄 齊藤 博 高田 博光 水本善四郎	福田 修 酒井喜代司 大場 武 秋島 光雄 大島 純一 齊藤 博 水本善四郎 山田 晃 高田 博光 花田 隆	福田 修 酒井喜代司 蛭間 孝次 乾 公美 大島 純一 高田 博光 齊藤 博 花田 隆 水本善四郎 吉田 信弘	福田 修 酒井喜代司 宮本 重範 水本善四郎 高田 博光 齊藤 博 花田 隆 吉田 信弘 乾 公美 高橋 正明 小神 博 太田 誠 井上 由紀	福田 修 酒井喜代司 宮本 重範 水本善四郎 井上 由紀 齊藤 博 太田 誠 山崎 利幸 伊藤 俊一
北崎 親幸 酒井喜代司	池内 峯雄 蛭間 孝次	三島与志正 高橋 善雄	大島 純一 蛭間 孝次	大島 純一 高橋 善雄
—	—	—	—	—

	平成元年～2年度	平成3年～4年度	平成5年～6年度	平成7年～8年度	平成9年～10年度
会 長	福田 修	福田 修	福田 修	福田 修	宮本 重範
副 会 長	酒井喜代司 宮本 重範	酒井喜代司 宮本 重範	酒井喜代司 宮本 重範	宮本 重範 水本善四郎	齊藤 博 水本善四郎
事 務 局 長	水本善四郎	水本善四郎	水本善四郎	星 文彦	星 文彦
総 務 部 長 (庶務担当)	大山 由紀	大山 由紀	大山 由紀	伊藤 俊一	伊藤 俊一
財 務 部 長	齊藤 博	齊藤 博	齊藤 博	齊藤 博	小神 博
報 部 長	太田 誠	太田 誠	太田 誠	佐藤 秀一	佐藤 秀一
身 分 部 長 調 査 資 料 部 長	小神 博	小神 博	小神 博	芳澤 昭仁	芳澤 昭仁
厚 生 部 長 福 利 厚 生 部 長	伊藤 俊一	佐藤 秀一	佐藤 秀一	小神 博	伊藤 俊一
社 会 部 長	—	—	—	次年度より新設	水本善四郎
渉 外 局 長 渉 外 部 長 (渉外担当)	酒井喜代司 乾 公美	(三 役)	(三 役)	(三 役)	(三 役)
学 術 局 長	—	高橋 正明	高橋 正明	乾 公美	乾 公美
学 術 部 長 (学術担当)	高橋 正明 佐藤 秀一	星 文彦	星 文彦	太田 誠	太田 誠
教 育 部 長	星 文彦	伊藤 俊一	伊藤 俊一	湯元 均	湯元 均
支 部 担 当 理 事	次年度より新設	乾 公美	乾 公美	山田 晃	山田 晃
理 事	福田 修 酒井喜代司 宮本 重範 水本善四郎 大山 由紀 齊藤 博 太田 誠 小神 博 伊藤 俊一 乾 公美 高橋 正明 佐藤 秀一 星 文彦	福田 修 酒井喜代司 宮本 重範 水本善四郎 大山 由紀 齊藤 博 太田 誠 小神 博 佐藤 秀一 高橋 正明 星 文彦 伊藤 俊一 乾 公美	福田 修 酒井喜代司 宮本 重範 水本善四郎 大山 由紀 齊藤 博 太田 誠 小神 博 佐藤 秀一 高橋 正明 星 文彦 伊藤 俊一 乾 公美	福田 修 宮本 重範 水本善四郎 星 文彦 伊藤 俊一 齊藤 博 佐藤 秀一 芳澤 昭仁 小神 博 乾 公美 太田 誠 湯元 均 山田 晃	宮本 重範 齊藤 博 水本善四郎 星 文彦 伊藤 俊一 小神 博 佐藤 秀一 芳澤 昭仁 乾 公美 太田 誠 湯元 均 山田 晃
監 事	大島 純一 高橋 善雄	大島 純一 高橋 善雄	大島 純一 高橋 善雄	大島 純一 高橋 善雄	大島 純一 高橋 善雄

※平成3年1月26日の臨時総会において、北海道理学療法士会が解散され、社団法人北海道理学療法士会が設立された

歴代役員

	平成11年～12年度	平成12年～13年度
会 長	宮本 重範	宮本 重範
副 会 長	齊藤 博 水本善四郎	齊藤 博 水本善四郎
事 務 局 長	湯本 均	湯本 均
学 術 局 長	岡田しげひこ	岡田しげひこ
社 会 局 長	太田 誠	太田 誠
支部担当理事	山田 晃	山田 晃
理 事	宮本 重範 齊藤 博 水本善四郎 湯本 均 岡田しげひこ 太田 誠 伊藤 俊一 山田 晃 小神 博 山本 泰雄 小山 昭人 原 清和 肥田 秀昭	宮本 重範 齊藤 博 水本善四郎 湯本 均 岡田しげひこ 太田 誠 伊藤 俊一 山田 晃 小神 博 山本 泰雄 小山 昭人 原 清和 肥田 秀昭
監 事	大畠 純一 高橋 善雄	大畠 純一 高橋 善雄
事 務 局	肥田 秀昭 (総務・福利厚生部長) 伊藤 俊一 (財務部長) 太田 誠 (広報部長) 小神 博 (調査資料部長) 三 役 (渉外担当)	肥田 秀昭 (総務・福利厚生部長) 伊藤 俊一 (財務部長) 太田 誠 (広報部長) 小神 博 (調査資料部長) 三 役 (渉外担当)
学 術 局	山本 泰雄 (学術部長) 小山 昭人 (生涯学習部長) 原 清和 (教育部長)	山本 泰雄 (学術部長) 小山 昭人 (生涯学習部長) 原 清和 (教育部長)
社 会 局	小神 博 (福祉部長) 太田 誠 (事業部長)	小神 博 (福祉部長) 太田 誠 (事業部長)

	平成13年～14年度
会 長	水本善四郎
副 会 長	太田 誠 湯元 均
事 務 局 長	湯元 均
学 術 局 長	伊藤 俊一
社 会 局 長	岡田しげひこ
職 能 局 長	太田 誠
理 事	水本善四郎 太田 誠 湯元 均 伊藤 俊一 岡田しげひこ 肥田 秀昭 柿澤 雅史 山中 正紀 小山 昭人 小塚 直樹 谷口 英司 山本 泰雄 原 清和
監 事	小神 博 高橋 善雄
事 務 局	佐藤 潤一 (総務部長) 石田 和宏 (財務部長) 夏目 健文 (情報部長) 高村 雅二 (福利厚生部長)
学 術 局	吉田 香織 (学会研修部長) 杉原 俊一 (臨床教育部長) 古俣 春香 (生涯学習部長) 青山 誠 (履修管理部長) 信太 雅洋 (学術誌部長)
社 会 局	橋本 伸也 (保健福祉部長) 石橋 晃仁 (事業部長) 向井 康詞 (広報部長)
職 能 局	濱本 龍哉 (診療情報部長) 大泉 嘉彦 (業務推進部長) 遠藤 晃祥 (調査部長)

平成15年度	平成16年度	平成17年～18年度	平成19年～20年9月
水本善四郎	水本善四郎	水本善四郎	水本善四郎
太田 誠 湯元 均	太田 誠 湯元 均	太田 誠 湯元 均	太田 誠 湯元 均
湯元 均	湯元 均	柿澤 雅史	柿澤 雅史
伊藤 俊一	伊藤 俊一	伊藤 俊一	信太 雅洋
岡田しげひこ	岡田しげひこ	岡田しげひこ	岡田しげひこ
太田 誠	太田 誠	濱本 龍哉	濱本 龍哉
水本善四郎 太田 誠 湯元 均 伊藤 俊一 岡田しげひこ 小山 昭人 柿澤 雅史 山中 正紀 青山 誠 小塚 直樹 谷口 英司 吉田 香織 濱本 龍哉	水本善四郎 太田 誠 湯元 均 伊藤 俊一 岡田しげひこ 小山 昭人 柿澤 雅史 山中 正紀 青山 誠 小塚 直樹 谷口 英司 吉田 香織 濱本 龍哉	水本善四郎 太田 誠 湯元 均 柿澤 雅史 伊藤 俊一 岡田しげひこ 濱本 龍哉 菊本 東陽 小塚 直樹 信太 雅洋 青山 誠 吉田 香織 吉田 盛 杉原 俊一	水本善四郎 太田 誠 湯元 均 柿澤 雅史 信太 雅洋 岡田しげひこ 濱本 龍哉 菊本 東陽 青山 誠 吉田 香織 山本 泰雄 盛 雅彦 杉原 俊一
小神 博 高橋 善雄	小神 博 高橋 善雄	小神 博 高橋 善雄 千葉 卓 (外)	小神 博 高橋 善雄 千葉 卓 (外)
佐藤 潤一 (総務部長) 石田 和宏 (財務部長) 夏目 健文 (情報部長) 村上 功一 (福利厚生部長)	佐藤 潤一 (総務部長) 石田 和宏 (財務部長) 夏目 健文 (情報部長) 村上 功一 (福利厚生部長)	小林 巧 (総務・財務部長) 夏目 健文 (情報部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)	小林 巧 (総務・財務部長) 新開谷 深 (情報部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)
菊本 東陽 (学会研修部長) 杉原 俊一 (臨床教育部長) 堀本 佳誉 (生涯学習部長) 上原 和広 (履修管理部長) 隈元 庸夫 (学術誌部長) 信太 雅洋 (学術事業部長)	菊本 東陽 (学会研修部長) 杉原 俊一 (臨床教育部長) 堀本 佳誉 (生涯学習部長) 上原 和広 (履修管理部長) 隈元 庸夫 (学術誌部長) 信太 雅洋 (学術事業部長)	小島 悟 (学会研修部長) 谷口 圭吾 (生涯学習部長) 上原 和広 (履修管理部長) 隈元 庸夫 (学術事業部長) 久保田健太 (学術誌部長)	高村 雅二 (学会研修部長) 佐々木智教 (生涯学習部長) 上原 和広 (履修管理部長) 隈元 庸夫 (学術事業部長) 久保田健太 (学術誌部長)
鈴木 英樹 (保健福祉部長) 石橋 晃仁 (事業部長) 向井 康詞 (広報部長)	鈴木 英樹 (保健福祉部長) 石橋 晃仁 (事業部長) 向井 康詞 (広報部長)	鈴木 英樹 (地域リハビリテーション推進部長) 石橋 晃仁 (事業部長) 赤羽根 誠 (広報部長)	鈴木 英樹 (地域リハビリテーション推進部長) 石橋 晃仁 (事業部長) 赤羽根 誠 (広報部長)
杉山 俊一 (診療情報部長) 敦賀 肇 (業務推進部長) 遠藤 晃祥 (調査部長)	杉山 俊一 (診療情報部長) 敦賀 肇 (業務推進部長) 遠藤 晃祥 (調査部長)	敦賀 肇 (業務推進部長) 遠藤 晃祥 (調査部長)	敦賀 肇 (業務推進部長) 遠藤 晃祥 (調査部長)

歴代役員

平成20年10月～21年3月	平成21年4月～22年3月
水本善四郎	太田 誠
太田 誠 湯元 均	湯元 均 信太 雅洋
柿澤 雅史	柿澤 雅史
信太 雅洋	信太 雅洋
岡田しげひこ	盛 雅彦
濱本 龍哉	濱本 龍哉
水本善四郎 太田 誠 湯元 均 柿澤 雅史 信太 雅洋 岡田しげひこ 濱本 龍哉 菊本 東陽 青山 誠 吉田 香織 山本 泰雄 盛 雅彦 杉原 俊一	太田 誠 湯元 均 信太 雅洋 柿澤 雅史 盛 雅彦 濱本 龍哉 青山 誠 吉田 香織 山本 泰雄 杉原 俊一 遠藤 晃祥 加藤 新司 長井 豊貴
小神 博 高橋 善雄 千葉 卓(外)	小神 博 高橋 善雄 千葉 卓(外)
小林 巧 (総務・財務部長) 新開谷 深 (情報部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)	小林 巧 (総務・財務部長) 新開谷 深 (情報部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)
高村 雅二 (学会研修部長) 佐々木智教 (生涯学習部長) 上原 和広 (履修管理部長) 隈元 庸夫 (学術事業部長) 久保田健太 (学術誌部長)	高村 雅二 (学会研修部長) 佐々木智教 (生涯学習部長) 上原 和広 (履修管理部長) 隈元 庸夫 (学術事業部長) 久保田健太 (学術誌部長)
鈴木 英樹 (地域リハビリテーション推進部長) 石橋 晃仁 (事業部長) 赤羽根 誠 (広報部長)	鈴木 英樹 (地域リハビリテーション推進部長) 石橋 晃仁 (事業部長) 赤羽根 誠 (広報部長)
敦賀 肇 (業務推進部長) 遠藤 晃祥 (調査部長)	敦賀 肇 (業務推進部長) 坂口 友康 (調査部長)

	平成22年度
会 長	太田 誠
副 会 長	湯元 均 信太 雅洋
事 務 局 長	柿澤 雅史
学 術 局 長	青山 誠
教 育 局 長	信太 雅洋
社 会 局 長	盛 雅彦
職 能 局 長	濱本 龍哉
支 部 事 業 局 長	湯元 均
理 事	太田 誠 湯元 均 信太 雅洋 柿澤 雅史 遠藤 晃祥 青山 誠 加藤 新司 吉田 香織 盛 雅彦 山本 泰雄 杉原 俊一 濱本 龍哉 長井 豊貴 山下 芳賀 佐藤 義文 池野 秀則 塩谷 千恵子 梅田 信吾 木村 和久 長久 武史 遠藤 力 八城 信治
監 事	小神 博 高橋 善雄 千葉 卓(外)
事 務 局	隈元 庸夫 (総務部長) 小林 巧 (財務部長) 坂口 友康 (調査部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)
学 術 局	時永 広之 (学会研修部長) 久保田健太 (学術誌部長) 佐々木智教 (専門領域部長)
教 育 局	高村 雅二 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)
社 会 局	橋本 晃広 (広報部長) 小川真太郎 (主体事業部長) 石橋 晃仁 (客体事業部長)
職 能 局	菅井 和巳 (保健事業部長) 敦賀 肇 (職域事業部長)

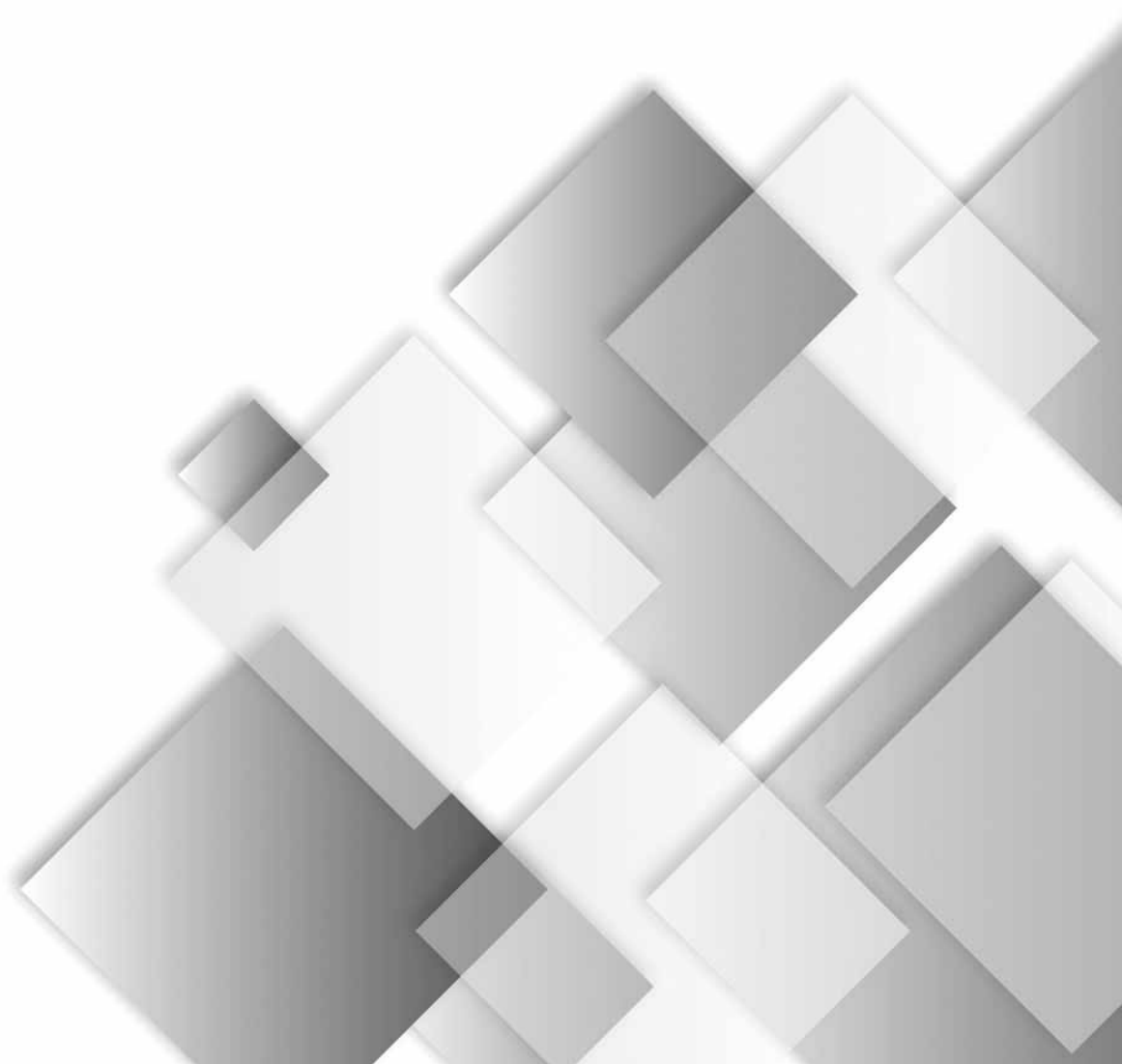
※法人法改正に伴い、平成22年11月に社団法人から公益社団法人へ移行

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
太田 誠	太田 誠	太田 誠	太田 誠
湯元 均 信太 雅洋	湯元 均 信太 雅洋	信太 雅洋	信太 雅洋
柿澤 雅史	柿澤 雅史	柿澤 雅史	柿澤 雅史
青山 誠	青山 誠	杉原 俊一	杉原 俊一
信太 雅洋	信太 雅洋	加藤 新司	加藤 新司
盛 雅彦	盛 雅彦	盛 雅彦	盛 雅彦
濱本 龍哉	濱本 龍哉	濱本 龍哉	濱本 龍哉
湯元 均	湯元 均	青山 誠	青山 誠
太田 誠 湯元 均 信太 雅洋 柿澤 雅史 遠藤 晃祥 青山 誠 加藤 新司 吉田 香織 盛 雅彦 山本 泰雄 濱本 龍哉 長井 豊貴 山下 浩司 芳賀 義文 池野 秀則 塩野谷 千恵子 梅田 信吾 木村 和久 長久 武史 遠藤 力 八城 信治	太田 誠 湯元 均 信太 雅洋 柿澤 雅史 遠藤 晃祥 青山 誠 加藤 新司 吉田 香織 盛 雅彦 山本 泰雄 濱本 龍哉 長井 豊貴 山下 浩司 芳賀 義文 池野 秀則 塩野谷 千恵子 梅田 信吾 木村 和久 長久 武史 遠藤 力 八城 信治	太田 誠 信太 雅洋 柿澤 雅史 杉原 俊一 加藤 新司 盛 雅彦 濱本 龍哉 青山 誠 藤 晃祥 遠藤 晃祥 小林 巧 高橋 尚明 梅本 尚ほり 橋田 浩雄 山本 泰雄 長井 豊貴 畑原 理恵 山下 康次 芳賀 浩司 佐藤 義文 石田 文宏 塩野谷 千恵子 佐藤 貴一 木村 久樹 森 茂 遠藤 力 大倉 修	太田 誠 信太 雅洋 柿澤 雅史 杉原 俊一 加藤 新司 盛 雅彦 濱本 龍哉 青山 誠 藤 晃祥 遠藤 晃祥 小林 巧 高橋 尚明 梅本 尚ほり 橋田 浩雄 山本 泰雄 長井 豊貴 畑原 理恵 山下 康次 芳賀 浩司 佐藤 義文 石田 文宏 塩野谷 千恵子 佐藤 貴一 木村 久樹 森 茂 遠藤 力 大倉 修
小神 博 高橋 善雄 千葉 卓(外)	小神 博 高橋 善雄 千葉 卓(外)	小神 博 高橋 善雄 千葉 卓(外)	小神 博 高橋 善雄 千葉 卓(外)
隈元 庸夫 (総務部長) 小林 巧 (財務部長) 坂口 友康 (調査部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)	隈元 庸夫 (総務部長) 小林 巧 (財務部長) 坂口 友康 (調査部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)	高橋 知里 (総務・財務部長) 坂口 友康 (調査部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)	高橋 知里 (総務・財務部長) 渡部 和也 (調査部長) 黒澤 祝 (福利厚生部長)
時永 広之 (学会研修部長) 久保田健太 (学術誌部長) 佐々木智教 (専門領域部長)	時永 広之 (学会研修部長) 久保田健太 (学術誌部長) 佐々木智教 (専門領域部長)	時永 広之 (学会研修部長) 久保田健太 (学術誌部長) 佐々木智教 (専門領域部長)	時永 広之 (学会研修部長) 竹原智行 (学術誌部長) 木田 貴英 (専門領域部長)
高村 雅二 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)	高村 雅二 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)	佐藤 公博 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)	佐藤 公博 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)
橋本 晃広 (広報部長) 小川真太郎 (主体事業部長) 石橋 晃仁 (客体事業部長)	橋本 晃広 (広報部長) 小川真太郎 (主体事業部長) 石橋 晃仁 (客体事業部長)	橋本 晃広 (広報部長) 小川真太郎 (主体事業部長) 石橋 晃仁 (客体事業部長)	橋本 晃広 (広報部長) 小川真太郎 (主体事業部長) 石橋 晃仁 (客体事業部長)
菅井 和巳 (保健事業部長) 敦賀 肇 (職域事業部長)	菅井 和巳 (保健事業部長) 敦賀 肇 (職域事業部長)	菅井 和巳 (保健事業部長) 敦賀 肇 (職域事業部長)	菅井 和巳 (保健事業部長) 石川 直人 (職域事業部長)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
太田 誠	太田 誠	太田 誠	太田 誠
信太 雅洋	信太 雅洋	信太 雅洋 盛 雅彦	信太 雅洋 柿澤 雅史
柿澤 雅史	柿澤 雅史	柿澤 雅史	柿澤 雅史
杉原 俊一	杉原 俊一	杉原 俊一	杉原 俊一
加藤 新司	加藤 新司	加藤 新司	加藤 新司
盛 雅彦	盛 雅彦	盛 雅彦	長井 豊貴
濱本 龍哉	濱本 龍哉	濱本 龍哉	濱本 龍哉
青山 誠	信太 雅洋	信太 雅洋	信太 雅洋
太田 誠 信太 雅洋 柿澤 雅史 杉原 俊一 加藤 新司 盛 雅彦 濱本 龍哉 遠藤 晃 小林 巧 高橋 尚 梅本 尚 橋田 浩 長井 豊貴 畑原 理恵 山下 康次 小山 内 芳賀 浩 佐藤 義 石田 和 塩野 千 幸嶋 悠 木村 久 森 茂 遠藤 樹 大倉 力 修	太田 誠 信太 雅洋 柿澤 雅史 杉原 俊一 加藤 新司 盛 雅彦 濱本 龍哉 遠藤 晃 小林 巧 高橋 尚 梅本 尚 橋田 浩 山本 泰 畑原 理恵 山下 康次 芳賀 浩 佐藤 義 石田 和 塩野 千 幸嶋 悠 木村 久 森 茂 遠藤 樹 大倉 力 修	太田 誠 信太 雅洋 柿澤 雅史 杉原 俊一 加藤 新司 盛 雅彦 濱本 龍哉 小林 巧 時永 広之 畑原 理恵 高橋 尚 前島 洋 長井 豊貴 梅本 尚 近藤 和 石田 亮 小山 内 佐藤 義 石田 和 塩野 千 幸嶋 悠 前田 健 森 茂 遠藤 樹 大倉 力 修	太田 誠 信太 雅洋 柿澤 雅史 杉原 俊一 加藤 新司 盛 雅彦 濱本 龍哉 小林 巧 時永 広之 畑原 理恵 高橋 尚 前島 洋 長井 豊貴 梅本 尚 近藤 和 石田 亮 小山 内 佐藤 義 石田 和 塩野 千 幸嶋 悠 前田 健 森 茂 遠藤 樹 大倉 力 修
小神 博 高橋 善 千葉 卓 (外)	小神 博 高橋 善 千葉 卓 (外)	小神 博 岡田 げいこ 千葉 卓 (外)	小神 博 岡田 げいこ 千葉 卓 (外)
高橋 知里 (総務・財務部長)	高橋 知里 (総務・財務部長)	高橋 知里 (総務・財務部長)	高橋 知里 (総務・財務部長)
時永 広之 (学会研修部長) 竹ヶ原 智行 (学術誌部長) 木田 貴英 (専門領域部長)	高國 憲二 (学会研修部長) 竹ヶ原 智行 (学術誌部長) 木田 貴英 (専門領域部長)	高國 憲二 (学会研修部長) 竹ヶ原 智行 (学術誌部長) 木田 貴英 (専門領域部長)	高國 憲二 (学会研修部長) 竹ヶ原 智行 (学術誌部長) 木田 貴英 (専門領域部長)
佐藤 公博 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)	佐藤 公博 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)	佐藤 公博 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)	佐藤 公博 (教育部長) 綿谷美佐子 (職域教育部長)
橋本 晃広 (広報部長) 仲澤 一也 (スポーツ支援部長) 石橋 晃仁 (介護予防・健康増進支援部長) 小川 真太郎 (企画推進部長)	橋本 晃広 (広報部長) 仲澤 一也 (スポーツ支援部長) 石橋 晃仁 (介護予防・健康増進支援部長) 小川 真太郎 (企画推進部長)	橋本 晃広 (広報部長) 仲澤 一也 (スポーツ支援部長) 石橋 晃仁 (介護予防・健康増進支援部長) 小川 真太郎 (企画推進部長)	橋本 晃広 (広報部長) 仲澤 一也 (スポーツ支援部長) 石橋 晃仁 (介護予防・健康増進支援部長) 小川 真太郎 (企画推進部長)
佐藤 一成 (保健事業部長) 石川 直人 (職域事業部長)	佐藤 一成 (保健事業部長) 石川 直人 (職域事業部長)	佐藤 一成 (保健事業部長) 石川 直人 (職域事業部長) 小林 浩 (地域包括ケア推進部)	佐藤 一成 (保健事業部長) 石川 直人 (職域事業部長) 小林 浩 (地域包括ケア推進部)



歷代支部長



	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
道南支部 (渡島・檜山)	越谷 一男	越谷 一男	越谷 一男	越谷 一男	越谷 一男
日胆支部 (胆振・日高)	池内 峯雄	橋本 勉	橋本 勉	橋本 勉	橋本 勉
札幌支部 (石狩・後志)	本田 勇	山中 正紀	山中 正紀	山中 正紀	山中 正紀
空知支部 (空 知)	南波 良和	金子 實	金子 實	佐藤 欣也	佐藤 欣也
道北支部 (留萌・上川・宗谷)	大場 武	大場 武	大場 武	大場 武	大場
十勝支部 (十 勝)	鈴木 誠 (旧 道東支部)	鈴木 誠 (旧 道東支部)	鈴木 誠 (旧 道東支部)	鈴木 誠 (旧 道東支部)	鈴木 誠 (旧 道東支部)
釧根支部 (釧路・根室)					
道東支部 (網 走)					

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
道南支部 (渡島・檜山)	越谷 一男	越谷 一男	高田 博光	高田 博光	高田 博光
日胆支部 (胆振・日高)	橋本 勉	遠山 英行	遠山 英行	遠山 英行	遠山 英行
札幌支部 (石狩・後志)	山本 泰雄	山本 泰雄	山本 泰雄	山本 泰雄	青山 誠
空知支部 (空 知)	花田 隆	花田 隆	林 徹哉	花田 隆	花田 隆
道北支部 (留萌・上川・宗谷)	丸山 和夫	丸山 和夫	丸山 和夫	丸山 和夫	丸山 和夫
十勝支部 (十 勝)	井上 秀美 (旧 道東支部)	井上 秀美 (旧 道東支部)	鈴木 誠	鈴木 誠	若井 克史
釧根支部 (釧路・根室)			栗本 一宏	栗本 一宏	遠藤 力
道東支部 (網 走)			井上 秀美	井上 秀美	佐々木 昇

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
道南支部 (渡島・檜山)	高田 博光	高田 博光	高田 博光	松坂 辰哉	松坂 辰哉
日胆支部 (胆振・日高)	遠山 英行	遠山 英行	遠山 英行	大道 憲一	大道 憲一
札幌支部 (石狩・後志)	青山 誠	青山 誠	青山 誠	樋口 賢一	樋口 賢一
空知支部 (空 知)	花田 隆	花田 隆	梅田 信吾	梅田 信吾	梅田 信吾
道北支部 (留萌・上川・宗谷)	橘内 勇	橘内 勇	橘内 勇	橘内 勇	橘内 勇
十勝支部 (十 勝)	若井 克史	若井 克史	鈴木 誠	鈴木 誠	長久 武史
釧根支部 (釧路・根室)	遠藤 力	石田 祥雄	石田 祥雄	佐藤 修二	佐藤 修二
道東支部 (網 走)	佐々木 昇	井上 秀美	井上 秀美	大倉 修一	大倉 修一

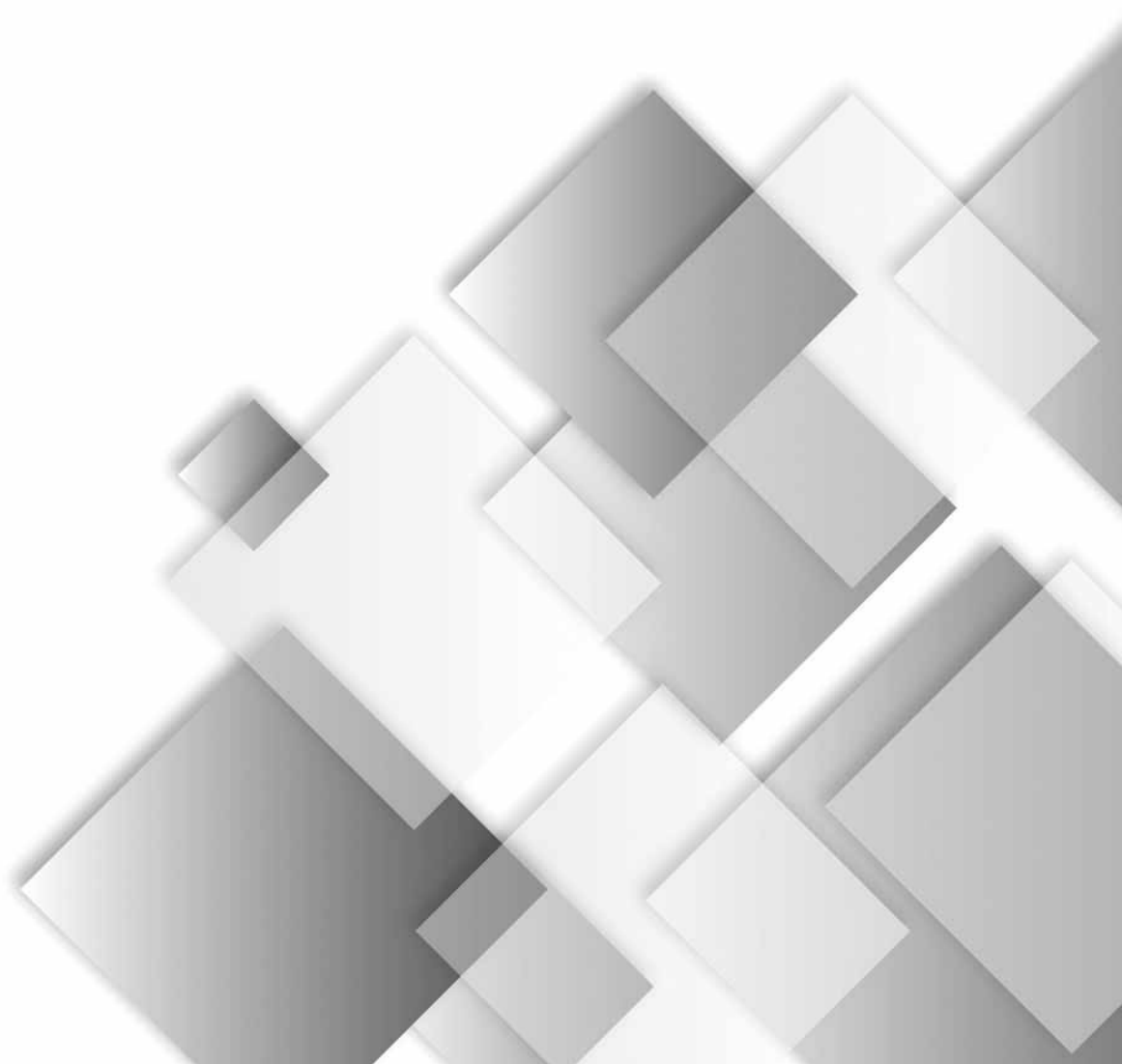
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
道南支部 (渡島・檜山)	松坂 辰哉	松坂 辰哉	山下 康次	山下 康次	山下 康次	山下 康次
日胆支部 (胆振・日高)	大道 憲一	大道 憲一	加賀谷芳夫	加賀谷芳夫	芳賀 浩司	芳賀 浩司
札幌支部 (石狩・後志)	樋口 賢一	樋口 賢一	樋口 賢一	樋口 賢一	佐藤 義文	佐藤 義文
空知支部 (空 知)	梅田 信吾	梅田 信吾	梅田 信吾	梅田 信吾	梅田 信吾	梅田 信吾
道北支部 (留萌・上川・宗谷)	木村 和久	木村 和久	木村 和久	木村 和久	木村 和久	木村 和久
十勝支部 (十 勝)	長久 武史	長久 武史	長久 武史	長久 武史	長久 武史	長久 武史
釧根支部 (釧路・根室)	佐藤 良則	佐藤 良則	佐藤 良則	佐藤 良則	遠藤 力	遠藤 力
道東支部 (網 走)	小野 博明	小野 博明	芳澤 昭仁	芳澤 昭仁	芳澤 昭仁	八城 信治

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
道南支部 (渡島・檜山)	山下 康次	山下 康次	石田 亮介	石田 亮介
日胆支部 (胆振・日高)	芳賀 浩司	芳賀 浩司	芳賀 浩司	芳賀 浩司
札幌支部 (石狩・後志)	佐藤 義文	佐藤 義文	佐藤 義文	佐藤 義文
石狩支部 (札幌を除く)	池野 秀則	池野 秀則	石田 和宏	石田 和宏
後志支部 (後 志)	塩野谷千恵子	塩野谷千恵子	塩野谷千恵子	塩野谷千恵子
空知支部 (空 知)	梅田 信吾	梅田 信吾	佐藤 貴一	佐藤 貴一
道北支部 (留萌・上川・宗谷)	木村 和久	木村 和久	木村 和久	木村 和久
十勝支部 (十 勝)	森 茂樹	森 茂樹	森 茂樹	森 茂樹
釧根支部 (釧路・根室)	遠藤 力	遠藤 力	遠藤 力	遠藤 力
道東支部 (オホーツク)	八城 信治	八城 信治	大森 達也	大森 達也

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
道南支部 (渡島・檜山)	石田 亮介	石田 亮介	石田 亮介	石田 亮介
日胆支部 (胆振・日高)	小山内康夫	小山内康夫	石川 修一	石川 修一
札幌支部 (石狩・後志)	佐藤 義文	佐藤 義文	佐藤 義文	佐藤 義文
石狩支部 (札幌を除く)	石田 和宏	石田 和宏	本田 欣誠	本田 欣誠
後志支部 (後 志)	塩野谷千恵子	塩野谷千恵子	塩野谷千恵子	塩野谷千恵子
空知支部 (空 知)	佐藤 貴一	佐藤 貴一	鈴木 智博	鈴木 智博
道北支部 (留萌・上川・宗谷)	前田健太郎	前田健太郎	前田健太郎	前田健太郎
十勝支部 (十 勝)	森 茂樹	森 茂樹	小岩 幹	小岩 幹
釧根支部 (釧路・根室)	遠藤 力	遠藤 力	宿野部晃一	宿野部晃一
道東支部 (オホーツク)	大森 達也	大森 達也	大森 達也	大森 達也



歷代代議員



平成22～23年度（第1期）

佐々木孝夫	石田 亮介	津山 新也	成田 征司	阿部 美雪	吉田 俊教
荒 万佐大	松田 泰樹	川村 昌嗣	加賀谷芳夫	大山 秀明	小泉 利光
石川 修一	山田 幸信	上野 慎一	中野 大輔	堀 伸全	新谷 芙美
中城 雄一	奥山 昌弘	時永 広之	村上 功一	竹中 宏幸	高橋いづ美
高國 憲二	横井 恵巨	鈴木由紀子	高橋 禎泰	松浦しおり	山本ともみ
義村 保善	及川 哲史	高橋 友哉	石井麻奈美	戸松 正樹	成田 雅
只石 朋仁	三谷 有司	稲野辺良太	芳賀 貴幸	齋藤 直美	坂野 康介
成田 悟志	松村 和幸	木村 正剛	加藤 良和	金田 直樹	佐々木亮介
中塩 裕也	菅井 和巳	奥山 広章	舟川 和孝	山内 智恵	竹内 英生
澤田 大輔	小川 峻一	佐藤 泰一	星 亮太郎	野村 信平	望月 智行
前川 弘恒	平塚 渉	丸山 敬光	山本 昌明	古崎 圭司	太田 匡彦
田名邊 亮	田中 希	木村 玄明	岩淵 達也	生駒 直彦	松野 弘実
大谷 忠義	石川菜穂子	吉田 幸史	七条 克哉	穴口 孝徳	海野真紀夫
塚田 鉄平	宇佐美信一	品田 慶太	大山 司	山田 浩詞	黒沢 将之
齋藤 紀子	堀 那緒子	和田 永年	原田 亮	宿野部晃一	出村 博之
青木 裕也	沼口 託也	平山 雅教	藤本 寿江	大倉 修一	仙石 英嗣
大森 達也	立花 亜希	天坂修一郎	刈谷 進一		

平成24年度（第2期）

津山 新也	吉田 俊教	山村 広樹	成田 征司	笠原 毅	荒 万佐大
石田 亮介	川村 昌嗣	松田 泰樹	加賀谷芳夫	上野 慎一	森田 学
山田 幸信	小泉 利光	植田 明子	堀 伸全	石川 修一	新谷 芙美
義村 保善	高橋いづ美	高國 憲二	時永 広之	鈴木由紀子	稲野辺良太
佐藤 喜亮	山本ともみ	村上 功一	芳賀 貴幸	亀田さゆみ	只石 朋仁
三谷 有司	奥山 昌弘	加藤 良和	及川 哲史	近藤 和夫	成田 悟志
佐々木亮介	成田 雅	山崎 彰久	松村 和幸	山本 祐司	河野 伸吾
梅原 靖孝	高橋 禎泰	竹中 宏幸	横井 恵巨	金田 直樹	高島 朋貴
菅井 和巳	奥山 広章	小川 峻一	舟川 和孝	澤田 大輔	竹内 英生
中塩 裕也	山内 智恵	西谷 淳	佐藤 泰一	前川 弘恒	野村 信平
星 亮太郎	中黒 渉	金子 直美	木村 玄明	島貫 健太	畠山 尚之
三澤 直樹	森川 奈美	中川亜里沙	南坂 仁	酒井 安弘	松野 弘実
石川菜穂子	大谷 忠義	塚田 鉄平	春名 弘一 ^{※1}	宇佐美信一	佐藤 司
千葉 恒	前田健太郎	穴口 孝徳	林 達也	品田 慶太	小野寺誠二
小岩 幹	島田 崇光	柳澤 秀明	和田 永年	沼口 託也	青木 裕也
宿野部晃一	平山 雅教	出村 博之	原田 亮	藤本 寿江	田中 茂樹
大倉 修一 ^{※2}	大森 達也	天坂修一郎	立花 亜希	生駒 直彦 ^{※3}	渡邊 剛 ^{※4}

※1 ~H23.3.31 ※2 ~H23.5.16 ※3 H25.4.1~ ※4 H25.5.17~

平成25年度（第2期）

石田 亮介	津山 新也	川村 昌嗣	成田 征司	山村 広樹	笠原 毅
吉田 俊教	荒 万佐大	松田 泰樹	加賀谷芳夫	植田 明子	小泉 利光
石川 修一	山田 幸信	上野 慎一	堀 伸全	森田 学	大藤 芙美
奥山 昌弘	時永 広之	高國 憲二	鈴木由紀子	只石 朋仁	亀田さゆみ
三谷 有司	近藤 和夫	村上 功一	竹中 宏幸	稲野辺良太	芳賀 貴幸
佐藤 喜亮	山本ともみ	成田 雅	山本 祐司	河野 伸吾	梅原 靖孝
高橋 禎泰	高橋いづ美	横井 恵巨	佐々木亮介	義村 保善	及川 哲史
山崎 彰久	高島 朋貴	成田 悟志	松村 和幸	加藤 良和	金田 直樹
金子 直美	星 亮太郎	野村 信平	西谷 淳	前川 弘恒	中黒 涉
佐藤 泰一	山内 智恵	中塩 裕也	菅井 和巳	奥山 広章	舟川 和孝
竹内 英生	澤田 大輔	小川 峻一	畠山 尚之	三澤 直樹	木村 玄明
島貫 健太	森川 奈美	中川亜里沙	南坂 仁	松野 弘実	大谷 忠義
石川菜穂子	穴口 孝徳	前田健太郎	塚田 鉄平	生駒 直彦	千葉 恒
宇佐美信一	酒井 安弘	佐藤 司	小野寺誠二	小岩 幹	柳澤 秀明
品田 慶太	林 達也	和田 永年	島田 崇光	原田 亮	宿野部晃一
出村 博之	青木 裕也	沼口 託也	平山 雅教	藤本 寿江	渡部 剛
大森 達也	立花 亜希	田中 茂樹	天坂修一郎		

平成26年度（第3期）

吉田 俊教	成田 征司	山村 広樹	荒 万佐大	川村 繁夫	石田 亮介
渡辺 有亮	松田 泰樹	笠原 毅	小泉 利光	山田 幸信	中原 義人
藤本真佐基	大和 慎祐	會津 圭崇	植田 明子	横部 護	渡辺 浩樹
高橋 禎泰	三谷 有司	佐々木亮介	加藤 良和	松村 和幸	山崎 彰久
成田 悟志	義村 保善	高橋いづ美	鈴木由紀子	高國 憲二	時永 広之
及川 哲史	山本ともみ	稲野辺良太	佐藤 喜亮	村上 功一	芳賀 貴幸
山本 祐司	河野 伸吾	梅原 靖孝	成田 雅	高島 朋貴	横井 恵巨
和泉 裕斗	佐藤 一浩	近藤 和夫	塩原 貴之	只石 朋仁	浜本 龍樹
奥山 広章	菅井 和巳	中塩 裕也	澤田 大輔	竹内 英生	舟川 和孝
小川 峻一	西島 紘平	佐藤 泰一	野村 信平	前川 弘恒	西谷 淳
金子 直美	星 亮太郎	中黒 涉	島貫 健太	三澤 直樹	畠山 尚之
森川 奈美	中川亜里沙	谷永 章子	田中 希	宇佐美信一	佐藤 司
酒井 安弘	石川菜穂子	千葉 恒	佐伯 伸也	小橋 泰文	紙 弥生
糸田 英基	前田健太郎	齊藤 浩平	和田 永年	小野寺誠二	島田 崇光
林 達也	品田 慶太	柳澤 秀明	小岩 幹	原田 亮	青木 裕也
沼口 託也	平山 雅教	宿野部晃一	出村 博之	大森 達也	田中 亮人
庄司 寛	天坂修一郎	箭内 一浩	君島菜実絵		

平成27年度（第3期）

吉田 俊教	成田 征司	山村 広樹	荒 万佐大	川村 繁夫	石田 亮介
渡辺 有亮	松田 泰樹	笠原 毅	小泉 利光	山田 幸信	中原 義人
藤本真佐基	大和 慎祐	會津 圭崇	植田 明子	横部 護	渡辺 浩樹
高橋 禎泰 ^{※1}	三谷 有司	佐々木亮介	加藤 良和	松村 和幸	山崎 彰久
成田 悟志	義村 保善	高橋いず美	鈴木由紀子	高國 憲二	時永 広之 ^{※2}
及川 哲史	山本ともみ	稲野辺良太	佐藤 喜亮	村上 功一	芳賀 貴幸
山本 祐司	河野 伸吾	梅原 靖孝	成田 雅 ^{※3}	高島 朋貴	横井 恵巨
和泉 裕斗	佐藤 一浩	近藤 和夫	塩原 貴之	只石 朋仁	浜本 龍樹
奥山 広章	菅井 和巳	中塩 裕也	澤田 大輔	竹内 英生	舟川 和孝
小川 峻一	西島 紘平	佐藤 泰一	野村 信平	前川 弘恒	西谷 淳 ^{※4}
金子 直美 ^{※5}	星 亮太郎	中黒 涉	島貫 健太	三澤 直樹	畠山 尚之
森川 奈美	中川亜里沙	安藤 章子	田中 希	宇佐美信一	佐藤 司
酒井 安弘	石川菜穂子	千葉 恒	佐伯 伸也	小橋 泰文	紙 弥生
糸田 英基	前田健太郎	齊藤 浩平	和田 永年	小野寺誠二	島田 崇光
林 達也	品田 慶太	柳澤 秀明	小岩 幹	原田 亮	青木 裕也
宿野部晃一	出村 博之	大森 達也	田中 亮人	庄司 寛	沼口 託也
平山 雅教 ^{※6}	天坂修一郎	箭内 一浩	君島菜実絵	田上 真也 ^{※7}	平塚 涉 ^{※8}
川辺 大樹 ^{※9}	吉川 幸廣 ^{※10}	尾山 陽平 ^{※11}	照井 豊 ^{※12}		

※1 ~H27.3.31 ※2 ~H27.4.20 ※3 ~H27.1.31 ※4 ~H28.3.31 ※5 ~H27.3.31 ※6 ~H27.3.31
 ※7 H27.2.1~ ※8 H27.4.1~ ※9 H27.4.1~ ※10 H27.4.1~ ※11 H27.4.21~ ※12 H28.4.1~

平成28年度（第4期）

吉田 俊教	山村 広樹	渡辺 有亮	成田 征司	荒 万佐大	川村 繁夫
松田 泰樹	畠山 功	笠原 毅	山田 幸信	加賀谷芳夫	森田 学
太田 徹	成川 智聡	横部 護	芳賀 浩司	岩城 佳孝	関山 裕司
高國 憲二	鈴木由紀子	吉川 幸廣	富永 淳	三谷 有司	清水 幸恵
只石 朋仁	竹林 康弘	稲野辺良太	佐藤 喜亮	村上 功一	芳賀 貴幸
中村 孝志	山本 祐司	河野 伸吾	梅原 靖孝	高田 博光	尾山 陽平
高橋 友哉	田仲 愛	佐藤 一浩	松村 和幸	成田 悟志	木ノ下哲嗣
高橋いず美	加藤 良和	義村 保善	塩原 貴之	宮澤 亜紀	田上 真也
岡本 康世	菅井 和巳	竹ヶ原智行	本田 欣誠	奥山 広章	澤田 大輔
小川 哲広	中塩 裕也	高橋 禎泰	村岡 法彦 ^{※1}	宇治 俊弥 ^{※2}	星 亮太郎
佐藤 泰一	中黒 涉	前川 弘恒	野村 信平	畠山 尚之	田中 希
田名邊 亮	山田 大樹	安藤 章子	境 雅樹	三澤 直樹	前田健太郎 ^{※3}
片野真奈未	齊藤 浩平	岩瀧 廣大	太田 雄介	近藤 伸英	小橋 泰文
阿部 慎一	内藤 考洋	千葉 恒	糸田 英基	金田 由希 ^{※4}	中藪 幸広
西向 弘樹	島田 崇光	林 達也	小野寺誠二	柳澤 秀明	橋本 久枝
宿野部晃一	沼口 託也	青木 裕也	出村 博之	川辺 大樹	庄司 寛
田中 亮人	箭内 一浩	天坂修一郎	大森 達也	君島菜実絵	

※1 ~H28.8.12 ※2 H28.8.13~ ※3 ~H29.3.31 ※4 H29.4.1~

平成29年度（第4期）

吉田 俊教	山村 広樹	渡辺 有亮	成田 征司	荒 万佐大	川村 繁夫
松田 泰樹	畠山 功	笠原 毅	山田 幸信	加賀谷芳夫	森田 学
太田 徹	成川 智聡	横部 護	芳賀 浩司	岩城 佳孝	関山 裕司
高國 憲二	鈴木由紀子	吉川 幸廣	富永 淳	三谷 有司	清水 幸恵
只石 朋仁	竹林 康弘	稲野辺良太	佐藤 喜亮	村上 功一	芳賀 貴幸
中村 孝志	山本 祐司	河野 伸吾	梅原 靖孝	高田 博光	尾山 陽平
高橋 友哉	田仲 愛	佐藤 一浩	松村 和幸	成田 悟志	木ノ下哲嗣
高橋いず美	加藤 良和	義村 保善	塩原 貴之	宮澤 亜紀	田上 真也
岡本 康世	菅井 和巳	竹ヶ原智行	本田 欣誠	奥山 広章	澤田 大輔
小川 哲広	中塩 裕也	高橋 禎泰	宇治 俊弥	星 亮太郎 ^{※1}	佐藤 泰一 ^{※2}
中黒 涉	前川 弘恒	野村 信平	菅田 葉月 ^{※3}	松村 真満 ^{※4}	畠山 尚之
田中 希	田名邊 亮	山田 大樹	安藤 章子 ^{※5}	境 雅樹	三澤 直樹
横井 健二 ^{※6}	片野真奈未	齊藤 浩平	岩瀧 廣大	太田 雄介	近藤 伸英
小橋 泰文	阿部 慎一	内藤 考洋	千葉 恒	糸田 英基	金田 由希
中藪 幸広	西向 弘樹	島田 崇光	林 達也	小野寺誠二	柳澤 秀明
橋本 久枝	宿野部晃一	沼口 託也	青木 裕也	出村 博之	川辺 大樹
馬淵 裕介	庄司 寛	田中 亮人	箭内 一浩	天坂修一郎	大森 達也
君島菜実絵					

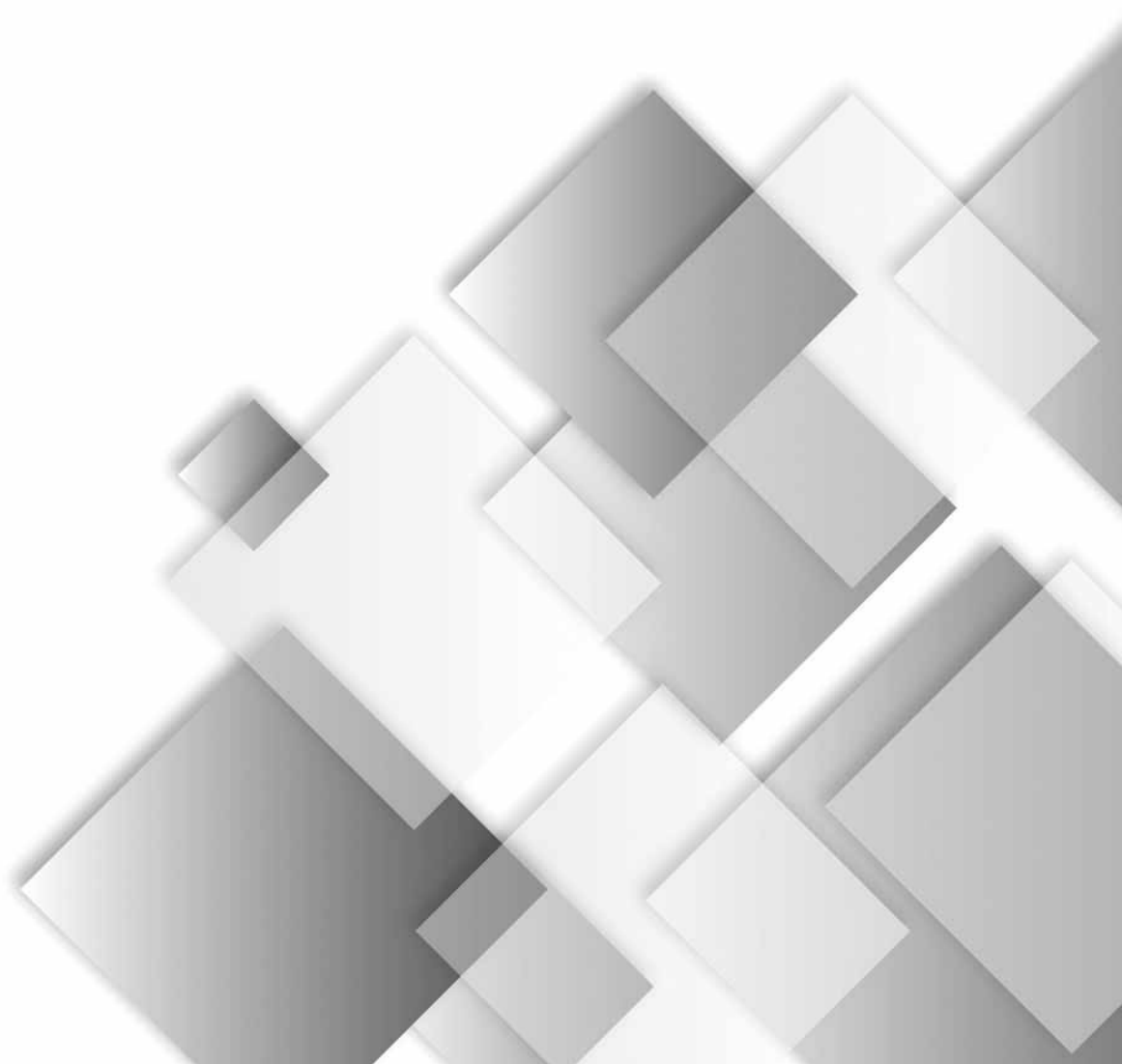
※1 ~H30.2.28 ※2 H30.4.19 ※3 H30.3.1~ ※4 H30.4.20~ ※5 ~H30.1.22 ※6 H30.1.23~

平成30年度（第5期）

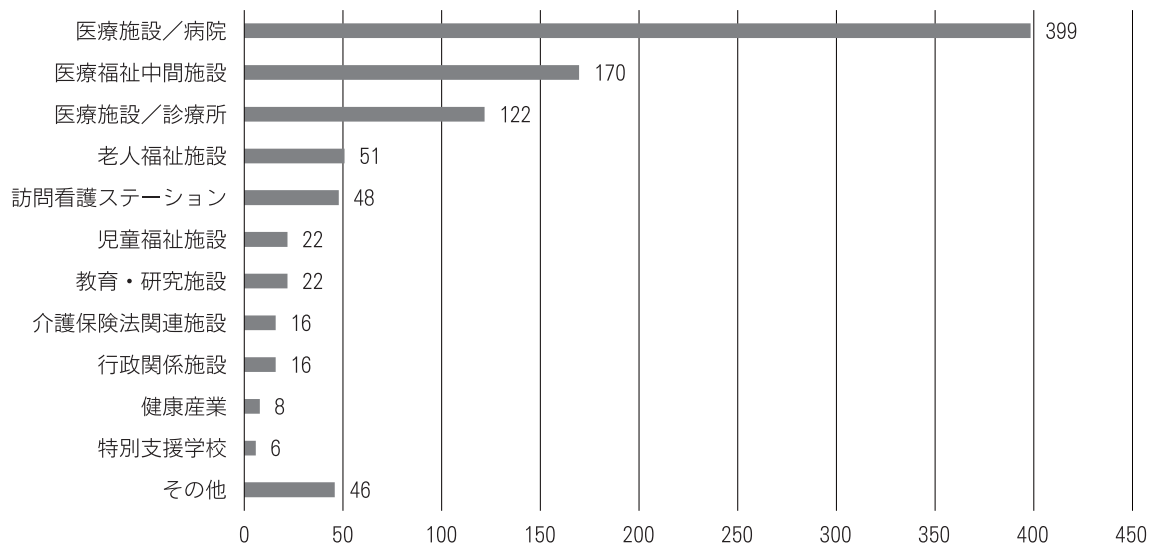
渡辺 有亮	荒 万佐大	畠山 功	羽澤 晃士	松田 泰樹	吉田 俊教
川村 繁夫	笠原 毅	成田 征司	加賀谷芳夫	成川 智聡	山田 幸信
藤本 徹	岩城 佳孝	森田 学	山口沙央里	横部 護	芳賀 浩司
尾山 陽平	山本 祐司	鈴木由紀子	高國 憲二	二ツ森竜也	松本 尚
梅原 靖孝	佐藤 一浩	河野 伸吾	佐々木智教	塩原 貴之	宮澤 亜紀
田仲 愛	佐藤 喜亮	村上 功一	芳賀 貴幸	清水 幸恵	武田 祐貴
黒澤 祝	山本ともみ	三谷 有司	只石 朋仁	竹林 康弘	阿部 隆宏
小熊 英敏	高橋 友哉	金田 直樹	高島 朋貴	中村 孝志	稲野辺良太
竹ヶ原智行	岡本 康世	本田 欣誠	中村 宏明	澤田 大輔	奥山 広章
小川 哲広	中塩 裕也	中黒 涉	高橋 禎泰	前川 弘恒	宇治 俊弥
髭内 紀幸	藤田 博之	堀 享一	原口 迪大	畠山 尚之	境 雅樹
木下 伸大	横井 健二	南坂 仁	上村 賢	尾形 俊宗	木村 和久
千葉 恒	近藤 伸英	齊藤 浩平	阿部 慎一	太田 雄介	岩瀧 廣大
松野 弘実	片野真奈未	西向 弘樹	中藪 幸広	林 達也	小岩 幹
橋本 久枝	小野寺誠二	島田 崇光	柳澤 秀明	馬淵 裕介	中川 裕貴
川辺 大樹	沼口 託也	竹内 恵一	金丸 深	庄司 寛	大森 達也
箭内 一浩	君島菜実絵	天坂修一郎	田中 亮人		



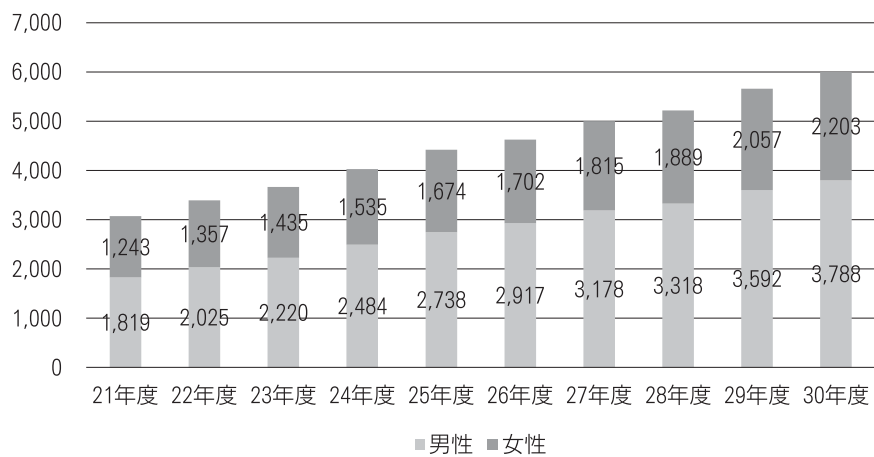
会員数・施設数



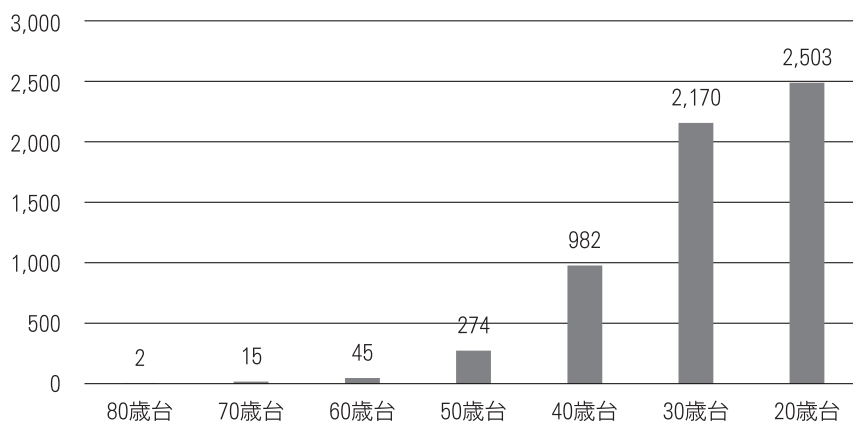
◆施設数（平成31年 1月現在）



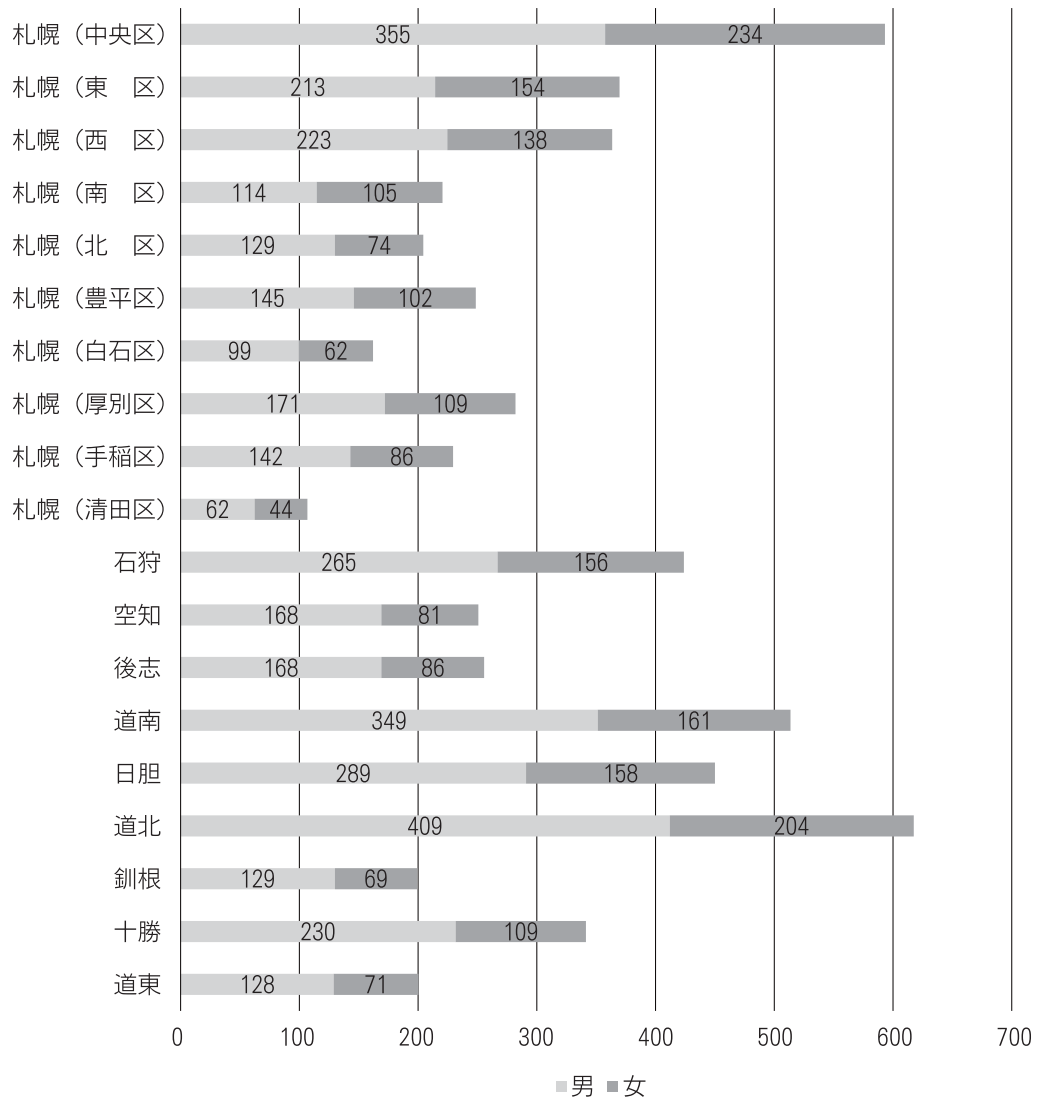
◆会員数の推移（平成21～30年度）



◆年齢層（平成31年 1月現在）



◆ 支部別会員数（平成31年 1月現在）



❀ 編集後記 ❀

記念誌作成にあたり過去の記念誌を読み直してみました。諸先輩方のご尽力があったからこそ、無事50周年を迎えることができたということを改めて痛感いたしました。

座談会では、お忙しい中、遠方より多くの会員の皆様に参加していただきました。ありがとうございます。小生も座談会の開催日前後で、東京にて研修中であった為、東京から札幌に戻りまた東京へトンぼ返りという不思議な感覚を抱きつつ座談会に参加しておりました。司会者として準備不足にて、ご参加いただいた会員の皆様には、ご迷惑をお掛けしたのではないかと反省しております…。

昨今、「多様化」という言葉がよく使われておりますが、座談会に参加いただいた会員の皆様のお話からも、理学療法士の業務についてもこの10年で「多様化」が進んでいることを実感したと共に、理学療法士の潜在能力の高さを垣間見ることができる有意義な会であったと感じました。

最後に、発刊にあたり原稿を寄せて頂きました皆様、原稿や資料を取りまとめて頂いた事務局の皆様、編集委員の皆様へ感謝致します。

編集委員 佐藤 一成



この度、記念すべき50周年記念誌の編集に携わる機会をいただき、また座談会では司会進行という役目を務めさせていただきました。当日は大変緊張してしまい、つたない進行ではありましたが参加いただいた先生方のご協力のもと何とか無事に終える事ができました。様々な視点からお話をいただき、今後の理学療法士の在り方や可能性について改めて考える貴重な時間を持つことができました。

これまで50年という長い時代の流れの中で諸先輩方が尽力し築き上げてきた理学療法の歴史に敬意を表し、さらに未来へ発展させられるよう私自身も日々励んでいかなければと感じております。

最後になりますが50周年記念誌の発刊にあたり、多くの方々にご協力いただきましたことに感謝を申し上げ、編集後記とさせていただきます。

編集委員 塚本 健太



このたび50周年記念誌編集という大任を頂き、30周年および40周年記念誌を再読し、この20年の成長と変化を再確認致しました。会員数の加速度的増加とともに士会事業が拡大し、社会の認知が高まるとともに理学療法士の働く環境も大きく変化してきました。特に本誌企画である座談会では、多方面で活躍する若い先生方とお会いし、次の10年に向けた大きな期待を感じて頂くことができたのではないのでしょうか。

本記念誌の作成にあたり、お祝いのお言葉を下さった皆様をはじめ50周年の記念事業にご協力を頂きました皆様に深く感謝いたします。そして次の10年に向けた北海道PT士会の益々の発展を祈念しつつ筆をおかせていただきます。

北海道理学療法士会50周年…実は同い歳、長いようでまだまだ若いです。

編集副委員長 高橋 尚明



思えば平成20年度に発刊しました40周年記念誌においても、編集後記の文書を書いていました。あれから10年です。この10年は北海道理学療法士会にとっても非常に変化の大きかった期間でもありました。年表の作成は40周年記念誌に比べ近年の士会活動がだんだんと増加して行っていることを改めて感じさせてくれました。

「これからの10年、何を目指すべきか」をテーマとした座談会では、さまざまな分野で活躍する理学療法士の声を会長に聞いてもらい、さらに広く会員の皆さんとも共有して今後の北海道理学療法士会の活動と理学療法士が持つべき視点を考えていくきっかけとできたと考えます。

60周年記念誌の中で語られることになるこれからの10年をより実りのあるものとするように一緒に頑張りましょう。

編集委員長 濱本 龍哉



公益社団法人 北海道理学療法士会
五十周年記念誌

発行 平成31年3月

編集・発行 公益社団法人 北海道理学療法士会

事務局 〒060-0003

札幌市中央区北3条西2丁目1 カミヤマビル4階

電話 011-213-0301 FAX 011-213-0302

E-mail office@pt-hokkaido.jp

印刷 株式会社 東和プリント
